

南国暮らしの会

2005 年 夏季 号



平成 17 年 7 月 23 日



NPO 法人 南国暮らしの会

目 次

目次				1
南国暮らしの会 平成17年度のスタートにあたり	No. 24	酒匂 景輝		2
平成17年度通常総会議事録				4
平成17年度事業計画書				5
平成17年度会計収支予算書				6
平成16年度事業報告書				7
平成16年度会計収支計算書				11
平成16年度会計貸借対照表				12
私のセブ島旅行記	No. 669	黒岩 國光		13
セブで起こした交通事故	No. 140	小沢 公子		15
神々の住む・バリ島滞在記	No. 318	小林 高明・美鈴		18
メコン川の旅	No. 735	高橋 実		20
ペナン小旅行	No. 491	岡 伸夫		23
マレーシアの退職者ビザの最新情報 2005年6月	No. 495	石原 彰太郎		29
はじめてのニュージーランド	No. 241	下元 彬人		30
ハワイ(ホノルル)の旅	No. 743	松谷 義一・幸子		33
西カリブ海クルーズ	No. 696	加藤 明		37
カナダ(ヴィクトリア、バンクーバー)旅行	No. 240	菊地 範夫・一江		40
アフリカ紀行(チュニジア編)その1	No. 40	平澤 信		43
「海外ロングステイセミナー in 熊本」どたばた記	No. 581	朝永 美代子		49
東海セミナー報告	No. 749	山本 義典		53
趣味のうどん、そば打ちを極める	No. 858	竹内 昭		57
人生ひととおりに 大いに楽しむシニアライフ	No. 814	平賀 國廣		58
国内支部長会議報告	No. 3	池田 徳三郎		62
編集後記				64



南国暮らしの会 平成17年度のスタートにあたり

理事長 酒匂 景輝

* 総会模様

平成17年度総会は天気は上々なれど、会場の雰囲気は少し荒れ模様の気配で幕を開けた。

今回の総会模様は今までの総会と一種異様な感がありましたので全会員にその雰囲気だけでもお伝えしなければと思いこの原稿を認めております。

16年度の事業報告及び決算報告、監査報告、17年度事業計画、予算案などほとんど拍子に議決されて行く。

・細則1部変更及び追加

(細則変更等の事項は会報春季号の添付資料で配付済みです。)

酒匂より変更追加の説明が行われ質疑に入る。

第9条【入退会】(10)次の事項に触れる会員は理事会に諮り過半数の同意を得て退会を勧告出来る。

③項の「本会の名称を唱った催しの場、会報、メーリングリスト等での伝聞による個人中傷、誹謗をしている者」について、本項は本会の会則には相応しくないとの動議が出される。理由は本会の会員には誹謗、中傷をするような品位のない会員は居ないとの事。

私は、南の会はそんなに紳士淑女の立派な集いだったのか、あらゆる人種(地球上の生物で最悪は人間である。殆どの生物を餌にして生きている。)の集いだと私は未だに考えは変わりません。これは私の認識不足だったのか、今まで私の耳に入ってきていた電話、FAX、伝聞等の誹謗、中傷は何だったのか??

この件について侃々諤々(かかかか)の議論になり、酒匂は黙して会員の意見を聞き感心するのみ、結局本件は総会出席者の挙手と、議長の裁量で理事会に差し戻しという事になりました。

本会は裁き場ではないと言うことを前に発言しております。会員及び理事会は確固たる証拠がないと会員の処分は出来ません。

今回の議論で、本会は格調高い人々の集いであると言うことを知らされました。これで会員の皆様方には責任も生じました。今後は絶対誹謗、中傷を(人の悪口等)しない素晴らしい人々の集いであると言う事を確認し合ったのです。今後はそのような行為は皆無になると信じております。もしその様な方が同席されたら注意するか、無視して席を外してください。それでない貴方の品位が下がります。

会の発足時はこのような誹謗、中傷をするようなことは夢にも思っていませんでした。

理事会で議決した会則が総会で差し戻しになると言うことは、会の運営はまだ健全と言うことでしょうか。

理事会ではその様な事柄は当分取り上げる必要は無いと言う事でしょう。

・理事の退、信任と・監事の退、選任

今回、理事5名(会員No.101:高澤様、No.442:平尾様、No.523:小林様、No.655:島田様、No.723:山本様、)の退任があり、7名の理事(No.6:石川様、No.240:菊地(範)様、No.281:村松様、No.462:小林様、No.700:安藤様、No.740:渡辺様、No.814:平賀様)が信任され、監事の鈴木様(No.315:鈴木様)が退任され、相談役の(No.586:磯崎様)が総会において選任されました。

新監事の磯崎様から会、会員に対する提言等は必ず文書で署名、捺印したものを提出して欲しいとの厳しい就任挨拶がありました。

退任された理事、監事の皆様のボランティア活動誠に有り難う御座いました。心よりお礼申し上げます。また新理事、監事の皆様会発展のために宜しくご協力のほどお願い致します。会員の皆様の絶大なるご支援もお願い致します。

* 南の会の現状と将来像

・ドメインの取得

この度、本会がインターネットの世界でも存在感を与えるドメイン(インターネットの

《.com》ドッドコム・グループで南の会《minaminokai》と言う法人の領域を取得)を、関係諸氏のご協力により素晴らしいドメイン名を取得出来ました。

そのドメイン名は【minaminokai.com】と言う会の通称名で取得出来ました。このドメイン名で我々会員もメールアドレス(1ヶ月ウイルス自動削除込みで千円以下)が取得出来ます。希望者はインターネット委員会にご相談下さい。

・会員増加に対応して

本会は、好むと好まざるにかかわらず、会員が増える事は必定です。今後数年のうちに、団塊世代の数十万人の方々ガリタイアされます。その人々の受け皿は、この南国暮らしの会において他にないと考えております。そのために、事務所の開設や理事の事務合理化による負担減などを、これから検討しておきたいと思っております。

これに対し、事務代行業を営んでいる業者もあるので、検討して欲しいとの貴重な提言もありました。

その昔或役人が、スペインに高齢者のユートピアを作り、日本の高齢者に彼の地で過ごして貰おうと計画されたシルバーコロンビア計画(定年退職者が円高メリットを生かし、不動産価格も安い外国に定住し、豊かな生活を送るという計画)その折外国から、日本は年寄りまで輸出するののかとの不評をかいこの計画は破綻しました。が、現在その精神を我々が引継いだようなもので、本会が予定している国々では歓迎してもらっています。

・会員証の発行

南国暮らしの会会員が会員証を胸にして恥ずかしくない行動が出来ればこの上ない事柄です。国内外で本会の会員証がステータスシンボルになるよう皆様のご協力をお願い致します。

・内閣府のNPO法人格か、法人格解消か

近年支部活動も活発になり、東京都のNPO法人格では不自由な事態になる可能性があります。その対策として内閣府のNPO法人格に切り替える必要があります。都の説明では切り替えは容易に出来る。(当初の様な取得のための申請は不要)今年度はその為の検討も進めたいと思っております。

それに平行し法人格の解消も研究する時期に

来ているようです。国の法に縛られた法人格は、果たしてこの会に相応しいのか見直す良き機会だと思えます。

・会報のバックナンバーをPCに取り込み検討

会報は現在28号まで発行済みです。が近年はパソコン(PC)での編集を行っていますが、従来はワープロなどでの編集でしたので、印刷物での保管でした。それに集中管理されていない事からバックナンバーをネット上で観ることは出来ませんでした。

会報編集委員の皆様とNo.586:磯崎様の協力のもと念願の取り込み作業がスタートしました。近い将来会員の皆様は自分のPCで検索出来るようになるかも知れません。乞うご期待。担当の皆様大変でしょうが宜しくお願い致します。

*NPOについて(再確認)

NPO【エヌ・ピー・オー Non-Profit Organization】NPOは一般的に(民間の非営利組織)と訳されます。営利を目的とせず、社会的な課題に対して自発的に取り組み、継続して社会貢献活動を行う民間団体のことです。

特定非営利活動法人(NPO法人)をはじめ、法人格のないボランティア団体や市民活動団体なども含めてNPOと言われております。

NPOもボランティア(自主的に無報酬で福祉のために働く人)も自発的に社会貢献活動を行うと言う点では同じですが、ボランティアは活動する個人、NPOはそうしたボランティアが集まり、組織的に活動している組織と言えます。

NPO法人は、その団体を国や地方自治体で認証された人格を持った団体です。と言う事で我々は日本の法により認められた法人ですので、同胞にボランティアをしながら、順に新しい会員にボランティア活動を伝承してゆく義務があると思えます。

本会は自分で楽しみながら、ボランティア活動を実践できる素晴らしい団体であると信じております。

皆様のご健康とご多幸を祈念しております。

特定非営利活動法人 南国暮らしの会 平成17年度通常総会議事録

日時：平成17年6月4日(日)13時30分～15時00分

場所：東京都大崎労政事務所・南部労政会館

出席者：234名(うち委任状182名)

司会の宮寄理事は、最新の会員総数522名であることから本日の通常総会が成立することを説明し、本法人定款第25条の規定により議長の選出について諮った。

議長の選出：橋本 慧氏が選ばれて議長となり、開会を宣言し、議案の審議に入った。

議案

第一議案 平成16年度事業総括および決算報告について

酒匂理事長の総会挨拶及び同年度の概要報告に引き続き菊地理事が事業報告書にもとづき詳細な事業報告をおこない、次いで大野理事が同年度の収支計算書及び貸借対照表にもとづき詳細な決算報告をおこなった。続いて齋藤監事から、当会は同定款等にもとづき適切に運営され、収支計算書等はいずれも正確である旨の報告がなされた。議長は同収支計算書等について賛否を諮り、原案通り満場一致で承認された。

第二議案 平成17年度事業計画および予算について

菊地理事が同年度の事業計画書案および収支予算書案にもとづき詳細な説明をおこなった。議長は同案について賛否を諮り、原案通り満場一致で承認された。

第三議案 細則一部変更及び追加について

酒匂理事長が「細則一部変更及び追加案」にもとづき詳細な説明をおこなった。本案中の「理事会が条件付で会員に退職を勧告できる」とした細則追加項目(細則第9条「入退会」(10))の第③項が対象が確定的でなく運用中が過大になる危険性があるとして種々審議された。議長は本第③項は理事会に差戻すこととして本項を削除した修正案について賛否を諮り、賛成多数で本修正案が承認された。

第四議案 新監事の選任について

議長は、定款14条第1項による新監事の選任について説明を求めた。酒匂理事長から鈴木監事の辞任に伴う新監事の立候補者の届出が無い場合、理事会において磯崎興志相談役を新監事として推挙した経過等詳細な説明がなされた。議長は新監事候補の選任についてその賛否を諮ったところ、満場一致で選任が決議された。磯崎新監事は就任を承諾した。

第五議案 理事会の選任理事の信任について

議長は、細則第11条による理事会選任理事の信任について説明を求めた。酒匂理事長から昨年の総会以降、理事5名の辞任を決議し、合わせて次の新任理事7名の選任を決議したこと及び現在理事定員20名に対し適任者が選任されるまでは当面欠員3名で会を運営する予定であること等詳細な説明がなされた。議長は理事会での選任理事の信任についてその賛否を諮ったところ、満場一致で信任された。

新任理事：石川綏夫、菊地範夫、村松幸子、小林孝、安藤公二郎、渡辺亜雄、平賀國廣。

第六議案 平成17年度役員業務分担紹介

酒匂理事長が平成17年度役員業務分担の説明を配布資料に基き、部門を一部集約すること、委員会システムを強化する等詳細に行った。


議長は本日の総会における議案の総てが終了したことを告げ、議事録署名人に金子良三氏を指名し、諮ったところ、同氏が選任された。議長は議事の進行に関し出席者の協力を謝し、閉会を宣した。

尚総会に引き続き、情報交換会で皆本氏からハワイでのロングステイの紹介があり、次に理事長との意見交換会、最後に当日ご出席の国内7支部長・副支部長(翌日の国内支部長会までご滞在)が各支部の現状と今年度の計画をそれぞれ紹介されました。


平成17年6月5日

議事録署名人

議長

橋本 慧 

出席者

金子良三 

平成17年度事業計画書

1. 事業の方針

(1) 新規事業

- * 拡大準備積立金の有効用途の具体化を計る。
- * 「会員証」を発行し、将来会員証がステータスシンボルになるよう意識、地位向上を図る。
- * 当会代表電話を統一し、代行受信システムを導入し新会員アップを計る。
- * 当会のドメインを取得し海外を含めた連絡網の更なる充実を図る。
- * 会計ソフトを購入し経理処理の合理化を図る。

(2) 継続事業

- * 会報の発行・発送事業を継続し、内容の更なる充実と迅速なる発送を目指す。
- * 当会への入会問合せ者への迅速な対応を図り新会員アップを計る。
- * 発行した「南国くらし便利帳・医療編」の改訂グレードアップを目指す。
- * HPの充実・MLの普及啓蒙を目指す
- * 支部の組織的、計画的活動のさらなる充実、推進及び1人でも多くの会員参加を推進する。
- * 情報交換会、講演会、サロン会、支部会、旅行会を開催し、会員相互の研鑽と懇親を深め、併せてこれらの活動に非会員の臨時参加を推進する。
- * わが国の退職者等を歓迎する国々の情報を引き続き収集・調査する。

2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施予定	実施予定場所・内容	備考
会報作成	会報発行(新年・春・夏・秋)	年4回	表紙のカラー化継続 商標登録証の掲載	会員相互の情報の共有化
会報発送	会報・同封資料の発送	年4回	正確な梱包発送作業と海外発送の迅速化	約10名/回
資料等製作	問合せ・入会者への資料作成送付	随時	約500件/年	4名で担当
報告書等製作	会報同封資料の作成	年4回	会員名簿・「必携」の追加資料等の作成	4名で担当
	海外くらし便利帳・医療編の改訂準備	一年掛ける	発行冊子のグレードアップ	医療介護調査委員会
	拡大準備積立金の有効利用	一年掛ける	ホテル・旅行社などと業務提携を結び、会員の利益拡大を計る。	事業拡張委員会
	会員証の発行	夏季号に同封	会員証は、外国では名刺以上に有効である。 【メンバーシップ】	会員証発行検討委員会で検討、会員担当で作成
広報活動	インターネット・メーリングリストの管理	常時	雑誌・テレビ等のマスコミも積極的に活用を計る	インターネット委員会
情報交換活動・サロン会・懇親会など	国内全支部支部総会実施 引き続き支部実情に合わせこれら行事を行う。	1回/年 随時	地域活動の推進	適時人事交流
支部活動支援	国内7支部・海外9支部に補助金支給	随時	国内支部との交流促進	海外支部の支援を強化する
通常総会	総会開催	1回/年	東京	
理事会・役員会	理事会の開催 役員会の開催	8回/年 1回/年	東京	各種委員会随意開催

(2) 収益事業: なし

平成17年度特定非営利活動に係わる会計収支予算書

(平成17年4月1日から平成18年3月31日まで)

特定非営利活動法人 南国暮らしの会

(単位：円)

科 目	前年度 予算額 (A)	本年度 予算額 (B)	差 異 (B-A)	摘 要
I. 収入の部				
1) 入会金収入	850,000	1,000,000	150,000	入会金：5,000円，想定新規入会者数：200名(前年比20%up)
2) 会費収入	2,750,000	3,115,000	365,000	会費：5,000円，想定継続会員数：423名(継続率：75%)
3) 資料売収入	350,000	350,000	0	想定有料資料請求者数：350名
4) 寄付金収入	100,000	100,000	0	
5) 基本金等利息収入	100	100	0	
6) 雑 収 入	150,000	15,000	▲ 135,000	有料名刺作成料のみ計上
7) 事業拡張準備金より繰入れ	500,000	0	▲ 500,000	計上せず
1. 当期収入合計	4,700,100	4,580,100	▲ 120,000	
2. 前期繰越	296,316	307,078	10,762	前年度決算での繰越額
3. 収入合計	4,996,416	4,887,178	▲ 109,238	1. + 2.
II. 支出の部				
1) 事 業 費	3,625,000	3,302,000	▲ 323,000	
①会報等事業費	919,000	1,005,000	86,000	発行部数アップ
②会報等送料費	468,000	531,000	63,000	発送の迅速化
③資料等製作事業費	417,000	415,000	▲ 2,000	
④報告書等製作事業費	898,000	357,000	▲ 541,000	5周年記念事業の後処理を含む。
⑤案内書製作事業費	170,000	0	▲ 170,000	「入会のすすめ」・「必携」増刷なし。
⑥広報活動事業費	106,000	140,000	34,000	
⑦講師等謝礼費	82,000	60,000	▲ 22,000	⑦・⑧の国内支部分は提出資料をベースに算出
⑧支部関係事業費	565,000	794,000	229,000	主要海外支部への補助金増額、海外支部長への「謝礼」新設。
2) 管理費	994,000	1,211,000	217,000	
①事務用消耗品費	102,000	95,000	▲ 7,000	有料名刺作成料を含む。
②諸会・交通補助費	488,000	733,000	245,000	理事数増。役員会出席者増。諸打合せ増。
③内外通信費	202,000	234,000	32,000	電話受信代行契約。
④雑費	67,000	72,000	5,000	
⑤寄付金支出	0	20,000	20,000	新規想定
⑥その他	135,000	57,000	▲ 78,000	ドメイン取得。会計ソフト購入。
3) 予備費	50,000	50,000	0	
4. 当期支出合計	4,669,000	4,563,000	▲ 106,000	1) + 2) + 3)
5. 当期収支差額	31,100	17,100	▲ 14,000	1. - 4.
6. 次期繰越収支差額	327,416	324,178	▲ 3,238	3. - 4.

注1. 会員数合計623名を想定しており、この増減により収入・経費も大きく増減するので、期央において予算の見直しを検討し、健全な運営に努める。

平成16年度 事業報告書

(平成16年4月1日から平成17年3月31日まで)

特定非営利活動法人 南国暮らしの会

理事長 酒匂 景輝

1. 事業の成果

1) 5周年記念事業の実施

平成16年度が東京都NPO法人の認証を受けてから5年目に当たることを記念して、会報秋季号同封にて当会名称入りネックストラップを全会員に配布しました。また11月14日に記念情報交換会を行い、当会会旗を発表し、卓上旗と共に各支部に配布することとしました。更に5周年記念事業の一環と位置づけて「南国暮らし便利帳・医療編」(B-5版52頁)を出版にこぎつけ5周年記念特集を組んだ会報新年号の同封として全会員に配布しました。

2) 理事の増員

法人の組織活動をより充実させるに当り、理事個人の負荷が過大にならないように、総会で理事定員5名増の承認をいただき、都の認証が10月1日降りたため、下期より20名体制の活動を行なっています。当面は手薄であった会報担当の充実を計ってゆきます。尚16年度総会で理事長が池田現会長から酒匂に引き継がれました。

3) 支部の組織的活動

総会に先立って5月29日初めて支部推進部主催の国内支部長会が行われ、各支部の組織化が検討され、従来の支部補助金支給的発想から、支部単位で支部構成員の意思を反映し予算管理・結果報告を行う方式へと方向転換することとなった。定着するまで時間が掛かるかも知れぬが、とりあえずスタートしたということである。会員数の約半数を占める関東支部は地域が極めて広範囲で逆に支部活動が難しいことから、試みに支部を10分割し地域単位に連絡者を配置し地域活動を図ることをスタートさせた。地域により差はあるが、かなり活発な活動を始めた地域が出始めた。

4) 国内支部活動

支部単位で海外視察旅行を実施する、支部大会を企画実施する又国内行事に他支部会員の参画を呼びかけるなど、各支部を組織化したための大変前向きな動きが活発になってきました。

5) 会員相互の情報交換活動

印象として会員の平均年齢が下がってきている為か、時代の流れか又は支部活動の活発化の現れか、以前行っていた会主催旅行会の不人気(アンケート結果もこれを表している)が示すように、現在は会員仲間が連れ立ってどんどん海外に足を伸ばすことが盛んになってきている。この流れにはメーリングリストが非常に役に立っている。従って少し前までのベテランが話をして皆が聞き入ると言う所謂「情報交換会」スタイルは下火になり、沢山の最新の海外情報を持った会員同士が「サロン会」的に情報を交換するスタイルが主体になりつつある。会全体としてみた場合、果たしてこの流れのままでも良いものか、一抹の不安はあるが、現在はこの方向を推進することを考えている。

6) 仲間づくり

老後を海外で豊かにという人生設計においても、楽しい人生を送る為には気のあった仲間

つくりは欠かせない要素である。その意味でも16年度は会員による「英会話教室」・「料理教室」・「囲碁教室」などが開設され積極的なクラブ活動が花を咲かせた。

7) 会予算管理

前年度より始めた会予算管理としての期中予算消化状況把握を16年度はよりシビアに行った。16年度は5周年記念事業を計画したため、事業拡張計画用の別枠の資金を一部使うなど総額470万円強のこれまでの最大の予算であったが、期中チェック・調整を行ったためか、結果としては予算との大きなずれもなく収めることが出来た。

8) 海外支部の動向

前記の結果、海外支部への負荷が例年になく大きくなりました。当会の最大の魅力がこの海外各支部とアップトゥデートな接触が出来ることであることは間違いないと思います。然るにこれまでは会として海外支部の個人的協力に頼ってきた悪い面があったと反省しています。来年度は海外支部への支援をある程度増大させる予算を組んでいます。そして会員数が増大した影響か、16年度はダバオ・ペナンと質は違いますが、不祥事が発生しました。ダバオは意識的な詐欺ともいえるものでその後本人は退会しました。ペナンは本人が意識しない良識違反的なもので、これは誰でも犯し得る行為として今後全会員の会費納入時に「良識ある行動を誓約し押印する」という行動で良識を思い出してもらおうということにしました。又海外支部長ポストが重い為か、空席のバンコク支部長は不在のまま、チェンマイ支部長は伊沢氏が就任、マニラ支部長は塩見氏から吉井氏に変わりました。

9) 当会会章の商標登録

16年10月15日付で「当会会章」(白黒版)の商標登録証第4810100号が発行されました。有効期間は10年です。

2. 事業の実施に関する事項

1) 会報作成/発行

春季号 (No. 24): 16年04月24日発行 (58頁)
夏季号 (No. 25): 16年07月24日発行 (58頁)
秋季号 (No. 26): 16年10月23日発行 (58頁)
新年号 (No. 27): 17年01月29日発行 (53頁)

2) 内外通信関係

①ホームページ

「南国暮らしの会」ホームページ上にて現在の会の国内外の活動状況をお知らせし、会の広報活動を行ないました。具体的には月に2回ペースで内容の更新を図りました。更に毎月平均30件ほどの新規問い合わせに対し会の内容の追加説明を行いました。

②メーリングリスト (ML)

会員どうしの利用は大幅に増加し、現在では350以上の人に利用されています。特に海外居住会員からの海外情報の提供が役立つものと思われます。又会員の海外渡航にも利用されロングステイの状況把握に役立ちました。今後更に新しい利用方法を研究し、全会員相互の利用を目指します。

3) 支部活動関係

①関東支部会

1) 情報交換会

- i) 16.05.30: 総会に引き続き開催 91名。
- ii) 16.11.14: 当会の5周年記念行事に引き続き開催 102名。

2) サロン会

16年度サロン会は合計9回及びミニサロン会形式で2回開催されました。9回の参加者平均は71名(最大は103名)で前年度の平均32名から大幅にアップしました。ミニサロン会は38名と18名の参加でした。いつも帰国された会員の最新現地情報の報告が行われ、活発な質疑応答に花が咲きます。一年を振り返ると報告者は海外支部がある地域をほぼ網羅しています。

3) 役員会

i) 16.05.22 21名。

ii) 16.09.11 9月サロン会を利用して関東支部各地区担当者間の連絡懇談会実施。

② 関西支部会

1) 例会(勉強会・親睦会を含む)3回実施 i) 16.7.3 28名 ii) 16.11.6 37名 iii) 17.3.6 26名

2) サロン会(ミニサロン会・勉強会・親睦会)4回実施 i) 16.5.9 28名 ii) 16.9.19 12名

iii) 16.10.3 31名 iv) 17.2.4 28名

3) 役員会6回実施

③ 九州支部会

1) 支部役員会 i) 17.1.29 3名 ii) 17.3.10 4名

2) 支部サロン会 i) 16.6.5 10名 ii) 16.8.26 11名 iii) 17.1.9 23名

3) その他 九州支部グループメールの立ち上げ(17.1.12)

④ 甲信越支部会

16.6.4,5 甲信越支部会を兼ねて、セラピーリゾートいづみのアンビエントホテルに一泊旅行会(6名参加)。

⑤ 東海支部会

1) 定例会 下記4回実施、内3回は懇親会実施。

i) 16.04.11 22名参加。

ii) 16.07.11 14名参加。

iii) 16.10.10 30名参加。

iv) 17.01.09 31名参加。

2) サロン会 合計8回実施(内7回は懇親会実施)。平均29名参加(最大44名)。

3) 役員会 i) 16.10.31 10名 ii) 17.02.27 13名

⑥ 北海道支部会

1) 16.5.22 総会・懇親会 24名

2) 16.10.10 情報交換会・親睦会 23名

⑦ 東北支部会

1) 16.9.4 総会(自己紹介・役員選出・活動計画)・情報交換会・懇親会 於仙台市 37名

⑧ チェンマイ支部会

1) 16.12.8 チェンマイ支部・提携リゾート巡り 9名

2) サロン会 i) 16.11.25 31名 ii) 16.12.20 25名 iii) 17.1.29 25名

iv) 17.2.13 29名 v) 17.3.19 16名

⑨ ペナン支部会

1) サロン会 i) 16.9.2 21名 ii) 16.12.30 15名 iii) 17.3.2 18名

4) 広報活動

① 出版関係

出版関係についてはイカロス出版から「ハワイでロングステイ」・「マレーシアでロングステイ」・「タイでロングステイ」・「オーストラリアでロングステイ」に会員が多数掲載され、更に季刊誌ラシンでは当会の紹介が毎号掲載されました。又「日経マスターズ」・

「雑誌マナー」にも当会の紹介記事が掲載されました。

②テレビ関係

テレビ関係ではNHKの「おはよう日本」、TBSの「報道特集」にも当会が紹介され会員の出演がありました。今年度は皆様の協力を得て報道関係に積極的に協力してきました。

3. 会の管理に関する事項

1) 総会関係

平成16年05月30日、会員242名（うち委任状182名）が出席して実施。

2) 理事会関係

平成16年度総会以降、下記により10回実施。

第1回理事会：平成16年06月19日、理事11名・監事1名出席。

第2回理事会：平成16年07月11日、理事13名出席。

臨時理事会：平成16年08月12日、理事10名出席。

第3回理事会：平成16年09月26日、理事12名出席。

第4回理事会：平成16年11月14日、理事9名出席。

第5回理事会：平成16年12月04日、理事18名出席。

第6回理事会：平成17年03月12日、理事15名・監事1名出席。

第7回理事会：平成17年04月09日、理事15名・監事1名出席。

第8回理事会：平成17年05月07日、理事17名出席。

第9回理事会：平成17年05月28日、理事14名出席。

3) 役員会関係

平成17年03月13日理事14名、監事1名、支部長3名、顧問2名参加して実施。当会活動に対する貴重なご意見を戴いた。

4) 会員動向

平成17年3月末現在の会費納入会員数は595名（内17年1月以降の入会者・17年度会員は51名）となっております。

以上



酒匂理事長



総会会場

平成16年度特定非営利活動に係わる会計収支計算書
(平成16年4月1日から平成17年3月31日)

特定非営利活動法人 南国暮らしの会
(単位:円)

科 目	予算額(A)	実績(B)	差異(B-A)	適 要
I、収入の部				
(1)入会金収入	850,000	770,000	▲80,00	5000円x154名
(2)会費収入	2,750,000	2,720,000	▲30,00	5000円x544名
(3)資料売収入	350,000	198,300	▲151,700	1000円x188名、会報13冊など
(4)寄付金収入	100,000	68,110	▲31,89	スマトラ沖地震被害の寄付金など
(5)基本金等利息収入	100	235	135	
(6)雑収入	150,000	18,580	▲131,420	名刺印刷代、他
(7)事業拡張準備金繰	500,000	500,000	0	5周年記念事業用
1、当期収入合計	4,700,100	4,275,225	▲424,875	
2、前期繰越	296,316	296,316	0	
3、収入合計	4,996,416	4,571,541	▲424,875	
II、支出の部				
(1)事業費	3,625,000	3,132,619	▲492,381	
①会報等事業費	919,000	888,409	▲30,59	年4回発行
②会報等送料費	468,000	504,256	36,256	年4回発行
③資料等製作事業費	417,000	130,851	▲286,149	会報添付資料の手作業による作成
④報告書等製作事業費	898,000	928,371	30,371	会員名簿、5周年記念事業の費用
⑤案内書作成事業費	170,000	141,168	▲28,83	入会のすすめ増刷
⑥広報活動事業費	106,000	85,631	▲20,36	ホームページ作成ソフト購入
⑦講師等謝礼費	82,000	20,000	▲62,00	内部講師重視
⑧支部関係事業費	565,000	433,933	▲131,067	支部との交流の回数が予想より少ない
(2)管理費	994,000	1,131,844	103,734	
①事務用消耗品費	102,000	161,986	59,986	理事、支部長交代で名刺作成増大
②諸会・交通補助費	488,000	663,180	175,180	理事増大、役員交通費補助増額
③内外通信費	202,000	102,111	▲99,88	電話受信代行契約は来期に持ち越し
④雑費	67,000	36,457	▲30,54	理事会の会場費、資料のコピー代など
⑤寄付金支出	0	34,110	34,110	スマトラ沖地震被害の寄付金を日本赤十字社へ
⑥その他	135,000	134,000	▲1,00	当会ロゴマーク商標登録代
(3)予備費	50,000	0	▲50,00	0
4、当期支出合計	4,669,000	4,264,463	▲404,537	
5、当期収支差額(1-4)	31,100	10,762	▲20,33	8
6、次期繰越	327,416	307,078	▲20,33	8

平成16年度特定非営利活動に係わる会計貸借対照表
(平成17年3月31日現在)

特定非営利活動法人 南国暮らしの会

(単位：円)

科 目	金 額	
1.資産の部		
(1) 流動資産		
現金預金	4,591,381	
流動資産合計		4,591,381
資産合計		4,591,381
2.負債の部		
(1) 流動負債		
前受金	2,775,000	
立替金	9,303	
流動負債合計		2,784,303
3.正味財産の部		
基本金		300,000
事業拡張準備金		1,200,000
次期繰越金		307,078
正味財産合計		1,807,078
負債及び正味財産合計		4,591,381

上記監査の結果、いずれも正確である事を認めます。

平成 17 年 5 月 21 日

特定非営利活動法人 南国暮らしの会 監査会

監事 齊藤 彰 印
監事 赤嶺 良彦 印

私のセブ島旅行記

東京都在住 会員No. 669 黒岩 國光

2005年2月13日、セブに向けて我が家を出発しました。約2週間という長旅ははじめてだったことに加え、ツアー以外の旅も未体験でした。出発当日は、期待よりも不安の方が大きかったのですが、川上支部長さんに成田空港からご一緒させていただき、最後まで親身にサポートしていただいたことで、不安感も薄れ、非常に楽しい時を過ごすことができました。また、セブ在住の鶴岡様、桑田様、山口様、ステイ中の平林先生、を始め南国の会の会員の方々と親しく交流する機会を得まして、改めて会の存在の大きさと有り難さを知りました。皆様本当に有り難う御座いました。

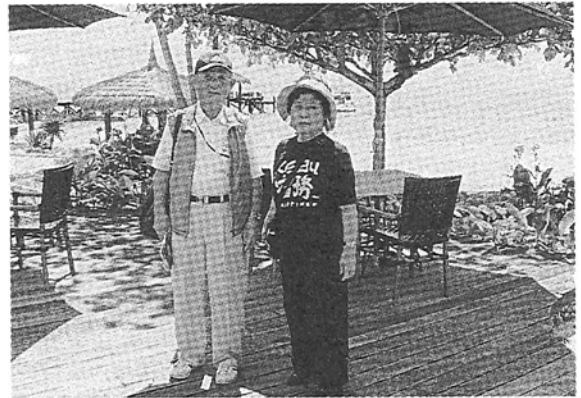
観光については先輩方の御紹介も多いので、私からは特に感じたことを記したいと思います。セブでの拠点、支部長にご紹介いただいたウオーターフロントホテルでした。お城のような大きなホテルです。私たちが宿泊した17階客室は最上階で、すぐ近くにはアヤラSC、会員の方々がお住まいのアヤラコンド1も見え、遠くにはマクタン島の飛行機の発着が見えて素晴らしい眺望でした。朝食のバイキングも南国の果物が豊富で美味しく、大変気に入りました。



ウオーターフロントホテル
桑田様コンドベランダより

セブ名物の食事会は、南国の会の会員が都合

のつくかぎり全員が集まり、2～3日に1回、歓送会を兼ねて開催されていました。南国の会の特製マップには、日本料理店、フィリピン料理店、韓国料理店などが掲載されていて、タクシーで会場に行くとき、マップを見せれば間違いなく着くので本当に重宝しました。南国でお寿司、お刺身料理が食べられるのには吃驚でした。長年、会員によって厳選されたお店で、食事会が和やかで楽しい雰囲気だったこともあり、とても美味しくいただきました。



ブルクラリゾートにて

滞在中、ボホール島に日帰り旅行をしました。ロボク川クルーズ、チョコレートヒル、めがね猿（ターシャ）などを見物。移動途中、道路工事をしている所があったのですが、現地ガイドから「この道路は日本のODAの資金で作られています」との説明を受けました。我々の税金が、この国の人々に少しでも役だってほしいと思いました。

実は残念な出来事もありました。今回の旅行中、1日、セブで1-2の設備と規模の大きな病院 CHONG HUA HOSPITAL に入院することになったのです。貴重な体験談を書くことにより会員の皆様のお役に立てばと記します。

滞在5日目の朝10時、静岡の村田さんご夫妻



めがね猿

と川上さんのお宅に集合して、風光明媚と聞いていたアレグレリゾートへの1泊旅行を約束していました。しかし、出発前の9時ごろには家内が、川上さん宅にお邪魔した直後には私も吐き気と激しい下痢に襲われました。ここ40年ぐらい風邪もひかないぐらい健康な体が、病院に行く車を待つ間、立っているのが大変という状態でした。南国でのこの種の病状は強烈だと思いました。

偶然、ご近所のリゾートに平林先生（お医者さん：私と同郷の信州安曇野穂高町がご出身）がおられたので早速病状を見ていただいた結果、病院に行って点滴をするのが一番早く楽になるとの診断でしたので、奥さんの従兄弟の先生がおられる前述の病院へ急遽入院することになったのです。

病院のベットに横になっている間、川上さんに東京三菱銀行のカードをお渡しして入院手続きをして頂きました。手続終了後お聞きした所、

○海外旅行保険 保険金一覧

カード	傷害治療費	疾病治療費	救援者費用	携行品損害	死亡後遺障害
東京三菱銀行	150	150	150	年間100	5,000
郵貯(セゾン)	300	300	200		3,000

- (備考) 1. 銀行年会費 10,500円。家族会員1人無料で、奥さんとご一緒がお勧め
 2. 郵貯年会費 3,150円
 3. いずれもゴールドカードで適用

以上は、私が所有しているカードです。会社により保証金額などが違うようですので、お調べの上、自己責任でご利用ください。

2名の治療費と1部屋1泊2日間で2万4,000円の費用をデポジットとして支払いました。翌日の請求額は¥21,744でした。支払いはカードで決済いたしました。3月20日頃カード会社より病院とホテルの請求書が来まして、4月10日に銀行口座より引き落としになりました。

入院は20畳ぐらいの広い個室に2人が枕を並べて入院という珍しい風景で、3本の点滴を打つのに翌朝5時ごろまで掛かりました。平林先生には、現地の医師と打ち合わせをして対処していただき、大変心強く有り難く感謝しております。翌日退院して、その午後からまた普通に観光が出来たのも、入院して点滴治療を受けたことと川上さんの親身のサポートの賜物と思います。本当に有り難う御座いました。

翌朝川上さんが2人分の保険会社提出書類を事務局を回り一生懸命作成して（1人分5枚）届けてくれました。保険会社への病院からの書類はOKでした。帰国後、カード会社に連絡しましたら、東京海上日動火災保険会社より書類が届きました。

ちなみに、必要書類は以下のとおりです。

- (1) 保険金請求書（同封用紙）
- (2) パスポートのコピー（日本出入国のスタンプのページ及び写真のページ）
- (3) 治療費の領収書（原本）
- (4) 診断書（原本）

事務処理は大変スピーデーで3月10日ごろ入金になりました。

参考までに新しく入会されてご存知ない方のために下記に資料をご紹介します。

セブで起こした交通事故

東京都在住 会員No. 140 小沢 公子

はじめに

今年2月末、セブで交通事故にあいました。いえ、起こしました。誠に反省すべき話ですが、その体験を南国MLに投稿しましたところ、貴重な体験としてその詳細を…というご意見を何人かの会員の方から賜り、恥ずかしながら再度会報に情報の部分を少し補足して、掲載させて頂く事に致しました。以前会報担当をさせて頂いていた私が、始めて一会員として会報に掲載する話が“楽しいセブ”では無くて“事故の話”とは、夢にも思いませんでした。

私の起こした交通事故は、現地の新聞に載り、ニュースでも取り上げられたほどの大きな事故でした。でも車が大破するほどの事故だったにもかかわらず、幸い軽い打撲と擦り傷で、一日病院にお世話になっただけで済み、現地の友人達から奇跡、「ラッキーガール、ミラクルガール」と言われました。本当に不幸中の幸いだったと思います。退院した日の午後、たまたま自分の事故のニュースを見ましたが、フィリピンらしく(笑)、ニュースでは昨日の話がその日に起きた事故として伝えられていました。その事故で私は得がたい経験をしました。

事故の原因はタイヤか何か車に問題があったとしか思えないのですが、友人の会社に行った帰り道、セブのハイウェイを走行中に突然ハンドルのコントロールが出来なくなり、もうどうにもならず、気がついた時は反対車線に飛び出し、目の前に迫ってきた大型トラックに激突、左にスピンして止まりました。トラックとぶつかる瞬間、勿論一瞬ですが、不思議と冷静で、相手のトラックに人が二人乗っているのが確認できました。ぶつかる！まずい！でももうどうにもなりません。そして再び気がついた時は助手席側に体が倒れ込んでいました。

その瞬間先ず思った事。アッ！頭は大丈夫だ、死ぬ事はないだろう。そして顔に触り、ダメー

ジが無い事を確認しました。やはり女です。その後エアバッグが開いているのを確認し、これで助かったのだと思いました。その時、運転席から煙のようなものが出て、火薬のにおいがしたので、車から火が出るのでは？と恐ろしくなり慌てて車の外に出ました。(エアバッグが開くと起きる現象だと後から聞きました。)そして外に出た私を通りがかった車の女性が助けてくれて、彼女の車の後部座席に横たわらせてくれたのです。私は自分の起こした事に気が動転していましたが、とにかく「お願い！私の携帯電話を取って来て下さい、主人に電話したい」と何度も言い続け、彼女は「あなたの体は大丈夫！落ち着いて、落ち着いて、」と私の手を取って励まし続けてくれました。ともかく後でお礼をする為に彼女の名刺をもらいました。

自分が大丈夫と分かると、心配なのは相手側です。とにかく「無事でいて下さい」と何度も何度も心の中で祈り続けていました。そして私は主人からの連絡によって駆けつけてくれた友人の車で、トラックの運転手と助手は別の誰かの車で、セブ市内にある“チョンワホスピタル”という大きな病院に運ばれました。セブでは一番高い私立の病院だと後から聞きました。友人が私に用意してくれた部屋は二部屋もある大きな特別室で、シャワー、トイレ、冷蔵庫などあらゆる物が揃っていました。一晚7000ペソでしたからフィリピンの物価から言ってもんでもなく高い部屋です。後で聞くと個室でももっと安い部屋もあったとの事です。その晩沢山の現地の友人達が心配してお見舞いに来てくれました。楽しい彼らが病室で明るくしてくれていたお陰で、落ち込んでいた気持ちも救われ、本当に有り難かったです。

私の怪我は主に左手の擦り傷で、それはどうもエアバッグが開いた時に出来たようです。衝突の瞬間も受けた衝撃も鮮明に記憶にありますが、エアバッグがある事など脳裏に無く、

気がついたら開いていた…という感じでした。開く瞬間もその感触も全く記憶していません。後は打撲の足の痛みが3日間ほど残りました。病院では念のためレントゲンを取りましたが、機械は日本よりだいぶ古いものでした。受けた治療は擦り傷の消毒と点滴です。特別室だったせいかな？何人もの看護婦さんが何度も何度も様子を見に来てくれました。一晩の入院で熱と血圧を5回程測りに来ました。医師は病室に入った直後、そして夜と朝と3度様子を見に来ました。やり取りは全て英語です。もし私の怪我がもっとひどく、もっと詳細な説明が必要だったら、かなり難儀した事でしょう。若い看護婦さん達が明るく、「あなたジャパニーズ？私も日本に行きたいわ！」などと色々話しかけてくれた事も私の心を落ち着かせる清涼剤となりました。

入院した翌朝主人が相手側の部屋を見舞いに行き、戻ってきて私に言いました。

「向こうの部屋は大部屋でエアコンも無かったぞ、お前の過失で怪我をさせたのに、何だかやりきれないな・・・」主人の言う通りです。相手側の事を考えているうちに何だか涙が出て来ました。すると付き添ってくれていたフィリピーナの友人がこう言うのです。

「心配しないで、彼らには十分だから。もしもあなたにお金が無かったら、彼らはこんな私立の高い病院には入れなかったでしょう。恐らく公立の病院で、医者の数も少なく、まともな治療も受けられ無いでしょう。相手側にお金が無く保険にも入ってなかったら、自分達で金策に走り回り何とかするしかない。だからここで治療を受けられるのは彼らにとって幸運なの。大丈夫、安心して…」無いものは払えない、どうしようもないという事なのです。

「でも事故を起こしたのは私、私が彼らに怪我をさせたのよ。」「いいえ、あなたが悪いんじゃない、これは事故なのよ。」私は複雑でした。そしてその後運転手と助手の家族が不安そうな面持ちで私の部屋に来ました。私はとにかく謝り、「大丈夫ですか？」と聞くと思ったより相手の怪我也大きくは無く安心しました。

家族の心配は病院の治療費で、この高い病院の治療費を本当に払ってくれるのか心配で私の病

室を訪ねて来たのでした。私は言いました。

「心配しないで下さい。全て私が用意しますから。本当にごめんなさい。」すると、ドライバーの妻と助手の家族が、「いいえ、これは事故なんだから、あなたは大丈夫？」と私を気遣ってくれたのです。そして「Thank you, Thank you,」と逆にお礼を言うのです。私の思いはますます複雑でした。

入院の夜に警察の簡単な事情聴取を受けました。それは一人の警察官が病室に来て、「事故の時の事覚えてる？聞かせて？」と言うので、突然コントロール出来なくなった事、どれくらいのスピードだったか等、英語で簡単に説明しました。後は何を聞かれるでもなく、現場検証があったわけでもなく、免許を取られるわけでもなく…です。あつけないものでした。

それから私を病院に運んでくれた友人がネゴシエーター(交渉人)を連れて来て、とにかく勝手に何でも「Yes」を言わない事、サインをしない事を約束させられ、何をするにも交渉人を通すように注意されました。とにかく初めての経験、何でも友人の言う通りにしました。交渉人には幾ら払えば良いのか？と聞くと彼は保険会社から手数料を貰えるから必要無いとの事…

「ああ、なるほどそういう仕組みなのか…」

とにかく入院費、治療費、仕事が出来ない間の保証と私の気持ちを彼らに用意しました。

私が病院に支払った費用は、入院一日、レントゲンを含める治療費、5日間ほどの薬代、消毒液、全部で33,000ペソ(約66,000円)でした。そして相手側にかかった費用はだいたい10万ペソ(約200,000円)でした。

収入の相場ですが、高収入としては銀行のエリートマネージャークラスで月給が約20,000~25,000ペソ(約40,000~50,000円)、普通のショッピングモールなどの販売員は日給で150ペソ位(約300円)と聞いていますから、それから考えてもいかに高い病院代か…です。私が怪我をさせたトラックの運転手と助手の日給は230ペソ(約460円)でした。

怪我をさせた相手の仕事が出来ない間の保証と私の気持ち(慰謝料)以外は車を購入した時に加入した保険が下り、病院代については5月半

ばに保険会社から小切手で既に受け取りました。車両保険の方ですが、全損、一年使用という事で、だいたい75%から80%下りると聞いていますが、まだです。7月にセブに戻った際に受け取れると聞いていますので、この会報が完成する頃には下りているはずですが、友人からともかくせかさないとどんどん遅くなるので、保険会社に何度も電話を入れたほうが良いと言われました。私の友人がマニラで事故にあった時も最終支払いまで半年ほどかかったそうです。

彼らが退院の時に交渉人が“これ以上何も要求しない”という書類にサインを貰っていました。ここではそれがとても大事なことのように。確かにその通りなのでしょう。何もかもが日本と違い、それもまた少々複雑な思いだった事も事実ですが、綺麗事は言えません。また、私のケースは相手側がとても良い方達だったとも言えるのでしょうか。

それにしても今回の事故に際しては、交渉人の事をはじめ、友人にどれだけ助けられた事でしょう。私達だけではどうにもならなかったと思います。この国にはこの国のルール、やり方がある。私達はセブにロングステイを始めてまだ一年、知らなければならぬ事が沢山ありますが、知ったところでいざという時、果して自分達だけでどこまで対処出来るのでしょうか？

やはりその土地の友人達の助けがどれだけ心強いかを今回思い知らされました。

ともかく彼らの退院を見届けて、私の落ち込んでいた気持ちも少し軽くなりました。

最後まで主人と私は「Sorry, Sorry,」彼らは「Thank you, Thank you,」でした。

この事故の経験で私が目の当たりにした現実それは「力の無いものはなす術が無い・・・」ということでした。

事故の後、その事を何度も何度も考えました。私達は同じ人間です。誰が上でも下でも無いはずですが。事故を起こした私を責める事も無く、むしろ気遣ってくれた被害者の家族、もし高い病院代の支払いを心配し、私を責める事など出来ない現実があるのだとしたら、それは何て悲しい現実なのでしょう。

でも、「これは事故なんだから、あなたは大丈夫？」という思いやりある言葉を、私は彼らの心から感じました。何て豊かな心なのでしょう。私はその心の豊かさに触れたくてフィリピンを第二の故郷に選びました。それが私の正しい選択であったことをあらためて痛感しています。そして私が今あらためて思っている事。私はここで、私が関わった人達に少しでも何かを還元して行きたい、外国人である私が異国の地に居候させてもらう感謝の気持ちとして。

最後に…

事故後、全ての事が済み落ち着いてから、病院、自宅にお見舞いに来てくれた友人達、助けてくれた友人達にお礼をする為にささやかな食事の会を催しました。何より私が招待してお礼を言いたかったのは、私を現場で助け出してくれた女性アグネスでした。彼女のために買ったハンドバッグを「お礼に…」と差し出すと、「私もあなたにプレゼントがあるの…」と思いがけなく一冊の小雑誌をもらいました。それは友情に関する沢山のメッセージが掲載された短編詩集でした。「すてきな本を有難う、でも私は既にあなたから友情をもらった。あなたが私を助けてくれた時から…。」

海外近況報告

セブ在住

会員No. 421 山口 文夫

セブで効能あらたかな毛髪に良いシャンプー、ヘアコンディショナーを見つけました。

前からあったらしいのですが今回聞きつけましたもので、、、。

私はまだ試してないのですが、試した人に聞いたら明らかな効果があったそうです。

その人は現在半分くらいはげてるのですが、使用前はあなたくらいだったと、南国の会員でかなりはげた人に言っていました。

一本約700円でスーパーで売ってます。

神々の住む・バリ島滞在記

四国在住 会員No. 318 小林 高明、美鈴

南国メール、会報作成、発送作業ではいつも大変お世話になり、心から感謝いたしております。会報担当の龍野様から投稿依頼を受け、文章下手ではありますが、お役に立てるのであればと引き受けました。

私たちとバリとの出会いは、3度目です。

2000年5月 HISパックスツアー（3泊5日）リッツカールトンホテルライフ、夕日のディナー、プライベートビーチ昼食、エステ等、家内は大満足でバリファンになりました。

2002年2月 個人旅行にて20日間（ウブド15日、サヌール5日）。何にもしないのんびりステイで、多くの友達が出来ました。

今回、2005年3月7日～26日 ウブド（7～15）サヌール（16～25）と、山と海半々のステイを楽しみました。航空券は、JTBでエアーパラダイス航空の格安航空券、37000円（一人）をゲット。事前調査では、札幌 Sさん、東京 Kさん、バリのKさん、横浜 Aさん他大勢の皆さんに情報、アドバイスをいただき、感謝、感謝です。

3/7（初日）

関空発13時の為、前夜のフェリー（東予港～南港）で関空へ。エアーパラダイス航空はバリに本社を持ち、昨年11月から関西～バリ間のダイレクト便を就航させました。食事、サービスも問題なし。現地時間17:00定刻到着。迎いの車でウブドのホテルへ。

3/8～15（ウブド）

3月のバリは、宗教行事の多い月ですが、今年はカルンガン（お盆の入り）、クニンガン（お盆の送り）、ニュピ（ヒンズーのお正月）が3/9～17日迄有り。

お祭行事中はお店のお休みが多く少し不自由でしたが、ジャランジャランの途中ではあっちこっちで日本の昔を思い出すお祭で大いに楽しみました。



ウブドでの祭り

（ベンジョールは七夕さんの笹飾りと良く似ています）

特にニュピ（お正月）のときは、バリから飛行機も飛ばない、観光客も出歩けない、お店は全部お休み、火も使わない？、電気も付けない？と言われてっていますが、飛行機、観光客外なし、お店が全部休みなのは本当でしたが、ホテルの敷地内はOKなのでホテルで食事をオーダーしました。

ニュピでの楽しみは、星空。これは他の南の国でも体験しましたが、一番の御馳走ですね。いつもは周りの明かりが有りますが、この日は

かりはロウソクの照明で足元を照らし、何回も星空を見ながら還暦のハネムーン気分を楽しむ事が出来ました。(参考：バリの行事は、会報2005年新年号に小林繁之さんが詳しく投稿されています。)

ウブドでもう一つの見つけもの。それはアドガボのフレッシュジュースです。これは出かける前の事前情報でいただいたのですが、はまり込んで、行く先々で注文しました。ソフトな口当たり、何か体に良さそうな感じ。是非皆様にもお勧めです。

3/16～25 サヌールへ移動

前は5日滞在で土地勘が少し出来た程度でしたので、今回は少し探訪を試みました。最初の泊まりは、ナタバレビィラ。8個の小さなビィラで、5日間75ドル。後半はバリガタリゾート50ドル。宿泊の手配はサヌールの友人Fさんに案内してもらい、部屋を見ながら決めました。サヌールはヨーロッパ人が多く落ち着いた雰囲気が入り、ステイ地に決めています。



サヌールの海辺

情報収集はFさんの奥様から食事、買い物、お茶、ネットカフェ、両替等の情報を元に行動をしましたが、はずれはありませんでした。しかし、F夫婦と2回ほど御一緒しましたが、一番印象に残っているのは、バリには一つの物に4つの価格があるという言葉でした。

私どもも言葉では判っていたのですが現場に出くわすと啞然としますね。

1. バリ語を話す人の価格

2. インドネシア語を話す人の価格
3. 英語、その他言語を話す人の価格
4. 日本語を話す人の価格

Fさん夫婦も足掛け5年のバリ住まいですが、現地食堂での値段が、外国人価格から現地の人価格になり、やっと現地に認められるようになったそうです。

最後に、今回最も楽しみにしていたヌガラのジェゴグ(竹の楽器演奏)をご紹介します。ジェゴグはウブドで3回聞いていますが、本場ヌガラの評判を多くの人から聞いていましたので、今回初めて演奏に触れ、感動しました。

(機会があれば、皆さんにも是非お勧めします。)



ジェゴグ体験

感想は、

- ①竹楽器の素朴な澄んだ音と迫力、演奏者は近所の農家の方と聞いてビックリ。早速、CDを購入して我が家で聞いて思い出しています。
- ②ヌガラまでの途中、バスの車窓から見る海、山、棚田。特に棚田はバリの観光案内に乗っているウブドの棚田とはスケールの違いにビックリ。私どもが知っているバリとは違う一面を見て、益々バリにはまり込みそうな印象です。

(サヌール～ヌガラ間はバスで約3時間の小旅行)

長々と駄文にお付き合いいただき、ありがとうございました。南の会に入会して5年ですが、ロングステイだけでなく、新しいお友達も増え、人生をエンジョイライフ中です。この場を借りまして厚くお礼を申し上げます。

メコン川の旅

千葉県在住 会員No. 735 高橋 実

シーサンパンナ

長年続いた戦争や内乱が終わり、平和を取り戻したメコン川流域の国々へ一般の旅行者が自由に行けるようになったのはそう昔のことではない。早かったところで20年前、最も遅かったカンボジアは10年ほど前からではないだろうか。私が一度見てみたかったメコン川に初めて出会ったのは1991年4月に雲南省の西南端にあるシーサンパンナ（西双版纳）へ行った時のことだ。

タイと同じ民族のタイ族が多く住むシーサンパンナは水かけ祭りの真っ最中だった。昼間、路上では激しい水のかけあいでホテルから一歩出ると全身ビショリ。メコン川に行くとペーロン（竜船）競争で大歓声が沸いていた。夜には広場でタイ族の民族衣装を着た娘さんたちが輪をつくって踊り、お父さんたちが紙製の大きな好明灯を空高く上げ、その民族独特の衣装を着た多彩な少数民族も見えたりと大変賑やかだった。



民族衣装を着て祭り
見物に来たハニ族の女性

ただ、ここの水かけ祭りには肝心の仏像がどこにも登場しない。シーサンパンナでこの仏教

行事が復活されたのは、その年の数年前からだ。しかし、事実上制限された信教の自由しかない中国の事だから、人が多く集まる場所では公安が自動小銃を持って警戒している。僧侶も修行を積んだ年配の僧侶ではなく、青年や子供ばかりだ。ある寺院の20代の住職は、国境を越え、タイまで巡礼に行って仏教の修行をしてきたと話していた。チベットに行った時も感じたことだが仏教の伝統が断絶していると思えない。ラサで買い求めたマンダラ画よりもネパールのそれの方が明らかに上等であった。

州都の景洪から船でメコン川を下った。所々に少数民族の高床式の集落が見え、小高い山々にはゴムの木がきれいに植林されている。水牛が水に浸かり、川で水浴している人も見える。体に当たる風が涼しくとても気持ちが良い。メコン川を見たいという希望が叶った時であった。が、旅もここで終わり、この先の国境が当時まだ開いていなかった。行けないとなると行きたくなくなる。お金を貯め仕事をやり繰りし、いつかラオスに行ってやろうと心に決めたのであった。

ビエンチャン

1996年4月、この時も水かけ祭りの時期を選んでラオスのビエンチャンに行った。ラオスでは水かけ祭りをソンカーンといい、ピーマイ・ラオ（新年おめでとう）と言いながら水をかけ合う。私は分かっていたのでカメラをビニール袋に入れ、短パンにサンダル履きで頑張ってみたものの、何倍も逆襲を受け散々だった。

知人から紹介してもらった地元の女性の家族が住んでいるビエンチャン近郊の村を訪問した。普通の家庭がどんな正月を過ごすのか見てみたかったからだ。知人とともにその家を訪ねると、お父さんが遠い日本からよくきたと歓迎してくれ、裏の露天の台所で料理をしていたお母さんなど女性たちも笑顔で迎えてくれた。

お父さんの案内で村の寺院に行くと、村人た

ちが大勢集まっていた。境内を子供たちが嬉々として走り回り、本堂では大人たちが飾りを作ったりしている。仏殿から聞こえていた読教の声
が止むと、普段大事にしまわれている仏像を、僧侶が仏殿から運び出して外の小さなお堂に置く。さっそく村人たちが仏像に花を散らした水をかける。子供たちは仏像の下にもぐって水を頭に受ける。仏像に触れた水は御利益があるのだそうだ。

その夜は、親戚の人や友人、知人が大勢集まってパーシーの儀式が行われた。お祈りの後、互いの健康を唱えながら相手の腕に儀式で使った糸を結ぶ、私の腕にも何10本もの糸を結んでもらった。



**パーシーの儀式。健康を
祈りながら糸を結びあう**

パーシーが終わると宴会だ。たくさんの料理を花ゴザの上に並べる。どれもメコンで捕れた魚、自家製の野菜と米、豚肉などの食材を使った郷土料理でとてもおいしい。酒をもっと飲め、料理をもっと食べろ、ラオスの料理の味はどうだと、もてなしてくれる。そのうち宴を庭に移して踊りが始まる。男女がペアをつくりフォークダンスのように踊る、動作は簡単なのですが覚えることができた。

翌日、お父さんたちと一緒に先祖の墓参りに昨日の寺へ行った。30人ぐらいの縁者と境内にある墓の前で座って待っていると10人ものお坊さんたちがやってきた。お坊さんたちが墓に向いて教をあげ、参礼者への説教が終わると、お父さんはお坊さんにご馳走を振るまい、参礼者にお礼の言葉を述べる。日本の法事とほとんど同じだ、費用が高く付いて10人ものお坊さんは

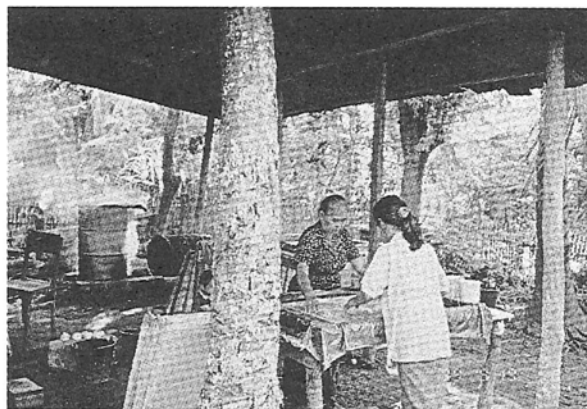
とても呼べないが。境内で円錐状に砂を盛っている人たちがいるので聞いてみると、この砂山は仏様（日本でいう須弥山？）だ。山を造った後、飾り付けをしてお線香をあげ、お祈りするのだという。

ラオスの水かけ祭りは、盆と正月が一緒にきたような賑やかさだ。特にどこの町や村も子供が多いから、子供たちの浮かれた表情がこちらの心まで浮き浮きさせてくれる。

ルアンパバーン

1999年9月、ラオスの古都、ルアンパバーンに行った。珍しく妻と一緒になので雰囲気がよさそうなホテルに泊まった。ルンパバーンはメコン川と山々に囲まれた小さな盆地にあり、16世紀までランサーン王国の都だったから寺院の数も多く落ち着いた町だ。

メコン川のそばにあるワット・シェントーンを訪れた。モザイク画が美しい寺で人気がある。入り口の階段を上った横の小屋にボートが2艘置いてあった。ラオス語でブン・スワンファというボートレース大会に使うボートのようだ。ルアンパバーンのものが最も有名で、男たちが一番熱く燃えるレースだ。このボートは水の神であるナーガ（竜）だとされる。インドが起原のナーガ信仰は中国でドラゴンとなり、日本でも龍伝説となったが、メコン流域でも神なのだ。



ルアンパバーン郊外の紙すき家内工業

ラオスでは精霊信仰も健在だ。草木虫鳥魚すべてに精霊（ピー）が宿っていると人々は本気で信じ、恐れているのだ。かつてランサーン王国では精霊信仰を廃止し、親密な交流をしてい

たチェンマイのランナー王国から、仏典とともに高僧を招いて仏教を奨励した。しかし、仏教が盛んになっても民衆がピー信仰を止めることはなかった。こうした宗教観は日本人がラオスにきて心地よさを感じる一因かも知れない。

ルアンパバーンの町にモン族の広場と呼ばれる青空市場がある。ここではモン族の女性たちが銀製品や手織物、刺繍、食料、鉄製の農業用具などを売っている。私たちはおばあさんから蒙の生活を描いた刺繍を1枚買った。いま我が家のプリンターの上に埃避けとして置かれている。

モン族の歴史は凄まじい。中国南部に居住していたモン族（中国では苗族）は蛮族と蔑まれ、清王朝に対し度々反乱を起こしたが敗れ、さらに山深い地やベトナム、ラオスへ逃げ込んだ。だがここも安住の地ではなかった。ベトナムの独立戦争やラオス内乱では最前線に配置された。ベトナム戦争時には米軍に利用され、結局米軍の負けとともにラオス軍に報復された。

タイに逃げようとして射殺された幾人もの蒙の死体がメコン川に浮かんだとピエンチャンで聞いたことがある。いまもタイにモン族の難民居住地があり、米国に受け入れられたモンも米国市民からインベダと呼ばれ蔑視を受けている。そんな過酷な歴史を持つモン族だから、これからは平和に暮らせるよう願わずにいられない。

パクセ

2004年9月、今回は初めてバックパックを背負って旅をした。バンコクから夜行寝台列車でノンカイまで行き、ラオスに入国。ピエンチャンからメコン川沿いをバスで南下してサワンナケート、パクセ、カンボジアのシエムリアップ、プノンペンを廻ってベトナムのホーチミンまで行って来た。ただパクセとシエムリアップ間は国境越えが厳しそうだったので飛行機で移動した。

出発して5日後パクセに到着した。パクセはラオス第2の都市とはいえ、大きな市場とメコン川沿いに並ぶ屋台以外見るべきものは何もないフランスの植民地時代に造られた新しい町だ。どの町でも見かけた日本人の旅行者もさすがにここでは見ない。私が泊まったゲストハウスに

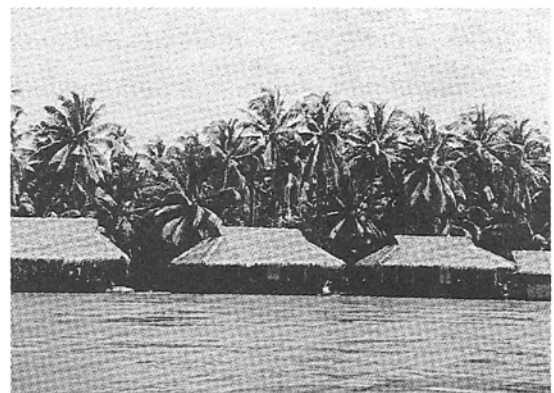
滞在中の青年海外協力隊の隊員と遇っただけだった。

町をぶらぶら歩いていると、子供たちが路上でなにやら夢中で遊んでいた。10mほど先に置いた草履を的に自分の草履を投げあっている。他愛無い子供の遊びだと思ったのだが、的に当たるとお金が飛び散った。草履の下にお金を置き、そのお金を取り合う賭け草履投げ遊びだった。夢中になるはずだ。

住宅街では鶏を飼っている家が多い。さすが本場だけあって軍鶏（シャモ）の訓練しているおじさんたちがいた。シャモの飼い主のおじさんは「俺のシャモは強いよ」。別のおじさんは「警察がうるさくないかって、袖の下を少し渡せば大丈夫だよ」。「明日、××××で闘鶏をやるから、あんたもこないか」というようなことを言っていた。拙い会話だったので定かではないが、まったく、大人も子供も勝負好きだ。

パクセが県都のチャンパサック県は、カンボジア人と同じクメール系の人が多い。主な観光地としてはワット・プーとメコン川の滝がある。ワット・プーはプレアンコール時代のヒンズー遺跡で世界遺産に指定されている。メコン川はカンボジアとの国境辺りで滝になっている。

滝の上流部は川幅も20kmほどに広がり、無数の島があり、川と島が複雑に絡み合いまるで迷路のようだ。この一帯をシーバンドン（4千の島々）と呼ぶ。メコン川に橋が開通したこともあって、バンコクからやってくる観光客も多い。私がチャーターした車を、タイ人を乗せた観光バスが何台も追い越して行った。東南アジアでも大衆旅行時代が始まったようである。



シーバンドンのコン島。葦葺きの家と椰子の木が美しい

ペナン小旅行

東京都在住 会員No. 491 岡 伸夫

【今回の旅行を思い立った背景】

1. 「ささやかな退職祝い。」

本年初より「サンデー毎日」になったお祝いとして豪華でなくても一段落をつける何かをしたかった。

2. 「格安なツアーに対して旅行日を気にする必要が無かった。」

足立さんご推薦の「トクー」によるキャンペーン価格で、最安値は¥39,800だったが、2番目の安値(¥40,800)の旅行日(4/12~16)を選択。(実際には、「トクー会費」が上乗せされ、このケースの場合¥4,200なので、実質ツアー料金は、¥45,000だが、それにしても格安!)

3. 「国内旅行よりかは海外旅行。」

格安ツアーの場合は今や海外でも金額的に安く、ものに依っては国内旅行の方が高い場合が結構ある。今後は積極的に海外を攻めるつもり。

4. 「飼い犬の預けが、車の預け場所でリーズナブルな価格で存在していた事。」

飼い犬を預ける場合は1週間程度が限度。

(料金的にも、イヌのストレスの観点でも)当該ツアーが5日間だったので行くか、という気になった。

5. 「3ヶ月前のキャンセルした旅行に対するリカバリーショット」

本年1月に、あるツアーでシンガポールの格安なものがあり予約していたのだが、直前になってイヌの調子が悪くなり、預けるにあたり心配になったため急遽3日前になってキャンセルした。(キャンセル代¥20,000)そのリカバリーショットとしてどこでも良いから行きたかった。

6. 「多くの皆さんがLSされているペナンを調査したかった」

今回の格安ツアーは、ペナンもしくはランカウイのどちらでも同料金のキャンペーンだったので、それからすればランカウイを選択するところだが、LSで人気のペナンがどの様な所なのかを1度は見てみたかった。

【「ペナン島5日間」旅行日程】

4/12 (火) 10:30 成田空港発

4/12 (火) 【夜18:45】 ペナン到着 現地係員により空港からホテル迄送迎

4/13 (水) 【終日】 自由行動

4/14 (木) 【終日】 自由行動

4/15 (金) 【午前】 自由行動

【午後または夜】 現地係員によりホテルから空港迄送迎

4/16 (土) 7:00 成田空港着

ホテル名: コプトーン・オーキッド・ペナン (タンジュンブンガ)

【旅行費用】

総計 (ペナン現地での生活雑費用を除く)

=> ¥142,855 / 2人

1. ツアー関連料金 => ¥96,880 / 2人

- ツアー代 → ¥40,800

- 成田空港使用料 / 出国税 → ¥3,440

- トクー社手数料 → ¥4,200

2. 成田駐車場料金 => ¥3,150 / 5日間

- 駐車場代 → ¥525 / 1日

- 保険代 → ¥525

3. ペットホテル料金 => ¥13,125 / 5日間

- ホテル代 → ¥2,625 (大型犬) / 1日

- ドッグフード (5日分) は、持ち込み

4. オプション (OP) ツアー料金 => RM990 (¥29,700)

- Mr. Sの市内観光 (4/13 PM)

→ RM120 / 2人, 3時間半

- ペナンヒル夜景&夕食 (4/13 夕方夜)

→ RM170 × 2人

- モンキービーチ&釣り&バーベキュー

(4/14 AM, PM) → RM160 × 2人

- 足ツボマッサージ (4/15 PM)

→ RM90 × 2人 + RM30 (妻の肩ツボ)

【旅行に先立って準備した事。】

1. MLに海外お出掛け情報を出すと共に、現地

の方々、双方のスケジュールが合えばという条件の下に『会えれば楽しいですね!』との呼びかけを、負担にならない様な表現で掲載した。

2. 木村さんから大変に御丁寧かつ御親切な内容の「ペナン生活情報」なるものを個人メールにて頂戴致し、到着した時の心得、両替の場所、タクシー利用の注意から始まってペナン生活情報に至るあらゆる情報を手にする事ができた。

3. ペナンでLSを開始した小林さんとは個人的にも親しかったので、スケジュールが合えばという条件で『現地についてから連絡し合ってお会いしましょう』とのメール交換をした。(予定では、2日間の内2日目の都合の良い時間に、と。)

4. 今回の旅行は、LSの下見と言うことではなくて、皆さんのLSしているペナンとはどんな所なのかを観光を中心に捉えたく、現地での丸2日間のフリータイムの過ごし方を検討した。結果、OPツアーを選択するのが良い(現地LSしている方々に足労を掛けなくて済む)という判断をし当ツアー会社から情報を取り寄せた所、RM160前後/1人のものがあるという事がわかった。

5. 上記OPツアーを、日本では予約せず(現地での2日間のスケジュールが確定できなかった事と、現地で突然空いた時間であっても該当ツアーをあてこむ事が可能だろうと思い) どうにかなるだろうと、気楽に考えた。

6. 木村さんからは、観光を希望されるのであればお友達を紹介していただけるという事で、大体の料金を知らせてもらった所、上記4.の料金とほぼ同等の感じだったので、さっそく紹介していただく事にして2日間の内の最初の日に御願ひしたい旨メールした。(4/12夜ペナン到着ホテルチェックイン後に、紹介いただいたMr.Sに翌4/13の観光の時間確定のTELをする事にした。)

7. 現地でのダイナミックな連絡が可能な様にケイタイを手に入れたく、石原さん及び木村さんにメール連絡した所、木村さんからMr.Lに御願ひしていただけるという事になった。(ペナン到着後早々に、Mr.Lにケイタイ購入依頼の為のTELを入れる事にした。)

8. 一方、石原さんのオフィスでも同様のOPツアーがあるのかメール交換した所、LS下見用の

ツアーはあるが観光目的のものは無いという事で、上記4.から、石原さんの所のツアーはこの次の本格的に下見に来た時の楽しみとして廻すことにした。

9. Skypeで頻繁に交信していた深井さんに、もし、ガーニーパーク周辺に行けたら声をかけさせていただく、という様な話しにさせてもらった。

10. ペナン滞在は2日半しか無いので、無駄な時間が発生しない様、あらかじめ綿密にスケジュールしたかったのだが、そういう訳にもいかなかったので、現地にて空きが発生したら即OPツアーのどれかを確保するという算段をした。

【実行動内容】

4/12

— 成田を10:30に発ち、KL経由ペナンに19:00(時差1時間)に到着。約9時間半のフライト。
— 当ツアーの現地スタッフ(リキさん)の出迎いでコプトーンオーキッドホテルまで約30分。リキさんからペナンの概略説明をしてもらい、滞在期間中に何かあれば遠慮無く連絡して構わないという申し出をいただいた。

木村さんからの紹介の人に観光を御願ひしている事や、現地LSしている友達に会う予定をしている事を話し、それならばOPツアーの案内は必要ないかもしれないが参考にしたらというパンフをもらっておいた。

— 20:30頃にホテルにチェックインし、リキさんと帰国の日の段取りをつけて別れた。

— 部屋のTELで、木村さんから紹介されたMr.Sに翌日の観光の打合せをするべくダイアルした所、12:00にホテルに来て頂ける事となった。

— 同じく木村さんから紹介されたMr.Lに、ケイタイ購入(今回とこの次の東南アジア訪問で利用するため)依頼のTELを入れた所、手に入るのが翌日ではなくて翌々日の午前になってしまふ由。とりあえず、RM300程度の新品を購入してもらおう様依頼した。(結果的には、ケイタイが手に入っても今回の使用が1日たらずという事になり、次の東南アジアへの来訪の予定がすぐで無いならばもったいないという事で翌日、購入するのをキャンセルした。)

— 若原さんHPで憶えていた情報により、ホテル前のセブンイレブンで、水、ビール、簡単な

パン等の食事を購入。(店から出た時、隣の店ではもっと安い事が判明。若原さんHPには、ちゃんと記述されていた。こういう重要な情報はキッチリと頭にたたき込んでおく必要有り(と深く反省)

— 部屋にて、ビールとパンおにぎりで簡易夕食。

4/13

— Mr. Sに会うまでの午前中、自分達でジョージタウンを散策する事にし、ホテルからタクシーで向かった。乗る前にRM15というネゴをしてコムタワーまで行った。

— 降車してから感じた事だが、日本でジョージタウンの街中地図を手に入れておくべきだった。(コムタワー以外位置関係が全く不明だった。)

— とりあえず60階の展望フロアーに行きRM10/2人分払ってテーブルに着きコーヒーを飲む。客は我々のみ、ほとんど開店休業の雰囲気。

— ジョージタウン市内を展望し、遠くにペナン大橋を望む。コムタワーの周りを眼下にチョウラスターマーケットの朝市らしき場所を見つけ、地上に降りてそこを目指す事にした。

— 狭い路地の左右に所狭しと魚介類、野菜類、鳥肉類、普段着服等々の店が並ぶ。暑い中で平然と魚介の生が売られて生臭いにおいもプンプン。

— 市場を抜け、しばし街中を散策しようとしたが直ぐにこの暑さに耐えきれずタクシーを拾おうとしたが皆無。大きなビルを目指せばタクシー乗り場があると思って歩いたが結果は無惨。コムタワーまで戻れば拾えるが時既に遅し。かなり遠い。結局大通りに出てしばらく歩いたら、運良く流しのタクシーを掴まえられた。早速ホテルまでいくらか確認したら、RM20という事で、予想よりRM5程度高かったがこれを逃したら悲劇が待ち受けていると思ひ乗るしかなかった。

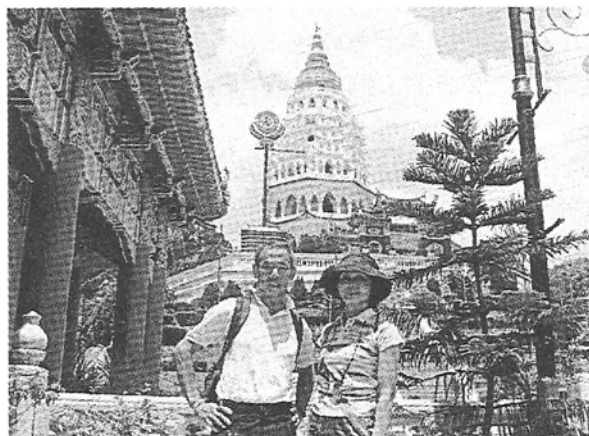
— ホテルにもどり、部屋で乾いた喉をビールで潤していたらMr. SがロビーからTELをして来た。

— 初対面のMr. Sは、非常に気さくな穏やかで人懐っこい感じの人だった。観光の内容と金額を確認し御願ひする事にした。料金はRM40/1時間という事で、観光は3時間程なので、RM12

0×2人と思ったらトータルRM120という事で、OPツアーを利用すれば、RM140/1人が相場と思っていたのでなにか得をした気分だった。

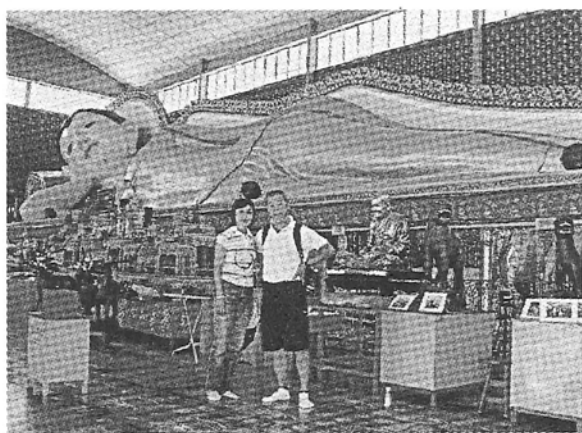
— この観光が3時過ぎに終了という事なので、その後の予定として「ペナンヒル夜景&夕食」のOPツアーを利用するのが好都合と思ひ、観光に入る前にリキさんに連絡をとった所、直前だったにもかかわらずそのツアーを予約できた。

— 車で15分ほどで極楽寺に着き、Mr. Sのガイド付きで寺内の名所を巡った。



その後町中の観光に行く前に、昼食がまだだったし当観光がRM120だったので、Mr. Sへの安かったお礼も含め飲茶をご馳走しようと思ひ、お勧めのシャングリラホテルの飲茶に行った。金額も3人でRM70とリーズナブルであった。

— 食後タイ寺の寝釈迦仏を見学に、車から降りて歩きはじめた時に家内が、背中に水の洗礼を受けた。丁度その日はソクランの祭り真ただ中だった。



— その後町中の時計塔等々の名所を車上から見学し、ガーニープラザあたりでは、石原さん

オフィスのビルや深井さんのコンドの近くあたりを通ったのだと思われるが、然と確認する事ができなかった。夕方からのOPツアーの時間も迫っていたので、ホテルへ戻る事にした。

- 17:00に待ち合わせのロビーに行きツアーのガイドさんに料金 (RM170×2人) を支払い、「ペナンヒル夜景&夕食」のツアーに入った。
- ケーブルカーで約30分程登り頂上のレストランから展望をした後、海鮮シャブを食す。



スープの味は非常に日本人好みだった。

- 食後、薄暗くなるジョージタウンの街中に灯りがともり始めると900万ドル (リングgit? なぜか900?) の夜景が時間の推移と共に楽しめた。
- 21:30頃にホテルの部屋に戻り、翌日のスケジュールを確定するべく小林さんにTELした所、夕方4時頃に彼のコンドを訪問し、その後夕食でバツフェリンギの屋台に行く事を確定した。
- さて、それでは昼間はどのようにかと思案し、リキさんに急遽ケイタイし、「モンキービーチ&釣り&バーベキュー」のOPツアーを予約したい旨を告げ一旦待ちに入った。程なくしてリキさんからTELが入り、手配ができたとの事で翌日8:30にロビーでピックアップしてもらう約束をした。4/14
- 当OPツアーの料金 (RM160×2人) を払い、迎えの釣船の船長の車で波止場に向かった。
- バツフェリンギの波止場までの車中で、その船長は我々に対し大いに感謝していた。この所つなみ災害の影響で客が無く、今回の我々の突如のツアーが余程嬉しかったのだと思われる。
- バツフェリンギの砂浜から乗船し、直ぐ

に漁場まで向かう事20分程度。客は我々のみで貸し切り状態。ゆったりした船上気分を満喫。

- 漁場に到着し、夫婦二人とも初めての釣りなるものを経験。釣り糸をこまめに上下に動かす事が肝要で、ただ垂らしているだけでは魚にエサを与えるだけになってしまうという事を学習し、のんびりと太公望の境地と相成った。
- 20cmくらいのキスや、15cmくらいのイシモチを5匹、家内は2匹これが成果。約1時間位でめっきり釣れなくなったので、そろそろモンキービーチでのバーベキューに移る事を提案し、ビーチに下船した所、先客のオージーグループがたくさん野生のモンキーとたわむれていた。
- 小さく切ったバナナを手渡しであげたり、気性の激しいサルは手元から奪おうとするので、引かかれない様注意が必要だった。
- 程なくして船長が、釣った魚とそれ以外にもアジやカニやイカ、鶏肉等々のバーベキュー料理を配膳してくれ、サルに取られない様に急いでぱくついた。非常においしかった。
- 食後オージー達は海の中に入り、泳いだりアメフトのパスをしたりとなにやら遊び始めた。
- それを見た船長が私に『泳いだら』と勧めたが、水があまりきれいでないので泳ぐ気がせず眺めていたら、『泳げないのか?』と聞いてきたので、『水の透明度が無いので泳ぐ気がしない』と答え、ランカウイでのトライアスロン大会を知っているか聞いたら知っているとの事で、私の趣味を話したら納得していた。
- ゆったりとした時間がひとしきり過ぎたあと、再乗船しバツフェリンギへ引き返した。
- 3時前にホテルに戻り、シャワーを浴び、小林宅 (バツフェリンギ) への訪問の支度をした。
- タクシーにて4時にコンドに到着し、部屋に行く前にコンドの設備 (プール、ジム) 等々を見学させてもらってから、部屋に上がった。
- 21階からの眺望はそれは見事であった。地上での暑さは、この高さのコンドの部屋では全く感じず、吹き抜ける風が非常に心地よい。
- 部屋の見学 (リビングを真ん中に放射状に部屋が3つ、それ以外にKとシャワールーム。) をさせてもらった後、海が眺望できるベランダに座りペナンライフを小林さんに語ってもらっ



た。

— しばらくして奥さんと、休暇で訪べされている娘さんがショッピングから帰宅され、話しの輪に入って和やかな一時を過ごした後、バツフェリンギの屋台へ繰り出す事にした。

— バス (RM1/1人) に乗り5分程で到着。

— 屋台のテーブルを確保して。色々なものをオーダーし、テーブルに持ってきて貰い料金を支払う。5人がそれぞれ適当に好きなものをオーダーする事によって、沢山の種類のものを食し楽しんだ。しめて、RM35/1人と非常に安かった。

— 食後ナイトマーケットをブラブラひやかしのウインドショッピングを楽しみ、タクシーを拾いホテルまでRM10で交渉しホテルに戻った。

4/15

— 朝食後、ホテルのプールで泳ぐことにし、いつものメニューで2000m程の距離をこなし45分ほどで終えて日光浴。家内もデッキチェアに寝ながら読書と南国ライフの一端を体験した。

— 部屋に戻り12:00までの30分位でスーツケースのパッキングをして、チェックアウトした。料金は部屋からのTEL代のみで、RM38。ケイタイ等へのTELが5~6回程度でこの料金とはチョット高いと思ったが部屋からでは仕方ないか。— 予約していた足ツボマッサージの迎えがあり、

まずは足の温泉に浸りマッサージへと移った。

— 非常に気持ちがいいのと、かなり痛いのが交互に訪れガマンと恍惚の小一時間。なにかとても効いている様な雰囲気を感じた。料金はRM90 (家内は肩マッサージを追加したので、RM120)。

— 14:30頃ホテルへ送り返してもらい、セブンイレブンでパンを買いホテルのロビーで食べた。

— 空港へのピックアップが当初、18:30という事だったが早めにチェックインしなかったの、リキさんにTELして早めのピックアップを交渉し16:00のピックアップを承諾してもらった。

— 空港でチェックインした後、リキさんに今回の滞在中の御礼を言って別れた。

— コーヒーショップにてサンドイッチや鶏肉等簡単な食事をしたが、非常においしかった。

— 搭乗手続き後にお土産を物色し、KLまでのフライト時間が予定通りかインフォメーションボードで確認すると、なんと2時間遅れで表示されていた。とはいえ、KLからの乗り継ぎもそれに合わせて待ってくれるだろう位の軽い気持ちで構えていたのだが、そんな訳は無く結構大変な問題をその時は気にも止めてなかった。

— そんな時、なにやら場内スピーカーで『Mr. Oka・・・』呼び出しがかかっているではないか。

— どこに行ったらよいか定かでは無かったが、搭乗ゲートに行けば何とかなるだろうという事でそこに行くと、アテンダントが胸をなで下ろした雰囲気で我々に、他の便に乗りかえる様手続きしたので、至急ここで待機する様案内してくれた。何と、KL迄のフライトが遅れたならばその乗り継ぎも合わせてくれると思っていたのは大変なマチガイで、遅延した当該フライトに乗る事になればKLでの乗り継ぎができなかった所だ。これはひょっとして日本への帰着が一日ずれる所を命拾いした様な格好だ。

— 変更したフライトに乗る事により、KLでの乗り継ぎも問題無くでき、無事日本への帰路についた。— 安心。

4/16

— 予定通りに朝7:00に成田に到着し、車とイヌを預けた業者に迎えてもらい、無事帰宅。

ー 5日ぶりの我が愛犬と対面し、目立った変化は特に無く安心して引き取り愛撫した。我が愛犬は久々の主人に逢えて大喜びだった。

【総括】

1. 予想していたより、かなり暑い。日陰はともかく、日中の街中の歩きはまずありえない。
 2. タクシーや、屋台の食事、スーパーマーケット等の店での値段は聞いていた通りに日本人感覚からすれば非常に安い。
 3. ビールは、聞いていた通りに日本での値段とほとんど変わらない為、相対的に非常に割高。
 4. 街中の清潔感や整然度合いはあまり良くない（やはり、東南アジア的？）
 5. 道路の横断は意を決する必要がある。（もたもたしてたら、いつまでたっても渡れない。）
 6. 海の水の透明度がないが、淡い緑色なので眺めている分にはリゾート感覚が味わえる。
 7. コンドミニウムの上階は、風の吹き抜けが良く非常に心地が良い。（クーラーは必要なし）
 8. 街中のコンドでなくてリゾートのコンドは、眺めは素晴らしいが、足の確保（車の所有等）が必要。
 9. 逆に街中のコンドの場合、足の確保は特に必要が無く、車が無くても歩きで買い物が可能。
 10. LS用のコンドミニウムは、多分どこでも同様の間取りと広さをもっており、金額的にも年金範囲内で暮らす事が可能な料金体系。
 11. 屋台の料理は、聞きしにまさるもので、非常に楽しめる。（日本人好み味の中華が多く、おいしくて非常に安くリーズナブル）
- 以上ペナン在住の方々には大変御世話になり、誠に有り難う御座いました。

【メーリングリストから】

南国暮らしの会の皆様へ

（東海支部 会員No. 570 山田善一）

今回のチェンマイステイ中に、ランベルツアーのランシー社長とゆっくり話す機会がありました。

ランベルツアーは、チェンマイでも大手の旅行社で私達が訪問する時、いつも、ホテルの手配をお願いしている会社です。（ホテルの価格は他社に比べて値打ちです）利用されている会

員も多いと思います。チェンマイ支部でも、推薦しています。

「中古で、不要のPCがあれば、寄付して頂きたい。タイの僻地の学校に寄付したい」、と彼は新聞に広告を出していました。私達は、このことの詳細を知りたいと思い、質問しました。

彼は、パヤオ県ドークカムターイ郡（チェンマイから北東へ150km）の出身ですが、この地域は、タイのなかでも、僻地の、貧しい農村で、学校では、PCも無いような状態で、村の人達は、どん底の生活をしているそうです。

離婚した夫婦の子供達は親とも別れ、じいちゃん、ばーちゃんが引き取り、育てていますが、世話する祖父母も、収入が殆ど無く、体も不自由なため、悲惨ともいえる生活をしている人達が沢山いるそうです。

出来れば、使い古した下着などの衣類、靴下、文房具（使った短い鉛筆、クレヨン、ノートでもいいそうです）など、など、寄付すれば、喜んでくれるそうです。日本では、擦り切れたような衣類などで、失礼ではないかと思いますが、彼は、捨てる事はしないで、是非、寄付して頂きたいと言います。心からの訴えでした。

私達は、この話をきいて、例え少量でも、お役に立つならば、と思い、持参した衣類の多少古くなったものを洗濯した上で、寄付してきました。

こうした寄付物品は、県、郡、村の公の機関を通して現地の学校や個人に贈られるそうです。彼は、皆さんの協力が得られれば、こんなに嬉しいことは、ありません。と言いました。

又、彼は、いつの日か、この村に皆さんを連れて訪問し村の現状を見て欲しい。寄付物品を持参し、直接手渡しして欲しい。と訴えました。彼の、情熱を込めて話す言葉に、私達はうたれました。

皆様のなかで、これから、チェンマイを訪問される方があれば、旅行かばんの片隅に、捨てる寸前の衣類や文房具を入れて、ランベルツアーの社長にお渡し下さい。

私達は、タイ国に渡り、ただ、エンジョイして帰るのでは無く、例え僅かでも、何らかの奉仕をしたいものです。

このことで、私達の間で話題になる事、を願っています。

マレーシアの退職者ビザの最新情報 2005年6月

ペナン支部 支部長代理 会員No. 495 石原 彰太郎

マレーシア マイ セカンド プログラム (MMSHP、退職者ビザ) に付いて最新情報をお知らせ致します。マレーシア政府の奨励策も効を奏して、外国人でこのビザを取得する人が急増しています。日本人でもこのビザを取得した人は既に400名を裕に越えていると推定されます。その内大半はペナンで取得されています。以下に最新のビザ取得のメリットと注意点を列挙致します。

1. 申請条件は緩やかになっており、年齢制限もありません。50歳以上の申請者であれば、マレーシア国内の銀行に預金(夫婦の場合RM150,000以上、単身の場合RM100,000以上)若しくは日本での収入証明(夫婦の場合月RM10,000以上、単身の場合RM7,000以上)で取れます。

50歳以下の申請者は上記の両方の条件を満たす必要があります。後はマレーシア人の保証人か移民局公認のスポンサー(会社)を現地の身元保証人に立てる必要があります。

2. 最初から5年取れ、毎年の更新も必要ありません。5年後も更に5年延長可能で、ペナンで一番古い申請者は既に14年目に入っています。

3. ビザ取得者は、日本の自己所有の車を無税にマレーシアに輸入出来ます。またマレーシア国内で組み立てられた車(トヨタや本田車の国内組み立ても含めて)も売り上げ税その他税金の割り引きで、市場価格より3割以上安く買う事が出来ます。(但しこのメリットは原則ビザ取得後6ヶ月以内に申請する事になっています)

4. マレーシア国内でもサバ州とサラワク州は歴史的、政治的な背景が異なり移民局の取り扱いも別になっています。マレー半島(ペナンやクアラルンプール)で取得したビザをそのまま適用してサバ州やサラワク州で住む事は出来ません。(観光で訪れる事は勿論問題ありません)

従って、マレーシアの中でもどこをベースにするか決めた上で申請する事が好ましいです。サバ州でMMSHPを取得してから考えが変わりペナンに住もうとされた日本人が、ペナン州の移民局にペナンで住む事を拒否され、結局ペナンで取り直す事になったケースがありました。

5. 最近の外国投資委員会(FIC)の規定改正により、外国人でもマレーシア国内で何戸でもRM150,000以上のコンドミニウムを購入する事が出来る様になりました。(但しFIC以外にも州政府から取得許可も必要ですので注意が必要です!) MMSHP取得者は、現地のローンも組むことが可能で、しかも自分の居住用の不動産はFICの許可も必要なくなりました。

6. MMSHPの取得者は、現地発の格安航空券などを自由に買う事が出来ます。

以上

〔部会報告〕

総務担当より 担当理事：菊地 功

5月以降の総務部門の主な活動

05月07日：第8回理事会。

05月28日：第9回理事会。

06月04日：AM:総務部会 PM:平成17年度総会。

06月05日：国内支部長会。

06月09日：AM:総務部会 PM:企画委員会。

06月16日：東京都への届出(16年度事業報告・役員等の変更)及び法務局への申請(役員・資産の変更)

16年度理事会(計10回開催)議事録を本会報に同封しています。興味のある方はご一読下さい。

注)今年度総会でご説明の通り、今年度から総務部門で「支部推進」も担当することとなりました。

以上

はじめてのニュージーランド

高知県在住 会員No. 241 下元 彬人

旅 程

カンタス航空で南島の、クライストチャーチ(Christchurch)へ入って、空港と街の中心との、ちょうど中ほどにある友人宅で5泊。—Inter Cityバスで南下し、冬の銀世界で評判だというクイーゼタウン(Queenstown)へ移動し、Discovery Lodge Backpackersで2泊。

—Inter Cityバスで北上し、西海岸に近い、氷河で知られるフランツ・ジョセフ(Franz Josef)へ移動して、Franz Josef Glacier YHAで1泊。—Inter Cityバスで、西岸を北上し、Greymouthへ。ここでTrans Alpine鉄道に乗り換えて、Southern Alpsを山越えして、クライストチャーチへ戻り、再び友人宅で1泊。

—South Island Connectionのシャトルで、今度は東岸を北上し、ピクトン(Picton)へ。Wedgewood House YHAで2泊。

—The Interisland Lineのフェリーで北島へ渡って、坂と風と文化の街、首都のウェリントン(Wellington)へ。Wellington City YHAで1泊、Richmond Guest Houseで1泊。

—Newman Coachバスで、湖から硫黄泉の立ちのぼるロトルア(Rotorua)へ移動し、Kiwi Paka YHAで1泊、Planet Normad Backpackersで1泊。

—Newmans Coachバスで、一番人口の多い街、オークランドへ移動。Auckland International YHAで1泊。

—Newmans Coachバスで更に北上して、海の町、Whangareiへ。Whangarei YHA Manaakitangaで1泊。

—Newmans Coachバスでオークランドへ戻って、前回と同じAuckland International YHAで2泊。

4月18日に入国して、5月7日に出国するまでの、結局、20間の滞在だった。

宿 泊

ガイドブックに紹介されているホテルの値段には、ぼくは割高感を禁じ得なかったので、ホステルやbackpackersのドミトリーを利用した。

2段ベッドが2組とか、3組とかが、一つの部屋にある相部屋ですが、馴れると、心配するほど気にならない。眠りに向かうときには、耳栓を使う。

貴重品の管理は、自分のためにも、ルームメイトの名誉のためにも、十二分の配慮が必要だが、変な人や困った人と同室になる確率は非常に低い。今回も、皆無だった。時には、一部屋を自分ひとりで独占する結果になることもある。今回は、この幸運に3回当たった。

好きなものを買ってきて、キッチンで簡単に手を入れ食事をするのは、なかなか楽しい。特に、旅行中に不足しがちな野菜や果物も、小単位で買って補給できる点が、ありがたい。New Worldと言うチェーン・スーパーの出来合いのサラダが、究極のお気に入りだった。

それに、この国のYHAでは、キッチンでの適度な飲酒を認めていた。ぼくは、日本酒のワンカップにあたる、小瓶のワインを夕食毎に、いただいた。この国は、牧畜と同時に、ワインの国でもあった。

同宿するひと達と、話をする自由も、しない自由もあるのが、よい。嬉しいことに、この旅では、こういう施設を利用する日本人の中年や実年の方たち、カップルや家族の方たちとお会いすることが思っていたより多かった。それに呼応して、少し大きめの施設では、殆どといって良いほど、フロントに日本人の従業員がいた。

費用は一泊、ニュージーランド・ドルで、20から30位。(1ニュージーランド・ドルは、70円から80円の間)。1泊、30ドルを越したことは、一度だけあった。Wellingtonで試してみたB&Bでは、一番安いところを選んだが、45ドルだった。したがって、ぼくには、B&Bも、すこし敷居が高かった。

宿での共同生活の楽しさは、四国八十八寺をめぐり歩いたの時の、お遍路宿の楽しさを思い出させてくれた。

交通手段

ニュージーランドは、くるま社会であるという。日本車が殆どだ。車検制度もあるが、検査費用が日本のように高くないので、走る限りは乗る、したがって、中古車がそんなに安くないそうだ。

Whangareiで会ったスイス人の姉妹は、ポンコツ車で、New Zealand中を移動していた。計算したら、この方法が一番安かったそうだ。国をでるときは、少し前に、売りに出すと言っていた。日本と同じ、右ハンドルで左側通行。距離もKMで表示されている。「優先権を相手に譲れ」、と言うGive Way&Stopとうい標識が上手く使われていて、ルールは、単純でよく出来ている感じをうける。

道路は、大体が日本の国道のような感じで、田舎部でもよく整備されている。利用者が、大事に使っている感じが分る。レーンが走っている一本道や橋が結構あり、対向車が、時には汽車が、一本の道を譲りあって利用している。自動車専用道路は、街部への出入りの流れをよくするために、部分的にあるだけのような感じを受けた。

鉄道は、比較的短期間に、本来の物や人の輸送の使命を車に譲り、今は主に観光の役割を果たしている、とバスの運転手さんが説明していた。運転手さんは、常にガイドあるいは情報提供者の仕事もしている。それが、任務の一部になっているようだ。また、そのことに誇りをもっているようにも思えた。おそらく、彼らの社会的地位は、日本の同業者に比べて、高いことだろう。

長距離バスでも、トイレが付いていないのが殆どだが、休憩がしばしば予定されているので心配はない。飲食も、休憩時間中にとれる。したがって、車内での飲み食いは、水（飲み水）をとること以外は禁止されている。

一方、汽車には車内販売所がある。しかし、車内を汚すことを防ぐために、係員がごみの回収にご協力を、と言って大きなビニール袋をひろげて、車内を巡回する。市街部で路面電車やトロリーは、見かけたが、電車は、一度の見なかった。きっと、ないのだろうと思う。タクシーには、一度も乗らなかった。

フェリー

南島のピクトンから、北島のウエリントンへ乗ったフェリーは、艇全体が、品のよい街角か、モールのような感じだった。レストラン、バー、グローサリーのお店、簡便なコンビニ、子供のプレイルーム、読書室。それに公衆電話が、街角にあるのと同じ感じで3つ並んでいた。勿論、オープン・エアの展望デッキ用にも十分なスペースが用意されている。

約3時間のフェリーということで、日本の佐渡やフィリピンのセブでのもった旅客運搬船という感じのものを想像していたので、切符に座席番号もないことに、ちょっと、戸惑ったが、良い方向で、予期外だった。どこにでも、座るところが用意されている。お客は、あちこちと、動き回る。なるほど、座席を指定する必要などない。運搬船よりというより、遊覧船のなのであった。

すっかり気に入って、各所を探索したあと、おしゃれをする気分で、レストランで、ツナサンドとコーヒーを食すると、6ドル50セント。そんなに高くない。リーズナブルという感じだ。コンビニのカウンターで、無料パンフレットを貰い、目的地Wellingtonの学習をはじめた。

市内循環のバス(City Circular)が、大人2ドル、シニアが80セントと書いてある。この時、しまった、と思った。このフェリーの切符を買う時、何も言わずに、カードを渡して支払いをした。おそらく、何らかのデスカウント運賃があったであろうに、ちょっと、ぬかってしまった。フェリーの料金は、60ドル。

フェリーが到着してから、市内への足が心配だったので、このフェリー内のコンビニで働いているマオリ人の職員に、「市内循環のバスには、フェリー・ターミナルから乗れますか」と尋ねたら、ターミナルから無料のシャトルバスが、鉄道駅まで出ていて、そこで循環バスにのれると教えてくれた。

はたして、実際にターミナルへ着くと、学習通り、物事が進んだ。無料シャトルをおりて、循環バスへ乗り換えて、運転手さんに、シニア、といって1ドルコインをさしだすと、20セントのおつりをくれた。

Courtenay Placeと言う中心地でおりて、迷わず目的地のWellington City YHAへ歩き着け

た。
シニア運賃を尋ねなかったことは、ちょっとだけ残念だけれども、それは些細なことで、このフェリーにはとても、良い思い出が残った。

人々

アイランダー系のひとは、アメリカでのインディアン系の人たちよりも、生き生きしているように感じられる。国技である、ラグビーの代表選手にも、アイランダー系の人たちが多く活躍している。先人と後人との関係が比較的、うまくいっている国の例のなだらうか。

オーストラリアとのラグビーの試合前のセレモニーで、国歌が、英語とマオリ語の両方で歌われていて、なるほど、という感じがした。都市部を歩いていて驚くのは、中国人と、あるいは、それ以上に、韓国人の存在感が目立つことである。ニュージーランドは、移住希望者にとって、まだ、他国と比較して、居住資格の得やすい魅力のあるところのように思える。

留学生の受け入れを、国が勸奨しているようなので、そのことも、外国人の多さの原因になっているようだ。一人が留学をするということは、そのひとりに留まらず、複数の来訪者を誘引する結果になっていると思う。

オークランドでの、中国人マフアの台頭も、キーウイ一人の話題になっていた。しかし、まだ、人手を経済が必要としているようだ。どこの掲示板でも、人手募集のビラが多い。われわれ、日本人退職者軍団も、リング取りや牧畜の世話やサンドイッチ作りのアルバイトを、自己啓発と捉えて体験してみたら面白いのではないか、と思った。

人種差別感、殆ど感じない。人口の75パーセントがヨーロッパ系の人だと言うけれども、初印象では、米国よりも居心地がよい感じがした。

アメリカからの来訪者は、この国のヨーロッパ系のひとにとっては、憧れの対象にもなり、困惑の対象にもなっている、ように思えた。大国から、英語が通じる小国へくるのだから、横柄になりやすい下地が潜在する。若いアメリカ人を、典型的なスポイルされたアメリカ人だと、白人キーウイが眩くのを幾度か耳にした。ぼくも、同様の感じを得たことが何度かあった。

無論、そういう若いアメリカ人ばかりではなかった。ロトルアへ行くバスで隣に座った青年は、ニューヨーク生まれで、コンピューター関係の仕事をしてためた自分のお金で、旅行をしている感じのよい謙虚な青年だった。年金と貯金の切り崩しで旅をしているぼくよりは、ずっと偉かった。

三重国籍

この旅で、いろんな国の人たちに出会ったが、一番面白かったのが、オークランドのYHAで同室者だった53才の男性である。ぼくが、共同部屋へ初めて入っていった時、彼は、床いっぱいに広げたものを、数個のカートン・ボックスに入れて、荷造りをしていた。

ニューカレドニアのIle Des Pinsというところから、商品の買出しに来ていた。革製品を主に扱っているといっていたが、ぼくの目には雑貨としてしか映らなかった。

最初、あなたは、なに人かと尋ねたら、エクワドル人だといった。しかし、いろいろ聞いてみるとそこで生まれたが、その後しばらくコロンビアに住んだので、その国籍もあるという。現在は、結婚してニューカレドニア領にすんでいるので、スランス国籍もある、つまり、3つ、旅券を持っている、と言う。最初に、自分の旅券を見せておいて、あなたの旅券も見せてくれといったらフランスの旅券を見せてくれた。3つのうち、この旅券が、一番、便利だと言う。

英語とスペイン語とフランス語と、どの言葉で話したいかと聞くと、スペイン語とフランス語でR、の発音をして、違いを示しておいて、右手で空間に滑らかな曲線を描くしぐさをしながら、フランス語がよい、と答えた。

手紙を出したいので、住所を教えてください、というから、紙にかいて、住所交換をおこなった。

自分のことを、ガブリエルと呼んでいるので、この紙には、姓と名とが逆になっているじゃないか、とただすと、フランス語では、英語とは逆で、姓を先に名を後に書くという。

なかなかのおしゃれで、におい消しにと、靴と足にパウダーをよく使っていた。心身ともに元気そうで、YHAのキッチンで、年の若いスペイン系の美人と、よく話をしてきた。

ところで、彼と話している時、ぼくは、東海

支部の鈴木憲介さんのことを思い出していた。鈴木さんの第二の故郷は、この彼の住んでいる島と、近いはずだと、いうことを想っていた。鈴木さんとは、まだ、メールの交換も、お話しをしたことも無いが、お友達になってもらいたいと憧れている。

鈴木さんが、ニュージーランドを住みたい候補地のひとつに挙げられておられたような気がするが、地図を見ると、なるほど、と思う。NZにとって、南太平洋の島々は、北方のお隣さんなのである。

景観

すばらしい景観や自然は、どの国にもあると思う。しかし、そこへ行く途中で、退屈だったり、時には見たくない光景が目に入ってくるのが、普通だと思う。この国は、しかし、全体が、そこはかとなく美しく、歩いていても、立ち止まっても、乗り物にのっていても、何でも無いまわりの風景が良く、気持ちや和んだ。

オークランドのような都会の街角でも、汚れ

た感じを受けなかった。しかし、参考までにと送っていただいた方の紀行文を読ませていただくと、この国のよい点を十分にお認めになった上で、箱庭のようで、窮屈に感じるところもあった、と言う。なるほど、そう言われてみれば、その感じが分らぬでもない。

自然の偉容には、感嘆した。しかし、その方の感想では、スイスアルプスやカナダやオーストラリアに比べると多少、、、という下りもある。ぼくは、そういう各地に行ったことがないので、比べようがない。こんな風に、NZに好意的に感じるのは、もしかしたら、彼の地が秋だったという季節が関係しているのかも知れないし、呼んでくれた友人が住んでいる国への身びいきかも知れないし、ぼくの感傷旅行のせいかも知れない。

しかし、それは、この国の人々のエコロジーに対する想いのせいなのかも知れない。

どれが正しいのかは、はじめて行って20日間で通り過ぎただけでは分らない。

(終わり)

ハワイ(ホノルル)の旅

兵庫県在住 会員No. 743 松谷 義一・幸子

私達は団塊の世代と言われる歳です。あと3年すると60歳の定年を迎える夫と共に老後は暖かいところでゆっくり暮らしたいと思っています。そんなわけで今回の旅はただの見学、楽しむだけの旅ではなく長い老後をいかに楽しく過ごすことができるか、そのための準備の意味合いを込めた旅にしようと思いました。

ハワイには娘が住んでいます。ハワイで学校を卒業した娘はそのまま就職してしまい日本には帰ってきません。「日本では、まわりの人達と合わせる事ばかりで疲れる、短所も長所も個性として受け止めて自由にのびのびできるハワイが好き」と言い切るのです。

5月の大型連休にしか休みを取ることが出来ない私達は、少しでも安く行くために韓国周りで行くことにした。直行便でいくより50%も安く8万円台で行けました。(ゴールデンウイ-

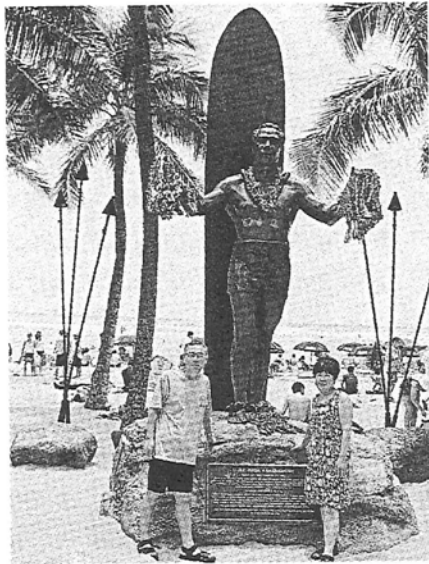
クはどこの航空会社も特別料金になります。)おまけに冬のソナタにはまっている私はじかに韓国を感じる事ができ嬉しかった。乗り継ぎのための長時間も空港内のビデオルームで「冬のソナタ」を見たり、世界でも1番ではないかと思われる免税店を覗き、各国の言葉を話せるボランティアさんと、無料で民芸品の小箱作りをしているうちに時間は過ぎていきました。

ワイキキには翌朝9時に着きシャトルバスで娘の住んでいるアイランドコロニーに行きました。シャトルバスはタクシーより安く、ホテル名を言えばホテルまで荷物を運んでくれとても便利です。料金は往復で14ドル。娘は待つてくれましたが、挨拶もそこそこに仕事に出かけて行ってしまい、私達も少し休み、ダイエーに買出しに出かけました。ハワイのダイエーに

は日本食のあらゆる物が揃っていますが値段は物によって日本の2倍から3倍します。私は大きなトランクに2ケース食料を持ってきたので野菜だけ現地調達します。やはりハワイには日系人が多いんだな・・・と思います。

言葉も日本語があちこちで聴かれ、まるで日本にいるような錯覚を覚えます。ハワイでの買い物でいつも思うのですが、肉・牛乳・パン・米・野菜・なんでも量が多いほど安いのです。特に肉はキロ単位のものはずごく安く、100g 200g 買うと割高です。面白いことに牛肉でも豚肉でも鶏肉でも値段があまり変わりません。日本では考えられないことです。また日本人むけにすき焼き用にスライスした肉がありますのでどんな料理も作ることができます。

アイランドコロニーの近くにはフードパントリーと言うマーケットがありますがとても高いのでつついバスを使いダイエーに行くことになります。バスはどれだけの距離を乗っても2ドルです。しかも乗り継ぎのトランスファプリーズと言って券をもらえば帰りはただで帰れます。



私達は暇があるとアラモアナショッピングセンターから出る島内一周のバスに乗り4時間かけて島を巡ります。途中でトイレ休憩もありワイキキとは違う本当のローカルなハワイと出会うことができます。しかも2ドルで。また長期で住むなら定期券を買うことをお勧めします。1ヵ月定期で40ドルです。

これさえあれば好きなだけバスに乗ることが出来ます。もし短期なら4日で20ドルの定期

もあります。さてさて今日の献立は豚のしゃぶしゃぶとマグロ（ハワイではポキ）のわさび醤油和えとビールで乾杯です。ハワイでは日本のビールも半額位で買えます。

これも多く買うほど安くなり、日本では発泡酒を飲んでいる主人も大喜びです。

さて翌日はゆっくり起きてチャイナタウンに行きました。チャイナタウンには私の大好きな飲茶の店があります。60種類の飲茶はどれを食べても1ドル50セントです。もちろんジャスミン茶が自由に飲めるので、食べては飲み食べては飲みしても3人で2千円～3千円位です。

（16皿ぐらい）。一皿に大きなチマキやぷりぷり海老のシューマイが3個ずつ入りどれを食べても美味しいのです。日本人はあまりいませんが、ハワイに住む中国の人々の間では評判の店です。

その後チャイナタウンで買い物をしました。ここでは果物も野菜もダイエーの半額位で買えます。ネギ、白菜、人参、玉葱、香草、インゲン、かぼちゃ、などあらゆる物が揃います。卵や海老、魚、肉も安いです。果物は大きなマンゴを4個で1ドル、パパイヤも3個1ドルなど1ドルでかなりの量のものが買えますので1ドルの価値がグーと上がります。大好きな焼き豚や醤油チキン、お刺身に出来る大きな生きたえび、種類の多い沢山の魚など持ちきれないぐらい買っても30ドルほどです。バス代を払っても充分もとが取れます。

その夜はプリプリ海老を塩ゆでにしてチキンやサラダと一緒にいただきました。翌日はビーチに行くことしました。私達がいつも行くのはワイキキのホテルから少し離れたカピオラニ公園の前です。娘に教えてもらったワイキキで1番美味しいと評判の店で、日本ではめったに食べないハンバーガーのセットを買いました。この店は最近出来た店ですが肉を網焼きで焼いてありボリュームもあり安いので、私は子供用のセットにします。それでも日本の量より多いのです。ハワイの海岸ではお酒を飲むことは禁じられていますのでこっそり容器に入れたビールをストローで飲み大満足です。

さて翌日から今回の目的の行動に移ります。

私達は今まで老後に住む場所としてハワイは候補に入れていませんでした。ビザの問題もあるし、住宅が高いので年金だけで暮らすのは無理だろうと思ったからです。確かに部屋を借りる家賃は高いのですが光熱費や衣服のお金はあまり要りません。食費も考えて買えば日本よりかなり安くいけそうです。その辺の話を知りたくてロングステイソサエティの大塚さんにお会いする。

大塚さんは本で知りハワイに来てすぐコンタクトをとっていたのですぐ会うことができた。大塚さん自身も仕事でハワイに駐在するうちに気に入って、定年と共に移り住んで10年になる。彼はビザの問題をクリアするために投資家としてのビザを手に入れたそうです。そして日本から来るシニアの方々のために年会費を払えば困ったときの相談相手や、色々なことの力になってくださるとのこと。またチャイナタウンや現地の人買いに行く安い大型店に案内したり車で連れて行くこともするそうです。

医療の面でもハワイは言葉が通じ、医療機器、技術共、日本より進んでいるが、かなり高額なので必ず保険に入る事が必要だと言われた。また息子さんがハワイで弁護士をされているから住宅で問題がおきたときなども対処していただけると伺い頼れる先輩がおられるので安心する。また翌日は不動産業者に住宅探しに行く。いまますぐ住む訳ではないが予算の心つもりがあるので少しでも状況を知りたくて勉強のつもりです。また娘の家賃を聞きあまりの高さに驚き出来るなら、今購入して娘に家賃を出してもらおうことも考える。

ワイキキには街の角々にジャパンプレス、旅のガイド・ハワイ、ビーチプレスなどの日本人むけの新聞や雑誌が無料で置いてある。そこにはレストランや化粧品の宣伝広告、また求人や住宅の案内などいろいろな記事が満載されている。そこから自分たちに必要な記事を拾い電話をして案内を請うことが出来るようになっている。(もちろんすべて日本語で可能)。

私はこの中から良さそうな業者を選び電話をして部屋を見せてもらうことにする。たまたま選んだ業者はワイキキバニヤンを多く手がけている日本人で皆本さんだった。

皆本さんの話ではいまハワイの住宅販売業は過剰なくらい好調でこれは住宅の在庫数が少ないことが原因らしい。市場在庫は底をつき転売を繰り返すことになり1年以内に30%も価格が上がることもあるそうだ。

バニヤンは5年ほど前に泊まり、気に入っていたので見せてもらうことにする。きれいにリホームされた部屋をいくつか見た。しかし価格のあまりの高さに驚く。じつは5年前にバニヤンを買おうかと考えたことがある。そのときの値段と今回の値段では同じ部屋でも1000万高くなっている。そのときは娘の滞在がこれほど長くなるとは思っていなかったので築30年のしかも借地権の住宅を買うのに躊躇したことを思い出す。

あのときより古くなったが需要が多くて、「すぐ売れるから買うなら今がチャンス」との言葉にまさにハワイの住宅事情を如実にあらわしているな・・・と変なところで感心する。しかし今回もあまりの価格の高さに買う決心がつかない。それではバニヤン以外ではどうかと他の物件も見せてもらうが価格の点では似たりよったりだった。

今日本では住宅の価格がすごく安い。ハワイの物件の価格を聞くとついつい日本のマンションの価格と比較してしまい「ええ・・・日本ならもっと新しくて大きな部屋が所有権で買えるのに」と思うからなかなか決心がつかない。もし私達もビザを手に入れ、ずーとハワイで住めるなら買おうと思う。

ハワイの気候は日本では味わうことが出来ない素晴らしいものだ。鼻炎で何ヶ月も苦しむ私は花粉の時期にハワイに行きたいといつも思う。どんなにひどいアレルギーが出ていてもハワイの空港に着いたとたんにはピタッと止まる鼻につくづく感心する。食べるものも安いし種類も多く飽きない。テイクアウトの店で6ドルも出せば1回では食べきれないくらいの量があるし、野菜もたっぷり食べられる。

服はムムウか短パンでいいし、なにも特別なことは無いのに開放された心がのびのびしてそれだけで免疫力が高まる気がする。病気の人もハワイに来たら長生きできるのではないかとと思う。だからビザの問題が無ければ海に見える

ところに部屋を買い毎日散歩をしたり、泳いだり自由気ままに生きるだろう。しかし今のように3ヶ月したら国外に出なければならず、年間2回までぐらいしか入ることが出来ないのではハワイにすべてを託すことは無理だと思う。

(85日ぐらいで国外に出て少し間をあけてからもう一度入る。こうしないとなくなか仕事でもしているのではないかと疑がはれるので入国できない事もあるそうだ)

あれやこれやと考えている内に今回の滞在期間が終わりを迎える。1年ぶりに母の味を娘に与え慌しく帰国することになる。今回は何も進展は無かったけれど、私達にはまだ3年と言う期間がある。その間にもっともっと私達の条件にぴったりの所が見つかるかもしれない。ペナン、ゴールドコースト、チェンマイ、バリなど南国暮らしの会の方々が教えてくださっているいろいろな所を訪ねて長年の夢を必ず叶えてみたいと思う。

以上

◆ホットなニュース

1、iポッド (商品名で済みません。)

本件をご存知の方もいらっしゃると思いますが、本会の会員には大方の方に必要な物だと思いますので紹介します。

会員は外国滞在、ロングステイを考えている方が多いので、長期滞在するとどうしても日本が恋しくなります。それをカバーしてくれるのが日本の歌謡曲や家族の声でしょう。

(海外での日本からのテレビ放送は単調なニュース番組か、古臭いドラマなど観るに耐えない放送です。)

この品(iポッド)は音楽の録音は出来ますが、普通の声の録音は出来ません。しかし国産の品は普通の声の録音も出来る物が多く発売されています。

超小型で再生機を含んでも手の平に乗るような大きさで、外国に持参するには持って来いの物で、メディア1枚で数百曲録音(再生)出来ます。価格も1万円前後から数万円程度です。

2、スカイプで声での交流を

パソコン同士での電話や資料送付、5台までの会議など色々な事柄が世界中(プロバイダーに関係なく)無料で利用出来ることが多くの会員の活動で確認されてきました。

固定電話に接続するスカイプアウト(有料ですが格安、主要国への通話は2.5円/1分程度)と言うシステムがあり、パソコンからだと凄く安い通話料で会話が出来る時代になりました。本会の皆様にはパソコンは必携の物に成りつつあります。

これを駆使すると世界が広がります。現に九州支部(九州支部は範囲が広いので)では支部役員の会議をスカイプでやろうと言う事で、体制作りをされています。

スカイプのダウンロードは無料ですので是非試してみてください。

会としてはルールなど決めないでスタートすると、問題が発生しそうなので、直接タッチしませんが推奨できる代物です。

3、子孫に美田を残さず(長期生活支援資金)

過日会報の添付資料に皆様に配布しました生活福祉資金(長期生活支援資金)貸付制度について

この制度は東京都のある市で制度化されたもので近年は殆どの県で制度化されています。

この制度は土地付一戸建の住宅の評価額の70%を生活資金として、本人の計画により一月当たりの金額を決め、年4回3月分を纏めて貸し付けられるものです。

金利は最高3%で毎年4月1日時点の長期プライムレートのいずれか低い方で定まります。(今年は1.65%です。)

この制度の出来た発端は、高齢者が経済的にきびしい生活をしているのに、身内には殆ど見向きもされず他界した。ところがその方の不動産などを処分すると億の単位の資産があり、それを身内の方々は当然の如く分配されてしまった。その実状を知っていた係員は、このご老人は何のためにきびしい生活をしていたのか、凄く違和感を感じ、その様な高齢者の生活支援資金をどうにか出来ないかと検討され制度化されたものだそうです。

条件として、同居家族は当事者と親(子供の同居は駄目)、推定相続人の同意書と連帯保証人1名が必要です。希望者は役所の福祉係などに問い合わせして下さい。

埼玉県では社会福祉協議会という外郭団体がその任に当たっております。

会員番号24 酒匂 景輝 記



加藤 明

(写真は船内4ヶ所18エレベータの内の一つのホール)

689：小池由輝夫・裕子・輪太郎

696：加藤 明・すみ子

参加者 810：田子初美・妹 南の会7名
ワールドステイクラブから 6名
他クラブから2名 乗船者計 15名

クルーズを楽しまずに死んではいけない！

それが初めて乗った私の感想である。

だからと言って半年も一年も船で世界を回るよう
なよく聞く話は、私には飽きるかもしれないしま
た過ぎたる話である。

《何が良かったか》

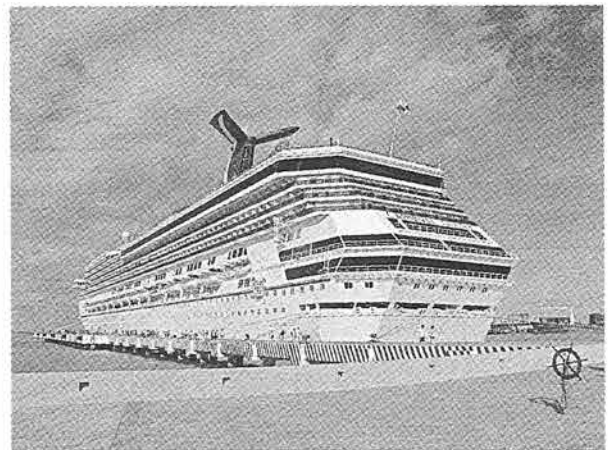
- (1) 流石の4500人乗り、殆ど揺れを感じない。
- (2) キャビンが清潔でサービスがホテル以上。
- (3) 食べるたのしみを満たしてくれる。
- (4) バルコニー付きの気分と用途は格別と思う。
- (5) 3階建て劇場で毎夜あるショーが美しく素敵。
- (6) カジノがあるので好きな人には喜ばれる。
- (7) Fat 人口が多くて見ても撮っても面白い。
- (8) ばんから気質の私にはくすぐったい夜總會風
の正装指定日が嬉しいものだと新発見！
- (9) 仲間たちと海に面したサウナやアスレチック
で汗するのも良い。上記料金込みが嬉しい。
- (10) 寄航地から他国に上がり見聞きする観光が
他の乗り物で行く時とは異なり楽である。
- (11) レストランやバーやクラブも多くて上手く使い
こなせばもっと愉快だったろうと今思う。
- (12) 総じて約23万円は値打ちあり。

《欠点》

- (1) いまどき船内で携帯電話が使えない。
- (2) インターネットカフェの使用料が驚異的に高い。
- (3) 酒関係が貧乏人にはこたえる値段に思える。
- (4) ショッピング、ピアノバー利用程度であったが会
議室などを上手く利用したかった。
- (5) 図書館に日本の雑誌ぐらい置け！飛行機もだ！
- (6) レストランは味に飽きさせてはいけない。
意表をつく変化と唸るレシピの工夫が欲しい。
- (7) 乗船した巨船カーニバルグローリー 110,000 t は
Carnival Cruise Line 最大級の快適船ではあるが
私は1ヶ月も乗れば飽きるかも知れない
- (8) 下船してからの観光は予め船室のTVで見せて
いるが、下船後の乗り物のこと、観光手段など
詳細説明が要る。成功組と失敗組がいた。



オーランドのHTLに集合
他クラブの面々との初顔
合わせが何故か加藤室で。
あさって乗船だ 乾杯！



Carnival Glory 4500人乗り 110,000 t

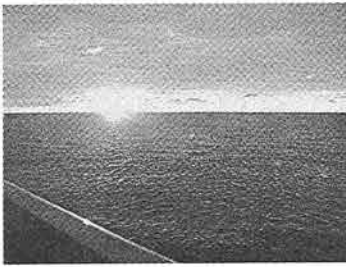


Cabin 加藤室
でラム PARTY
ツインにも W
にもなる BED

ベッドにもなる応接ソファ

全員7階 バルコニー付き
を奮発して良かった！





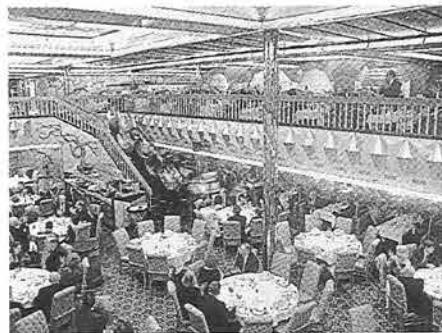
360度が海だから
SunriseもSunset
も見られるのだ。
サウナもジョギン
グもこれを見なが
らできるノダ!



タオル犬の他うさぎや
熊、亀なども。傑作は
象と恐竜だった。毎日
動物が替るのはとても
たのしみだった。



甲羅干しの
甲板面積が
なんと広大
なことよ!
ジョギング
デッキもあ
っていい。



レストラン
の一つ。
二階建てで
インテリア
も豪華。



値打ちだからと勧められ
て行った\$25の人気フ
ランス料理では小池さん
ご一家とバツタリ。

着物も素敵な田子ご姉妹とご一緒にハイポーズ



栈橋に付けられない場合はこうして島観光に行く



メキシコのごスメル
島に上陸、チャーター
したアメ車の大き
なバンで島内一周。
\$250? だめ! \$200?
No \$180だ! OK OK



アメリカ最南端の表示前
は記念写真撮り行列。
KEYWESTではヘミング
ウェイの邸宅を見学した
道路番号はNo.1。



ダンディーに決めている
国際人の小池さんは正装
したダンス相手にことか
かず Shall we dance?

船には日本ではお目にかかれないようなタイプの
女性が目についた。食べ放題の船はやはり彼
ら彼女らに人気なのだと解した。ベリーズ共和
国に入国し世界遺産マヤ遺跡観光でご一緒した。



側面図



背面図

” アフリカはエイズで アメリカはFatで減じる”

おまけ次頁

彼女よりもっと見事な人を僕は下船後GETした。
その内に珍しい写真展をやらなくてはと思った。

おまけの ニューオーリンズ

立ち寄り航空運賃 @ ¥10,000 ・ HTL 2名3泊で \$210
下船後成田に向かう皆さんと別れてのおまけ旅行。



《憧れたジャズの町はどうだったか》

- (1) フランス時代のフランス町フレンチクォーターの家並みと活気が行政の観光資源で主役。
- (2) 海鮮とくに牡蠣、食いしん坊には堪らない町、私達にお金があればLSをしたいなあという感想。
- (3) 50分も乗っていただけるちんちん電車 \$2.5は土地勘を掴むのにとってもいい。2日間で全線楽しめた。
- (4) フレンチマーケットが面白い、香辛料店もある。
- (5) 南北戦争の頃から営業中のカフェドモンド本店 24時間営業、粉砂糖が山盛りの四角いドーナツベニエ \$1.38 とコーヒーだけの名店前ではジャズマンがチップを期待して常時演奏をしている。➔



元豪邸、今 HTL の素敵な Patio

ちんちん電車

- (6) 今尚使用中のバルコニー付きのフランス時代建築のアパート ボルタニカは入居者順番待ちの人気。
- (7) 大邸宅を HTL にしていたので見学 (写真はパティオ) 1泊お呼びでない \$400 \$700の世界だった。
- (8) カジノがある。好きな人には喜ばれると思う。
- (9) 町中がマルデグラを生きがいとし待ち遠しい様子。
- (10) バーボン St. はお上りさんでいっぱい。層の厚いジャズメンの演奏をビールラップのみで聴くの

が似合う。真似て飲んでみた。何時間も居る人もいたりしてあれで引き合うのかと心配だった。

- (11) ストリップが \$7。ステージが二つあってあっちを向いたりこっちを向いたり忙しかった。入れ替えなしだからこれまた引き合うのかと心配であった。
- (12) 風俗営業が XXX Live Show と呼び込みをアルバイト女子学生風の子にやらせていたのには何と言うお国かと勘が狂った。ルイアームストロング公園はこんなバーボン St. を苦笑しているかと思う。



「どこから？東京からだってこのお客さん！」と皆に紹介大サービス



生 XXX 店に入る二人の 20 代女性



むかし何かで読んだ。アメリカ人と結婚するなら南部、それもミシシッピ女がいい。なぜなら人がよくてまるで日本女性と同じように男に尽くす。21世紀の今もそうなのかどうか私は知らない。またここはアメリカ人には人気の新婚旅行地でもあると聞く。町が骨董だからむべなるかなである。ニューオーリンズからもクルーズ船は出ている。私達は次回はここから乗船したいものだ話し合った。おわり

カナダ(ヴィクトリア、バンクーバー)旅行

東京都在住 会員No. 240 菊地範夫・一江

平成17年4月16日～27日 カナダヴィクトリア7泊とバンクーバー2泊 夫婦2人の個人旅行で行ってきました。

天の恵みと「南の会」に感謝

現地の天候は私達が行く直前まで例年より雨模様の肌寒い日が続いていたそうです(10度前後)ヴィクトリア在住の友人からは数回情報をメールで頂きそのたびに天候を心配しておりました。私達の到着日以降は晴天が続き、温度も例年並にどんどん暖かくなり(15～25度)今回旅行のすばらしさの大きな要因、天の恵みとなりました。

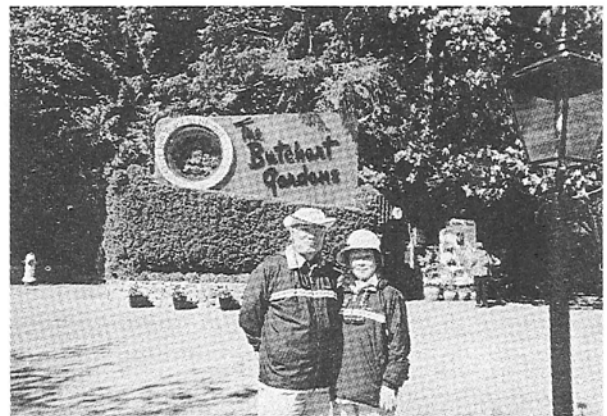
空気は澄んでバラはまだでしたがチューリップが真っ盛りで色とりどり大小さまざまな種類が咲き誇り、八重桜が街路樹として、又公園でも数多く見られ桜吹雪状態でした。色とりどりの花々も数多く咲き華やかな感じ真っ盛り、6月頃はバラも咲きフラワーバスケットが街路灯に飾られ更に華やかな光景になるそうです。ハイシーズン前の少し落ち着いた雰囲気のある町を楽しめました。

早朝の散歩もさわやかで日中のドライブや公園散歩も天候に恵まれすばらしい旅行になりました。天の恵みに感謝感謝。今回の旅ではビクトリアとバンクーバーそれぞれで「南の会」の友人とお会いしました。それぞれすばらしいロングステイを実践されており、大変勉強、参考になり大きな感銘を受けました。これも「南の会」サロン会でお会いし情報を頂きながら交遊を深められたお陰様と「南の会」にも感謝感謝の思いを深めました。お二人からサロン会ではそんなに長く話していないのにこちらでは長時間話が出来ましたねと笑いながら指摘されました。

ビクトリアでは

市バス回数券を買いオーク・ベイ、ブッチャート・ガーデン等いき、徒歩ビーコン・ヒル・

パーク、ガバメント・ハウス、チャイナタウン、インナーハーバー周辺を毎日散策し楽しみました。ブッチャート・ガーデンでは全体にもすばらしいのですが特に日本庭園には感激しました。日本文化が実感され評価されていることが誇らしく感じられました。



ガバメント・ハウスは英国王室の宿泊先ともなっており庭園から海峡越しに見えるアメリカ領オリンピック山脈が白い山並みを雄大に見せ庭園の華やかさと調和しておりました。英国亡きダイアナ妃もベランダからこの景色を見られたのに残念ネ(妻の独り言)。

早朝の散歩は特にすばらしく芝生の中に白い雛菊が咲き木陰ではかたくりの花が綺麗にたくさん咲き、池では鴨が近寄ってえさをねだり、多くのリスがこちらを伺いながらもマイペースで飛び跳ねていました。

海峡沿いの散歩道ではジョギング、サイクリング、犬の散歩等多くの人が散歩し特に感心したのは犬用糞入れゴミ箱がありその上部にビニール袋がセットされており各飼い主が使用していました。配慮、マナーは良いなと感じました。

海沿いのドライブも楽しみ、ホエールウォッチングにも挑戦、シーズンオフのようで鯨は見れず代わりに湾内に定住しているシャチ家族を見てきました、やはり大きく、毎日見学の船に付きまわれ大変だろうなと思いながら見えた

見えたが大騒ぎしていた私、、、。

近くの図書館には毎日行きました。着いた日にパソコン使用カード（無料）を取得し（30分使用限定で無料但し日本語ソフトなし）家族との連絡に使用しました。ついでに何かないかなと分かったような顔して館内周辺を見て回るのも楽しかったです。

友人が通う無料英会話教室にも飛び入りで参加致しました。（大学が英会話講師を養成する講座で実技実習を行う時の生徒を募集し無料で行う授業）見学の気分で行きましたが早速15名ぐらいの生徒の仲間として授業が始まり講師から設問や問いかけ、ゲーム形式のトーク等冷や汗かきかきジャパニーズオンリーと回答。隣の女性からはトライ、トライと励まされ何とか授業の雰囲気壊さず笑われながら2時間が過ぎました。話したり聴いたり出来る方も正式な英会話を勉強するために熱心に通っておられるようで、何事も前向きに勉強しなければと感心したり反省したりの大変な体験でした。

ホテル状況ですが今回泊まったホテルは2ベッドルームで広く贅沢な部屋でした数軒見学しましたがほぼ同価格で同じような部屋でした。B&Bについてはあまり情報は掴めず日本の方が旅行社や宿にメール、電話等で確認しやすいような感じがしました。

バンクーバーでは

語学留学中の「南の会」会員馬場章介さんとお会いしました。サロン会でよくお会いしていましたが口ひげをきちんと整え精悍な顔と赤いシャツがよくお似合いでホテルロビーで思わず失礼ですが馬場さん、、、と声を掛けてしまいました、、、（失礼、失礼）（英会話勉強のため3ヶ月の留学中）今回は土、日曜学校休みでしたのでお付き合いいただきました。

バンクーバーの町は落ち着いた高級住宅地、別荘地雰囲気のビクトリアと違い大都会でした。交通量も格段に違い、町行く人の年齢も数も違うように空港からホテル、ホテル周辺を歩いただけで感じました。市バス、スカイトレイン、シーバスと主要交通には体験乗車しました。

バスでスタンレー公園に行きましたが市街地に隣接する広大な公園で散歩。ジョギング、ローラーボード、ローラースケート、サイクリング

等多くの市民が集まりそれぞれ楽しんでいました。海辺で子供達が水遊びし劇団員によるパーフォーマンスが見れたり、海峡沿いにノース・バンクーバーやウエスト・バンクーバーの高級住宅街が見え、後ろに白い雪山が見える絵葉書に出てくるような景色の連続でした。

翌日市内観光の後スカイトレイン、シーバス、市バスを乗り接ぎノース・バンクーバー馬場さんのホームステイ先フォーレスト夫妻宅を訪問いたしました。静かな住宅街の中に木立に囲まれた白い二階建てのお家で綺麗な庭（馬場さんが石洗を手伝い喜ばれたそうです）。各お部屋等拝見し奥様がお茶を入れて歓待してくれました。ご主人はシャイなのか挨拶だけで出てきませんでしたでしたが帰りには時間調整しホテルまで車で送ってくれ馬場さんも驚いていました。



家の裏には広い公園がありショートコースゴルフ場、テニスコート、小川、池があり遊歩道も整備され家族連れなど多くの市民が楽しんでいました。馬場さんも平日は人が少なく落ち着いた散歩ができ英会話で疲れた頭を癒すのに最適だと笑っておられました。すばらしい環境に感心していましたが、貴方もチャレンジしたら、、、（妻の独り言）。

ホテル状況ですが日本人も多くホテル事情も良くホームステイ住宅等も整っており時間を架け自分にあつたところを探す努力をすれば問題はない様です。

帰国当日、朝の散歩を楽しみながら新聞を何気なく見ると電車事故の写真がありテレビでも事故のニュースが流れ尼崎JR西日本の惨事を知りました。空港に向かうタクシーの中でもインド人の運転手から日本の事故について話し掛けられ大事故らしいと感じ、心配しながら帰国の

途につきました。

【費用】

交通費

エアーカナダ 成田—バンクーバー—ビクトリア往復 (航空券 68000円 TAX 5100円 空港使用料 2040円 航空保険料 7600円)
合計 82740円/一人
使用旅行社 アルキタドットコム(株)

宿泊費

ヴィクトリア 「シャトーヴィクトリア」
110カナダドル/部屋X7泊
バンクーバー 「デルタスイート」
100カナダドル/部屋X2泊
使用旅行社 ヴィクトリア在住 アスターツアーズ(株)
1カナダドル約87円 但し旅行社カナダドル送金時カード使用が出来ない為4000円送金手数料が掛かりました。

食事代

ヴィクトリアマリナーレストラン豪華バイキングケーキ付 約3000円/一人
ビクトリア 日本食レストラン 鉄板焼肉 約3500円/一人
バンクーバー日本レストラン 品数豊富食べ放題 約2500円/一人
バンクーバー中華レストラン 豪華ディナーコース 約3000円/一人
特に美味しく頂いたところの価格です。
日本食材も多くそろっていますが味噌、しょうゆ等調味料は日本の2~3倍します。
肉、魚は安く現地の食事をしていれば日本より少し安い感じです。

税金の還付

ホテル代、おみやげなど一定の条件がありますが税金の一部がカナダ政府より還付される制度があります。空港で手続きをしますので高額なお買い物をおされた方はお忘れなく、、、。

以上

〔 関東支部 男の料理教室のご案内 〕

開催日程 約4ヶ月に1回の頻度で現在まで4回開催

開催場所 東京都町田市 まちだ中央公民館調理室

参加人数 平均10名 関東支部西部地区会の方が中心ですが遠方からの熱心な参加者も居られます。

費用 毎回参加者均等割り精算700円から1000円

教室の目的 ①男一人でも食生活が出来る事
②女性サービスDAY(作る喜びを知る)
③親睦と有意義な時間の共有

活動内容

各回とも会員石川やすおさんをメイン講師に、今までに山田宏秀さん、菊地範夫さん、渡辺博文さん等参加会員が講師となり、得意な料理、教わった料理、など下記メニューを調理勉強しています。

参加者はほとんどの方が調理経験が少なくお米の研ぎ方、包丁の持ち方、野菜の切り方、調理、盛り付け、後片付け、までわいわい騒ぎながら各人が実際に行っています。

試食は十分時間を取って質疑応答しながら行い、親睦も深められとても楽しい時間です。熱心な人は帰宅後チャレンジし皆さんに報告メールをくれた方も居られます。

今までのメニュー

- 1回 おこげご飯野菜あんかけ
砂肝とにんにく炒め、野菜、サラダ
- 2回 釜揚げうどん(てんぷら)、肉じゃが
- 3回 タイカレー、チキンカレー
- 4回 かれいの煮付け、タコ唐揚げ、焼き鳥、ちくわアラカルト

責任者：会員番号670番 今野力男

その他関東支部には「英会話教室」「囲碁教室」「カクテル教室」がありますが、都合により当分の間休講致します。

秋には再開したい意向です。

アフリカ紀行(チュニジア編)その1

埼玉県在住 会員No. 40 平澤 信

VISAと旅日程

'02年(平14)12月16日(月)から'03年(平15)3月17日(月)までの3ヵ月間(90日)パリ経由アフリカのチュニジアからモロッコへと今年も避寒の旅に出掛けた。

航空機はエール・フランス使用。成田→パリ往復82,000円。パリ→チュニス片道13,500円。チュニス→カサブランカのチケットは、現地チュニジアで購入のため193ユーロ(23,466円チュニジア航空使用、無理に往復券を買わされたため割高)。カサブランカ→パリ13,500円。HISの浦和で3ヵ月FIXフリーチケットを購入。

滞在期間は、アフリカのチュニジア37日間。モロッコ38日間、そして、帰路パリにて途中降機。2週間滞在。

VISAは、3カ国とも90日以内は不要。

パリ経由

'03年12月16日(月)21:55分(AF273便)成田発パリ行きは、1つの空席もないほど混み合っていた。保育園かと思うほど幼子を連れた乗客が多い。リゾート地からの乗り継ぎ客だとスチュワーデスが教えてくれた。

通路を挟んだ隣席には、2歳半の幼児を連れた、ニース在住の若い母親Sさん親子。この赤ん坊の名前は「万理子ちゃん」あまりの可愛さに、声を掛けずにはいられなかった。航空会社が用意した、おにぎりを上げて、手なずけてしまい、パリまで退屈する事もなく着いた。

このチビ助はニースの家で、フランス人の父親にはフランス語で、母親には日本語で話すと言う。私とは、勿論訛のない綺麗な日本語で話した。眠ったり、食べたり、話したりしている間に14時間は過ぎた。

早朝5時パリに着いた。乗客のために、航空会社が用意してくれた朝食のクロワッサンの美味しいこと！見かけは、日本の物と何ら変わっていない。この違いは何だろう？ 多分、ドッサリと動物性のバターを使っているに違いない。

毎日これを食べ続けたら、フランスで良く見かける、自分のお腹の出っ張りで、足元が見えなくなるほどの肥満体型になること間違いない。

まだ明けやらぬ空港レストランで、Sさんと体型の話をして大笑いした。チビ助も、意味が分からず手を叩いて一緒に笑った。

Sさんは「夫は大事にしてくれるけど…」と言いつつも、異文化で暮らすことの大変さをいろいろ話してくれた。

よほどの覚悟があつての国際結婚であり、渡仏であったことを思えば、他人の私は何と声を掛けてよいか言葉が見つからない。

移住も考えている長期滞在者にとって、示唆に富んだ内容であった。3月、旅の帰りにニースにも来るように勧められ、私も行ってみたいと思ったのだが、帰路は、疲労困憊してニースまで行くパワーは残っていなかった。

別れ際、「お元気で！」と握手した時、Sさんの端正な横顔にフッと見えた、あの寂しげな表情が忘れられない。

首都チュニス

'03年12月17日パリ発8:00→2時間25分のフライトで予定通り10:25チュニジアの首都チュニスに到着。時差7時間。

パリ→チュニス間の便には、浅黒い皮膚と、鋭い目、黒い髪、2m近い長身、100kg近い体重を持つアラブ系の人達が90%以上が占められている。こんな大きな人達の中にあつて、体の小さい私は、ひ弱に見えたのか、荷物の上げ下ろしから、食事に至るまで、「壊れ物注意！」と言う感じでVIPのように丁寧に扱っていただいた。

お陰さまで、壊れる事もなく、気持ちよくチュニスへ入国できた。

空港から、市内までタクシーで約10分4~5ドラム(D)(450円)との表示に、大荷物もあるのでタクシーに乗った。ところが、渋滞に巻き込まれ、支払ったタクシー代は16D(1,453円)となった。これでは物価高の日本と変わらない

ではないか。おまけに、この国の通貨換算に馴染んでいない旅人をいい事に、お釣りの2D（180円）まで誤魔化された。いろんな国を旅して思うに、どうもタクシー運転手の誤魔化しは世界共通の物らしい。

後日、ホテルのフロントマンが、「空港からのタクシーは、わざわざ渋滞の道を通ったり、メーターをインチキ操作した物が多いため、地元の人は乗らない。」と教えてくれた。

そんな訳で、私は初日からアラブの厳しい洗礼を受けた。

12月半ばのチュニスには、夕方6時近くまで明るく、日中の気温24～25℃。青々と茂った街路樹と、澄んだ青空を見ていると、ここがアフリカである事を忘れてしまうほど気持ちよい。アジアとも、ヨーロッパとも違う温暖で柔らかな気候。

新市街は、大きな教会、立派な劇場や銀行が建ち並ぶ現代的なフランスの小都市の感じがする。そして、チュニス一番の大通りには、この国の「独立の父」の名にちなんで、「ハビブ・ブルギバ通り」の名が付けられている。公園のように広く、花や、樹木が美しく整備されていて、庶民の憩いの場になっている。



チュニスの街並み

チュニジアでは、どんな地方都市に行っても、その街一番の繁華街には必ず、ハビブ・ブルギバ通りがあり、観光客にはとても分かり易い。だが、至る所にパリ通りだの、フランス通りが在るのは頂けない。この国の民は抵抗がないのか？ それとも深い訳があつてのことか。

私も、チュニス到着の翌日、この大通りのベンチで、日向ぼっこをしながら、ガイドブック

を読んだり、ここに住むフランスの初老のご夫人とお話を楽しんだ。

かのご夫人が言うには、チュニジアはどこへ行っても治安がよいこと。外国人には誰もが親切な事。ただし、旧市街のメディナ（昔からあるアラブの商店街）は外国人観光客も多いので、スリなどには注意が必要なこと。

そして、声を落として、「でも、ムスリムとしては、少し不真面目な人達よ」と、私の旅に必要な情報を教えてくれた。

彼女は、27年間チュニスに住んでいると言うが、香水をつけるフランスの習慣だけは、今だ抜けないらしく、香水のキツイ匂いに、私は酔ってしまいそうだった。

季候は温暖だが、やはりここはアフリカ。食べ物には主に、パンと肉類。フランスパンのほかに、丸いアラビアパンもよく売られている。パンも肉も大好きな私は、この旅は楽勝！と最初は思った。しかし、毎日同じ物を食べる習慣は私達日本人にはない。バランスよい食事をきちっと取らないと心まで乾く感じがする。豆のスープはいろいろあるが、豆は苦手なので、大いに苦戦した。街のレストランで、「ショルバ」を見つけれなかったら、この国の印象も違っていたかもしれない。魚でスープをとり、野菜や肉が入っていて、トマト味のショルバだけは毎日食べても飽きない絶品だと思う。

この国の有名料理に「クスクス（1cmくらいにちぎった細いスパゲッティのうえに、ビーフと、人参、玉葱などの煮物が乗っている）」があるが、私には、「ポソポソ」と言い換えたくらい水分がなく食べにくかった。有名店で食べても物足りない味だった。

魚貝類の料理もあるが、ケチャップやバターを付けて、味がわからないほどカラカラに焼いた物が多く、私の口には合わなかった。

ここで働くJICAの人達が、「この国の平均寿命は50歳に満たない」と言っていたが、こんなに偏った食事では「さもありません」と思った。

街の人々の日本人観は、異常と思えるほど親日的切で、イタリアン・レストランへの道を聞いたら、アッという間に8人もの人に囲まれ、あっちだ、こっちだと道案内してくれた。店が潰れた可能性が大なのだが、船頭多くして何とやら、結局、私は目的地へ行けなかった。

中には、何で集まっているのか意味も分からず、私を見て、「中田！（サッカー選手）」と、叫んだり、「スズキ・ジェミニ（日本の車?）」と言う人もいた。とに角、日本人と見れば、絶対に黙ってはいない人達だ。物珍しく、善意ではあるのだが、これが毎日ともなると、かなり鬱陶しい。だが、毎日パンダになった気分、サービスに勤めた。

旧市街のメディナ(アラブ系大商店街)

メディナが、本来のチュニジアに古くからある街並。生活用品のすべてと、上等なアラビア絨毯、香水、みやげ物が売られている狭い路地には、蛇使いの奏でるようなアラビアの音楽が流れ、街の様子は一変する。



メディナ内の通路

「これがアラブの世界じゃ！」と、言われているようで、我々旅行者は身震いするほどワクワクする。この商店街に、これと言って欲しい物もない。だが、香辛料の店と、喫茶店には良く出掛けた。白い漆喰と、豪華な絨毯が敷き詰められた、どことなく秘密めいた喫茶店で、アラビアン・コーヒーを飲んだ。何時も数人の男達が、ここでトグロを巻いている。

彼らは、日がな一日、ここで水タバコを吸って遊んでいる。私が、物珍しげに水タバコを見ていたら、一服どうかと勧められた。私はタバコが苦手で、よく分からないのだが、折角の勧めなので、肩に力を入れてトライしてみた。吸った煙が水の中を通るせいか、紙巻タバコよりかなり軽い感じがする。

この雰囲気私に飲まれた嫌いもあるが、コーヒーの味は、中々いけると思った。

カルタゴの悲しみ

メールで、友人と、今何処を旅しているかを確認し、落ち合ったところが、チュニジア。そして一緒にカルタゴ散策となった。文明の利器に感謝。

カルタゴは、数千年の昔から、豊かな文明を持ち栄えた都市で、ヨーロッパ文明の礎を築いたことで知られている。しかし、「その豊かさ故に見舞われた悲劇も忘れる事ができない。度重なるローマ軍との戦いに敗れ、(紀元前149～146年)陥落した」とガイドブックには書いてある。

この時のローマ軍の破壊振りは徹底していて、街を焼き払ったうえ、廃墟に塩をまいて、人も住めず、作物も出来ないように徹底的に破壊したと言う話はあまりにも有名だ。

だから、カルタゴには、その頃を偲ぶ古い遺跡は殆んど残っていない。唯一つ例外的に残っているのが、トフェ(墓地)と、ドッガの遺跡と言われている。カルタゴの面影を偲んで、まずは「トフェ(墓地)」の遺跡を見に行った。

一見何の変哲もない普通の墓地であったが、説明を聞いて鳥肌が立った。

この墓に埋葬されているのは、生贄(いけにえ)にされた幼児が多いと言う。説明によれば、当時カルタゴでは、都市の繁栄や、戦勝祈願のため、幼児を殺し、神に捧げる生贄の習慣があったとのこと。「司祭は、幼子の首を切り落とし、燃え盛る火の中に投げ入れた」という。だから、この墓地からは、今も、炭化した幼児の遺骨が入った骨壺が出るのだという。

なんと惨い話であろうか！生贄として、幼子を差し出さねばならなかったこの子達の親は、どれほど狂おしい気持ちであったか察して余りある。庶民にこれほどの惨い犠牲を強いる政治や、宗教とは一体、誰のためのものなのか、深く考えさせられた。

誰もいない、荒れ果てたこの墓地で聞こえたヒューと言う風の音は、幼子と、この子らの母親のすすり泣きに聞こえた。因みに、私なら、飼猫だって決して差し出しはしない。

しかし、今もイラクで、聖戦の名のもとに、数万に及ぶイラクの庶民の、惨い殺され方を見れば、多大な犠牲を払っているのはいつも弱者である。残念ながら、人類は何千年経っても少

しも進歩していない気がする。

だが、私達が見た現在のカルタゴの街は、高級住宅や、外国の大使公邸等が建ち並ぶ、豊かなたずまいに生まれ変わっていた。町全体が、白壁とチュニジャン・ブルで統一が取れている。

華やかではあるが、少し重厚感に欠ける気がした。

2人の日本の若者達

カルタゴ周辺を観光しているとき、日本の若者2人に会った。偶然2人とも24歳。

T君は、2年間フリーターとして働いたお金で、チュニジアと、北ヨーロッパを回る長旅と言う。26kgの大荷物を担いだ典型的なバックパッカー。

「いま時の若者は何事も合理的」と思っていたのだが、T君の旅日程や段取りを聞いて、余りの要領の悪さに驚いた。

大荷物を背負ったまま観光している彼を見たとき、すでに疑問を感じていたのだが、観光地の回り方も、一旦首都チュニスへ戻っては次の観光地へ赴くと言う効率の悪さ。何故どんどん列車やバスに乗って先へ進まないのか？話を聞いてイライラする。もう4日間もチュニジアに滞在しているのに肝心なところを何一つ見えない事を指摘すると、「僕は、観光が目的ではなく、遺跡を回っているから…」と言う。「それを観光と言うのよ！」と思わず語気が強くなってしまった。それに、この辺りには古い遺跡など殆ど残っていない。

彼にあまり親切にしてあげなかったのも、ホテルまで訪ねて来ることはないと思ったのだが、夕方、私達よりも早く、同じホテルに到着していた。

その夜、彼が「サハラ砂漠への行き方とホテルの状況などを教えて欲しい」と言った。彼のチュニジアでの持ち時間は、もう3日しか残っていないという。でも、ぎりぎりで行ける日程を組んであげたのに、メモ一つ取っていない。

本気で行く気はない？ とその時は思ったのだが、翌日、フロントマンが、「Tは、サハラに行くと言って早朝にチェックアウトした」と聞いて驚いた。あの段取りの悪さで、サハラを回って北ヨーロッパへ辿り着けたのであろうか？極寒の北ヨーロッパへわざわざ冬に向かう意味も分からない。-20℃~-30℃にもなる、かの地

で、彼は何を楽しんだのだろうか？

「出来の悪い子ほど可愛い」と世間では言うが、心に余裕がないのか、私は、T君を余り可愛いとは思えなかった。

もう1人の若者S君は、大手貿易会社の新入社員で、初めての赴任地であるエジプトのカイロで、これから仕事をする相手国の様子を見てくるように会社から言われての旅なので、仕事のよう、遊びのよう旅とのこと。

彼の旅日程は、無理も、無駄もなく合理的。しかし、見るべきところはきちんと網羅されている。長旅にもかかわらず、コンパクトに纏められた荷物一つ見ても、彼の人柄が分かる。たかが旅、されど旅、自分の意志を持って自由に行動できる人を私は好ましく思う。

2人が旅だった後、これから歩まねばならない2人の若者の、長い長い人生を考える時、S君に対しては、何の後顧の憂いも感じないのに対し、T君には、目まいがしそうな不安感を感じる。この気持ちを人々は、「出来の悪い子云々・・・」と言うのだろうか。

でも、T君は、段取りが悪い分いろんな体験をして、逆に、変化に富んだ楽しい人生を送るのかも知れない。やはり人は死を迎える時までには分からない。

チュニスで暮らす日本人

友人が、航空機の中で知合ったと言うY氏は、日本でも有数のIT企業の社員であったが、リストラされそうな気配だったので、海外に新天地を求めJICAの職員となったという。53歳で、滞在2年目。

大きな夢を持っての赴任であったが、日本とチュニジアのIT技術には乖離が大きいというえ、予算も乏しく、殆ど動きが取れないと言う現実の中で、ここに留まるべきか、日本へ帰国すべきか悩みも深刻のようであった。彼の職場はチュニス大学工学部で、個室も与えられ、私には、一見恵まれている感じではあったが…。人間、充実した時間と少しの夢がないと生きられないのだろうか？特に、若年の場合は。

因みに、彼のJICAからの給料は、15万円で、広い庭付き2階建ての5LDKに住み、レストランで食事をしてゆったりと生活できるとの事。

彼と一緒に配属のN氏は、ソルボンヌ大学や、

コロンビア大学で教鞭を取った事もあると言うエリートで、68歳。全てやるべき事をやった上での赴任のためか、Y氏に見る焦燥感は感じられず、チュニスでの生活を楽しんでいるようであった。

治安が良く、親日的で、生活レベルも高いので住んで見たい国の一つだが、東南アジアの倍近い物価には二の足を踏んでしまう。

ドッガの遺跡(かくも恐ろしき病院の話)

チュニスからは、公共の乗り物も出ていない辺鄙な場所に忽然と現れるアフリカ最古のローマ遺跡(世界遺産)。この遺跡へは、車で5時間近く掛かるため、個人旅行で行く事は殆ど不可能と思われる。私達は、幸運にも前述のJICA職員Y氏のご好意で、車に同乗という幸運に恵まれた。こんな時は本当に同朋の親切は身にしてみる。この親切が、アラブ人であっても、中国人であっても私達は警戒して、この時を存分に楽しめなかったと思う。

専門家の説明によれば、世界遺産であるドッガの遺跡は、紀元前2~4頃の最盛期には1万人以上が住み、繁栄を極めていたという。衰退後、数千年の間放置され、土中深く埋まっていたため保存状態は最高。だが、まだ発掘途上で、観光客に今見せている、遺跡の5倍とも7倍とも言われている巨大遺跡だが、発掘作業がチュニジア流なので、遅々として進まず、観光客もまばらであった。

でも、今見えている神殿、劇場、庶民の住居、浴場、売春宿、病院の遺跡からも、当時の繁栄の想像はつく。2千年以上前から、トイレはすでに水洗と言う現代的設備には驚いた。

ただし、この病院、遠路はるばる運ばれてきた重病人も、不治の病と分かると手当てせず、病院の外に放置し、野ざらしにしたという、かなり恐ろしい病院であったようだ。

この広大な遺跡の石畳の道に立ち、目を瞑って見れば、馬のひずめの音や、この街の人々の話し声、笑い声が聞こえてきそうな生々しさが蘇る不思議な遺跡だった。

夕刻、チュニスの街で、JICAのY氏とN氏そして私の友人と4人で、彼らがいつも行くというレストランでデナーを楽しんだ。フルコースのメニューにワイン、チップ込みで60D (5,43

0円1人分は、1,358円)で、味もよく、満足の行く食事内容であった。

ムスリムは酒を飲まない修行僧のような生活。と思っていたが、レストランなどでは普通に酒も出されていた。

余談だが、後日友人と、ガイドブック掲載の土地の人達が行く評判の、「酒を出すレストラン」に行ってみた。入り口は、オフィスのように、外国人には分からない。確認してドアの中に入ると、そこは別天地。日本にも良くある、明るい感じの大衆飲み屋の「天狗」とか「素材屋」風。海の幸・山の幸の料理で飲む酒は中々の味。隣で飲んでいた初老の紳士が、「東京に行った事がある」と懐かしがって、エビの唐揚げを奢ってくれた。店内は、あまりにも騒々しくて、話がよく聞き取れない。けれども、開放された人々の楽しそうな様子だけは良く分かった。ムスリムにも抜け道がある事に少しホッとする。フランスのご夫人が、ブルギバ通りで言った「あまり真面目でないムスリム」とは、このことであろうか?



ハビブ・ブルギバ通り

スースへ(見たぞ! 売春宿)

12月20日(金)。チュニス発12:05の急行ガベス行き2等列車に乗車でスース下車5.9D (536円)。列車の音から多分ジーゼルカー(?)だったと思う。進行左手に地中海の青い海と、どこまでも続く淡いオリーブ畑を見ながらの2時間は快適そのものの旅。車内販売もあり、その調理パンの美味しかったこと。普通の卵とハムと野菜なのだが、味が日本の物と違う。太陽の匂いがする。きっと地鶏の卵に・地豚(?)の肉に違いない。地平線まで続くオリーブ畑を

見て、オリーブの需要が多い事に驚く。外国人が、日本の秋の水田を見て驚くような物か？

14：03分、時間通りスース着。

スースの街は、あまり大きくないが、リゾート地としてホテルやレストランなど観光客の受け入れ態勢は整っている。

海沿いの美しい遊歩道には、カフェテリアもあり心憎いばかりの演出がなされている。

この街には、ヨーロッパ特に、フランスからの観光客が多く、オフ・シーズンの冬の間も寂しい感じはしない。冬でも、昼の気温は25℃くらいになるので、西洋人達は、半裸で日光浴をしている。

ホテル代も安く、広いリビングに台所用品一式が揃ったキッチン、バスタブ、TV付き。

1泊20D (1,800円)。

この台所で、肉じゃが、ボルシチ（ロシア風トマト味スープ）等を作って食べた。残り物を、ホテルのスタッフに上げたら、翌日から、石鹸やタオルの大盤振る舞いが始まり、街の情報提供に早朝から私の部屋への来るなど、有難いような迷惑なような…。見返りは、念頭になかったので、人様に物を上げる事の難しさを知った。

観光定番の旧市街のメディナへ行って超驚いた。その日歩いていて、ここで終わりに見えた道が、よく見ると人が入れるようになっている。近道か？と思って少し歩くと、そこは不思議な雰囲気の小路であった。売っている物が何もなくて、玄関先には、申し合わせたようにコンロで炭を熾している（魔よけ？）。炭火の匂いが日本への郷愁を誘う。家の中を覗いて見たら、どの家にも、この世のものとも思えない肥満体型の、元横綱・曙クラスの年配のご夫人達が陣取っている。その様子は、さながら、相撲部屋のよう。

部屋を直接見たわけではないが、誰が見ても、ここが売春宿である事は一目瞭然。大変なところに入ってしまった。と、急ぎ足で通り過ぎようとしたら、このご夫人達に「こんにちは、とか、ハロー」と、にこやかに挨拶された。こんな時、本当はなんと答えるのか分からないが、何時もより少し丁寧に頭を下げ「こんにちは」と挨拶を返した。

こちらが、気を遣うほど彼女らは気にしている様子はなく、「日本から？とか、良い旅を！」

と声が掛けられた。

少し近道をしようと言う横着が裏目に出て、この袋小路をご丁寧にもう一度戻る羽目に。

ここを見た事が私にとって良いことか悪い事かは分からないが、合法的とは言え、体を売る商売なんて自分の身を食い詰めているようで、あまりにも侘びし過ぎる。けれども、こんな商売好んでやる人はいない。深い事情がそうさせたに違いない。旅することは楽しいが、こんな重い課題を突きつけられ、心を苛まれる事もしばしばだ。

でも、この人達が隣の小母さんのように親しみやすく、屈託のない笑顔であったことが少し救いではあったが…。

それにしても、あのご夫人達と事におよぶ男達は、よほどの覚悟がいると思った。

後日、旅先で出会った日本の男性達に、この話をしたら、例外なくみんな目を輝かせた。筑波大の研究室で働いていると言う某氏などは、ガイドブックにこっそりと、「この辺が面白い！」と朱書きを入れ、赤丸をつけていた。

スースは私の好きな街のリストにファイルした。足腰弱くなったら、冬の間ロングステイして見たいと思っている。寒くなく（25℃程度）、海があり、空気が澄んでいて、人が少なく、ホテルも安い。メディナに売春宿はあったが、新市街は、治安もよく、清潔で品のよい街だ。

【秋季号に続く】

寄付のお知らせ

次の方々から当会に寄付がありました。
有り難う御座いました。

No. 940 岸 幹男さん 5,000円 (H17. 4. 25)

No. 427 小川 政子さん 20,000円 (H17. 5. 14)

「海外ロングステイセミナー in 熊本」どたばた記

熊本県在住 会員No. 581 朝永 美代子

●熊本でサロン会を開催したい

南の会に入会させて頂いて、そこに将来居住できるかとの目的を持った視察旅行としては初めて、昨年の10月にバギオを訪問した。すぐ何にでも感激をするものの、年齢と共に物忘れもひどくなっていて、自分の頭の記憶力は当てにならないので、視察の収穫はすべてビデオカメラに収めることにした。後の編集の大変さも考えず撮りまくった事で1時間ものにまとめるのに、未熟さも手伝ってかなり手こずった。

何回も失敗しながら、時間をかけてやっと1枚のDVDができあがった。映像と音声のずれがどうして起こるのか、結局解決出来ないまま(ソフトの所為にして)ギブアップしたが、それでも自分としては大満足の編集作業だった。

初めて体験した小旅行は驚きと感動が一杯だったので、自分のそんな興奮をとにかく誰かれとなく紹介したくて、迷惑も考えず不出来のDVDを友達に配りまくった。そんな友人から、もっと話を聞かせてという声が聞こえるようになり、南の会の事から話している内に、支部会員の方の経験談も聞いてもらいたいとの思いに至った。でも、支部の情報交換会は福岡でしかしてなかったし、そこまで誘う事は困難、では熊本で開催するしかないという結論になる。

2年前に私が初めて支部の情報交換会に参加させてもらった時、丁度ご出席頂いていた池田会長にいつかは熊本で開催したいと申し上げていたが、福岡のように会場の使用料が無料であるかもしくは格安であることにこだわったため適当な所を探し出せず、熊本では無理だと、ずーっと諦めていた。今回借りた熊本県民交流館「パレア」の会議室使用料4時間1万800円というのが、その時は、とてつもなく高く思えて検討外だった。

今回、街づくりのボランティアをしながらそのような会議をよく開催している知人の一人に相談したところ、参加費を集めれば少なくとも会場費くらい出るのではないのといわれ、500

円として20人集まれば……そうだよな〜って、今まで予算0で何とかしようと考えていたことがなんとばかげた事だったかということに気づいた。

それからもう迷うことはなくなって、すぐに熊本でサロン会みたいな事をやりたい、そして会員外の人をたくさん参加させたい、ということ支部長と役員の方に相談した。

もう随分前になるが30代から40代にかけて、仕事からみで部内の職員を対象に自主研究会なるものを同僚と一緒に企画し開催していた。部外から名の通った講師を招き、九州大会やら県大会やらと、素人の集まりでよくやっていたものだと思う。そのころの事をふと思い出して、同じ手法で会議を開催出来ないかと思った。そして、そのころの自主研究会と今回開催しようとしている会との違いはどこだろう、から私の取り組みが始まった。

●費用をかけない運営

熊本でサロン会風なものを開催したいと初めて支部長に相談した日は3月1日だった。1月の支部新年会で4月に花見を兼ねて総会をすることが決定されていた。熊本城の桜も見事だし時間はなかったが気持ちがはやって、総会は熊本でももらいたいと思った。

ロングステイに興味を示した前出の知人にどのくらいの規模で開催するかを相談した。私が100人位だろうかと言うと、100人が一番運営的に難しいんだよね、60人が5人ずつ連れてくればすぐ300人にはなる、そこら辺がいいと言う。どこからそのような計算が出てくるか理解出来なくて、結局自分が出した目標100人に決めその足で会場の予約に行った。午後からの4時間を利用出来る日がほとんど空いてなく、一転二転しながら、結局熊本での花見は諦め、4月15日に決定したのが3月3日だった。日曜でなかったのが会員のみなさんにはその旨了解をもらった。

早速準備に動きはじめないともう時間がなかった。自主研究会の時は6ヶ月前、遅くても3ヶ月前から準備に取りかかり、何回も多くのスタッフが集まって打ち合わせをしていた。参加者を募るチラシを作成するためにも、早急に大まかな内容と会費だけでも決めねばならなかった。竹村副支部長の渡航からの帰国と稲延支部長の渡航出発の合間を縫って3月10日に役員会を開催してもらい、私が計画している事のアウトラインを説明し、理解してもらった。セミナーとして開催する、基調講演の講師を本部の高澤氏に依頼する、九州会員全員で役割を担い盛り上げる、会費500円ということが決まった。

その後すぐ稲延支部長からは酒匂理事長さんに講師派遣の依頼、竹村副支部長からは支部会員へグループメールで周知してもらい、また、タイ国政府観光庁やマレーシア政府観光局にも参加者に配布する資料等の提供依頼のアクションを起こしてもらった。後にチェンマイ在住の方から体験談をお話しして頂けることが確定してからは、竹村副支部長からタイ国政府観光庁に後援名の使用を依頼してもらい快諾を得たので、その肩書きがその後のいろんな所への交渉に大いに役立った。

自主研究会との違いをここから考えねばならなかった。まず、立ち止まってじっくり案を練る時間がないこと、会員スタッフが集まっての打ち合わせが簡単に出来ないこと、参加費を3000円集め、?0万円から多いときは?00万円だった予算が今回は最大で見積もって5万円であること、開催地熊本で活動出来る会員が自分だけ、参加呼びかけ対象者が無限、等々。

いつもは思いつきで衝動的に行動する自分も今回だけは計画して取り組まないと大変なことになると思った。会員の方々からは何か手伝うことはないかとメールをたくさんもらってありがたかったが、当面は熊本でしか出来ない事ばかりで自分でするしかなかった。そのことがまた自分を奮い立たせた。

打ち合わせに代わるものとして、グループメールが役立った。思いついた都度役員さんに諮り、その日の内にメール会員へ周知したり、準備の進み具合を自分では逐一メールで報告したつもりだった。時間に余裕がなかった所為で一方的になってしまったが、常に情報を共有すること

と、独りよがりの危険を制してもらいたいとの思いがあった。予算の問題は、会場費と機器使用料、あと人集めのための周知費用、配布資料費用位にしか使えないこと、100人集められるか確定でないことから、極力無駄を省くことにした。しかし、参加者を一人でも増やすためには、カラー印刷の目立つチラシが必要で、インク代が嵩んだがそれはどうしても譲れなかった。

報道機関に人脈が太い知人の助けを借りて、新聞3社、テレビ局2社、地域誌2社へチラシを持ってセミナーのPRをお願いに行った。また、会場となる県民交流館「パレア」のホームページ上でも案内してもらおうようお願いし、チラシも置かせてもらった。どこもみんな責任者が応対してくださって、とっても好意的だった。結局新聞4社(1社はパレアのHPを見て相手側から掲載依頼があった)、地域誌2社が事前の案内を誌上に掲載してくれた。

個人的な知人への案内は、はがきを出した。このはがきで予定の約半数以上は確保出来ると考えていたのが見事に当てがはずれた。ウィークデーも災いした。逆にそんな日を決めた事を恨まれた。人が集まる場所や知人友人に依頼してサークル等で配布してもらったチラシの効果と新聞等の案内の効果に期待するしかなかった。参加の申し込みが郵送でなくほとんど電話であって、留守電に無言電話がかなり入っていた。留守がちの私の反省点、たくさんの方に迷惑をかけた。

●九州支部の結束

私の個人的な希望から始まったセミナーの開催に、支部会員全員のみなさんの理解と協力が本当にありがたかった。現役を離れて気ままにゆつたりの生活、それを求めて南の会に入会したのに、毎日毎日こうなりました、あれをしてください、という洪水のようなメールにも何の苦情もなかった。私は一部始終を報告していたつもりでも一方的なメールではそのすべてを伝えることは不可能だったと思う。

4月1日の総会の席で初めて口頭でセミナーの趣旨説明をさせてもらい、プログラム案に沿った大まかな役割分担まで決めてもらった。ロングステイとはの映像による説明と基調講演は別

として、各自の持ち時間55秒での自己紹介とパネルディスカッションの内容については竹村副支部長に模擬演技までしてもらって理解してもらった。みんなで集まる日は当日以外にこの日しかなかったの、出来るだけリハーサルに近いものをしたかった。ただパネルディスカッションの参考にするため、全員をお願いしていた渡航情報の収集が不完全だったので、そのシナリオ作りが十分に出来なくて、あとはまたメールと電話で打ち合わせることにした。

その後、当日のタイムスケジュールに沿った詳細の役割分担は参加する全員の会員さんへ、これもメールで依頼した。一人で何役も受け持たねばならなかった。県の施設を借りた関係で使用時間が厳格で、会場設営開始からセミナー開始まで25分しかなく、受付係、案内係、看板設置係、机椅子配置係、マイク係、映写機器係、閲覧資料配備係と一人ひとりが持ち場の責任を全うするしかなかった。そのほかに報道機関対応もあった。

当日の午前中2時間を使っての打ち合わせとリハーサルだけで、初めての会場でよく手際よくあれだけ出来たものだと、今思い返してもそのみなさんのてきぱきした行動に驚くばかりである。約10歳くらいは若返った軽快な身のこなしではなかっただろうか？

10時の打ち合わせの時点から参加の会員それぞれの人がセミナーの主役になりきっていたと思う。会員外で受付た参加者は予定より遙かに少ない最終的に62人だったが、会員の席を前方に配置したり、報道機関の取材があったりで、借りた123名収容の会議室はほぼ満員状態に見えた。みんなの紅潮した顔から、自分たちのやったことに対する満足感が感じられた。

ドキドキはらはらしながらも、プログラム通りの進行が出来たことはこれもこのセミナーに寄せるみんなの熱意が通じたからだと思った。参加したいけど退職を前にしてもう休みは取れない、休んだら退職前に首になるといっていた会員の堤さんが、当日会場に……。目を疑った。堤さんだけでなく参加したくても参加出来ない会員さん達の懸命の応援を身体で感じていた。九州会員の結束は本当に固かった。堤さん首にはなっていないでしょうね。

●セミナーの内容

ロングステイという言葉さえ十分に理解していない参加者が多いことから、映像と経験豊富な体験談でわかりやすく説明すること、南の会をきちんとPRすること、九州支部の参加会員全員がロングステイに寄せる思いを発表すること、会場からの質問を出来るだけ引き出すことなどを念頭にセミナーの構成を考えた。熊本はまだまだロングステイについての関心度が低いように感じている。こんな素晴らしい世界を知らないばかりにリタイア後の暮らしを身を縮めて送っているというのは何とも不幸だと思う。

映像による説明には、丁度グッドタイミングで放送されたTBSの報道特集の番組を時間を短縮して使わせてもらった。その前に、以前放送された番組を2つほど使って15分ものに編集していたのだが、制作した放送局に問い合わせたりしたもの著作権の問題が完全にクリア出来てなく、どうしようかと迷っていたので助かった。

メインとなる基調講演は南の会の広報活動に深く貢献されておられる高澤氏に、南の会の紹介と幅広い経験からロングステイのイロハについて、パワーポイントを使ってわかりやすく説明頂いた。講演依頼直後からメール発信させて頂き、こちらの準備の進み具合をお知らせしながら講演の内容との整合性を図ってもらいたいと、ご迷惑も考えずに多い日には1日に何回もどんどんどんどんメールした。当日プロジェクターの担当になっていた深松会員はこのセミナーのためにパワーポイントのソフトを購入し、メールと電話で高澤氏と直に打ち合わせをされていた。

チェンマイ在住で九州支部会員の森園氏の体験談は会場に笑いの渦を巻き起こした。内容の意外性もさることながら語り口が何とも楽しい。10分は短かすぎた。

もうひとかた福岡県八女出身、加藤氏はご夫婦で特別参加して頂き、別のチェンマイの魅力を語ってもらった。奥様のタイシルクのドレスが素敵で、男性のゴルフ、女性のドレスから始まってチェンマイが一躍輝きを見せた。

会員がそれぞれ持ち時間55秒でロングステイに寄せる思いなどを自己紹介した後、その後のパネルディスカッションは、九州会員のステ

イ先の体験情報を中心に話を進めた。ロングステイは特別な人だけが夢見るものでないことを伝えたかった。私も司会をしながら聞いていて、初めて耳にする情報もあって興味深かった。特にカナダに長期滞在経験のある濱田会員に質問が集中し、ご夫婦で回答にご奮闘頂いた。

●最後に

今回セミナー開催に当たり、ほんとにたくさんの方々からエールを頂いた。ほんの私一人の希望でお願いしたことが大きな動きとなって、思いがけなくいろいろな分野の人との新しい出会いがあり、リタイアしてのんびり体制に入ろうとしていた脳に幸か不幸か新たな活力を吹き込まれてしまった。私はともかく、騒ぎに巻き込んでしまった九州会員の方々に申し訳ないと思っていたが、もう忘れ去ろうとしていたことを体験出来た、良かったと感想をもらいホットした事だった。

会員のみなさんには同じ事を何度も繰り返しお願いしながら、結局自分は最後まで持ち分のリハーサルどころか、カンニングペーパーを揃えるので精一杯だった。他のみんなにして頂くことばかり気になって、自分がすることはいつでも出来ると後回しにしていたつけが残り2日になってドカーンと来た。遊んでいたわけではなかったが大事な仕事が残っていた。配布用プログラム作り、垂れ幕作り、配布用資料の封筒つめ、個人情報に配慮した受付名簿の作成、など。でもやらねばならないことがはっきりしていたから、楽しかった。初めて挑戦する拡大印刷を利用しての垂れ幕作りももたもたしたけど、また一つ技を覚えて、嬉しかった。パソコン様々だった。

セミナーの様相がその日のニュースで放送され、新聞記事も以外と大きく掲載して頂いたので、参加されなかった方からの問い合わせもあるなど、熊本の地に少しは話題を振りまいたと思う。南の会への入会は今一であるが、あわてて決めないでゆっくり考えてと話している。

準備期間が短く、今考えれば反省点ばかりが頭をよぎるが、本部からの応援と九州会員のみなさんの当日のがんばりに感謝感謝で終わった熊本セミナーだった。

この場をお借りしてあらためてお礼を申し上げ

ます。ありがとうございました。

海外近況報告

ロタ在住

会員No. 398 山本 隆

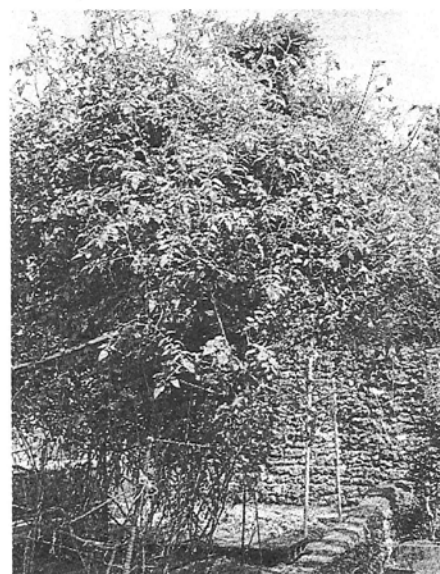
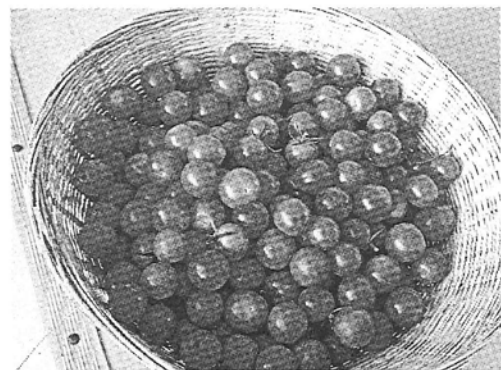
家内が昨年9月庭の菜園に植えたミニトマト、随分成長し2.5mにも達しました。

5ヶ月以上にわたり毎朝沢山の収穫でした（最盛期は写真の様にざる一杯）

乾季も終期、トマトもぼちぼちお仕舞いです。

1.5年前に植えたパイナップル9株に立派な実がなっています。

見て楽しいですので食べるのが勿体無く今から思案しています。



東海セミナー報告

愛知県在住 会員No. 749 山本 義典

本稿は会報用ですのでMLと重複することを予めお断り申し上げます。

比較的天気にも恵まれた今年5月の連休、皆様、それぞれ楽しく過ごされたことと推察します。

2005/5/8(日) PM 1:00から愛知青年会館にて、5月サロン会が開催されましたので、その次第を以下のとおり報告します:

出席者数: 26名 (総務570山田善一様司会)

① 南の会【東海支部】会員数の現状報告 (山田善一様)

全国レベルで退会者が、大幅増(90名)となっているのとは逆に、東海支部の退会者は前年に比べ、減少しています。その一方、入会者が増えたため、差し引き10名の会員増となりました。

東海支部の会員数の現状は以下のとおりです:

昨年7月末	70名
入会者	16名
退会者	▲6名
本年3月末	80名

東海支部の会員80名はまとまりが良く、協調性も抜群で、皆様のご協力の賜物と感謝いたしております。

② 東海支部の将来を確かなものとするために【提言】 (横井保夫様)

3年前、東海支部がスタートした時点での会員数は10名、それが本年3月末時点での会員数は80名、家族を含めると100名を優に超す規模にまで急成長したことはまことに喜ばしい。私は支部長として3年間がんばってきましたが、いつまでも支部長の職にとどまるのも問題である、と認識しており

ます。東海支部が今後とも発展しつづけるためには(支部長を含む)役員交代を真剣に考えてよいのではないかと、と思います。来年の改選期に向け、皆様の中から積極的に役員を買って出る気運の盛り上がりを期待しています。

③ ペナン・ツアーの報告

(山本義典)

5月の連休、衝動的にペナン・パッケージツアーに参加しました。

スマトラ沖地震で被害を被ったペナン島の現況について報告させていただきます。宿泊したホテルはペナン島での被害が集中したバツ・フェリング地区に立地していたが、当該地区に現在被害の爪あとは全く無い。完全に復旧したと言ってよい。欧米からの観光客が多数見受けられ、バックパッカーの姿も多い。ビーチリゾートは嘗ての賑わいを取り戻しつつあるように見受けられた。地区内外で、コンドミニアムの巨大な広告看板が目につく。笠井幸司様によれば、バツ・フェリング地区西方(フェリング・ヒル)で大規模な不動産開発が進められている、とのこと。



街角で見かけた不動産広告

バツ・フェンギ以外の地区も巡ってきました。特に興味深かったのはジョージタウン新市街の内、プラウティクスです。この街は日本人駐在員とその家族が多く住んでおり、そのため、他の地区以上に日本料理店の数が多い。(日本屋台村、春日、むらさき、故郷、樹林、……) 街の中心には大規模な朝市があり、それを囲むように、銀行、郵便局、診療所、レストラン、コンビニなどが配置され、生活する上での不便は全く無い。メインストリートではバスが拾え、旧市街(コムタ、中華街)へのアクセスも良い。もしも、朝市から至近距離のコンドミニアムに住むことができれば、自家用車無しでの生活も可能、と考えられる。プラウティクスのショッピングセンター、'One Stop'は終日、多くの買い物客で賑わっていた。活気のある街、という印象であった。



プラウティクスの和風レストラン「日本屋台村」

ツアー中、ペナン支部の方々には大変お世話になりました。ペナン支部長の竹岡様ご夫妻、前支部長の木村様ご夫妻、そして支部メンバーの小野様、この場をお借りして感謝申し上げます。今後ともよろしくお願いいたします。

④ ボルネオ体験ツアーについて

(笠井幸司様)

コタキナバルを起点に東マレーシア(ボルネオ)の大自然に触れるツアー

参加者氏名	5月	6月	7月	8月	9月
554 笠井幸司様 (ご夫妻)		7/9	↔	7/23	
719 佐伯孝廣様 (ご夫妻)		7/9	↔	7/17	
779 中田宏様 (ご夫妻)		7/9	↔	7/17	

(5月31日現在)

⑤ チェンマイ/バリ島体験ツアーについて

(横井保夫様)

(1) チェンマイ

チェンマイを基地にタイを満喫するツアー

参加者氏名	5月	6月	7月	8月	9月
589 小坂宇治夫様 (ご夫妻)	5月 末	←	→	8月 末	
487 横井保夫様★		6/28	↔	→	9月 中旬
704 前田靖代様		6/28	↔	7/7	
563 松井己和子様		6/28	↔	7/7	
549 松本美代子様★		6/28	↔	7/25	
679 中山初代様★		6/28	↔	7/25	
840 岩田彬様		7/12	↔	7/15	
154 井野寛紀様			8/4	↔	8/18
487 横井範子様			8/16	↔	8/30

(メンバーの一部(★)はバリ島のツアーにも参加されます)

(5月31日現在)

(2) バリ島

ウブド(バリ島)をメインにバリの魅力にどっぷり漬かるツアー

参加者氏名	5月	6月	7月	8月	9月
445 山本信様		7/2	↔	7/12	
420 森廉人様		7/2	↔	7/12	
530 浅野光利様		7/2	↔	7/12	
155 宇井泰業様		7/6	↔	7/12	
487 横井保夫様★		7/7	↔	7/14	
549 松本美代子様★		7/7	↔	7/14	
679 中山初代様★		7/7	↔	7/14	
749 山本義典、 庸子		7/9	↔	7/19	

(メンバーの一部(★)はチェンマイのツアーにも参加されます)

(5月31日現在)

⑥ 愛知万博見学会について

(鈴木憲介様)

万博会場内のロータリーホールで計画いたしましたサロン会は、中止とします。サロン会会場(ロータリーホール)の予約が申し込み済にもかかわらず、見学会参加者は東海支部28名のみ、という残念な結果に終わりました。他支部からの応募が無い以上、あえて高額な支出(使用料は2時間で42,000円)をしてまで会場を確保する意味も無いため、キャンセルすることとしました。(キャンセル料21,000円は免除してもらえる見込み)

サロン会は中止ですが、万博見学会は、計画通り決行します。AM9時30分、万博北ゲートを入ったところで集合。その後は、各々、グローバルコモン6(東南アジア、オセアニア出展区域)を始め、会場内の各施設を自由に見学していただきます。

昼12時、一緒に特定のレストランで食事したいと思います。(AM9時30分、集合場所にて、皆様に会食の場所を伝達します) 帰りは、各々の都合でめいめい帰っていただくこととします。

⑦ Skype (スカイプ) のススメ

(高橋昭様)

(1) Skype (スカイプ) ってなんだ?

Skypeとは、スカイプ社(Skype Technology S. A. 本社:ルクセンブルク)が公開、提供している、P2P(ピアツーピア)技術を利用した、音声通話ソフトです。簡単にいえば、今使っているパソコンを、電話機に変えるソフトです。ソフトのダウンロード料金、ソフトの利用料金は無料。その上、Skypeユーザー同士による通話は世界中、時間無制限で無料となる。(通話料無料) Skypeを始めるのに必要なものはパソコンとマイク(ヘッドセット)だけ。面倒な工事や設定も一切無し。そのた

め、利用者数は現在100万人を突破、ますます増加の一途を辿っています。

(2) P2P (ピアツーピア) 技術とは?

P2P技術とは、「接続されたコンピュータ間に上下関係が存在しないネットワークの形態」を指すものとされています。くだけていえば、インターネットで特定のサーバーを介さずに接続する方法のことを言います。IP電話がサーバーや交換機を中継して通信するのに対し、SkypeはP2P技術を利用し、ユーザー同士を直接つないで通信させます。利点はネットワークの設計が容易なため、導入コストが安いこと、反対に、欠点はネットワークから高度な機能を提供することが難しいことである。ただ、この点に関しても、技術進歩により近年急速に改善が進んでいます。

(3) フツの電話にはできないこんな機能

Skypeは、単なるタダ電話にとどまらず、一般の電話にはできない以下の機能を備えています:

(もちろん、フツの電話にある「留守電機能」や「着メロ機能」は当然備わっています)

- I. 多人数同時通話 皆でワイワイガヤガヤおしゃべりできる、最大5人まで
- II. テキストによるチャット 話せないことも文字で伝えられる、最大50人まで
- III. ファイル転送 デジカメ画像などのファイル転送が可能

このように、Skypeを利用すれば、色々なことが可能になります。

(4) 固定電話/携帯電話への発信は?

オプションのSkype Out(スカイプアウト)サービス(有償)を利用することにより、固定電話や携帯電話にもかけることができます。IP電話同様、国内や国際通話は通常より低料金で電話をかけることができるようになっています。(IP電話との通話料の比較は次頁文末を参照のこと)

⑧ このあと、3つの分科会に分かれて、グループ単位での討議を行いました。

※ IP電話（ソフトバンクのBBフォン）との通話料の比較
(Skype ユーザー同士の通話は無料)

【分科会1】

ボルネオ体験ツアーに関心のあるグループ
(座長：笠井幸司様)
参加希望者のみで打合せをし、計画を具体化。

【分科会2】

チェンマイ/バリ島体験ツアーに関心のあるグループ
(座長：横井保夫様)
参加希望者のみで打合せをし、計画を具体化。

【分科会3】

パソコンの操作に関心のあるグループ
(座長：高橋昭様)
パソコンの操作、殊にメールの高度な利用法についての情報交換。

同日、午後5時より場所を懇親会会場(名古屋観光ホテル1F ジャルダン)に移し、楽しい歓談の機会を持ちました。

電話の通話先	Skype Out の通話料	BB フォンの通話料
日本	0.02 ユーロ/分 (約 2.7 円/分)	7.5 円/3分
日本 (携帯電話)	0.11 ユーロ/分 (約 14.8 円/分)	25 円/分 (8~23時), 20 円/分 (23~8時)
米国	0.012 ユーロ/分 (約 1.6 円/分)	2.5 円/分
米国 (アラスカ、ハワイ)	0.02 ユーロ/分 (約 2.7 円/分)	2.5 円/分
英国	0.012 ユーロ/分 (約 1.6 円/分)	23 円/分
中国	0.012 ユーロ/分 (約 1.6 円/分)	32 円/分
韓国	0.012 ユーロ/分 (約 1.6 円/分)	31 円/分
オーストラリア	0.012 ユーロ/分 (約 1.6 円/分)	23 円/分

以上

関東支部パソコン教室参加者募集中

現在 2箇所にてパソコン教室を開講しております
初心者から経験者までその方に合わせて、基本操作から応用操作まで。悩んでいる問題も解決。今話題のスカイプ電話も詳しく教えていただきます。講師は当会インターネット委員会とサポート契約をしております「トータルサポートぷらざ」宇野 修先生です。

(助手は菊池女史)

南の会で初めての方もパソコンを使いこなし楽しい仲間作りに参加いたしませんか。お待ちしております。

[春日部(埼玉県)教室]

開催日 日曜日 月/1回 13時~17時 会費 1000円/回

問い合わせ 連絡先

会員番号712 高田 勝弘 048-736-0873

[川崎(神奈川県)教室]

開催日 木曜日 日曜日 月/3回 13時~17時 会費 1500円/回

(連続、単日でもOK 会場費及び講師交通費が違いますのでご了解下さい)

問い合わせ 連絡先

会員番号240 菊地範夫 044-287-0087

趣味のうどん、そば打ちを極める

千葉県在住 会員No. 858 竹内 昭

南国暮らしの会とはあまり関係がなく、私の趣味の話で申し訳なく思います。

サラリーマン時代、転勤で四国高松市に赴任していたとき、近い将来、定年退職したら趣味を持っていなければ、楽しい人生を送ることが出来ないのではないかと考えていた矢先、カルチャーセンターの広告に[讃岐うどん打ち方秘伝教室]が催されることお知り、即申し込みを行い、月2回、3ヶ月6回の実習体験であったが、私は6回の実習体験では満足できず次の教室にも参加し、基本的な讃岐うどんの打ち方は身についた。特に大切な点は、粉をよくこねることと、時間をかけて熟成させること、これをきちんと行えば、コシの強いうどんを作ることが出来ます。

教室の参加人員8人で実習が主体であり、遠くからは大阪より高速艇に乗って習いに来られていた人もいた。その後、しばらくして私は転勤で東京にもどり、住まいは千葉の習志野に落ち着き、定年退職を迎えたのである。今関東では讃岐うどんがブームになっていますが、我が家では私の打ったうどんお店で食べるよりおいしいとの事。自惚れかな？

うどん打ちは何とか身につきましたので、今度はそば打ちに挑戦、そば粉を製粉店で購入し説明書どおりに作りあげて行くのであるが、そば粉とつなぎ粉が繋がらない、出来上がったそばがボソボソになり切れてしまい、そばにならない、何度も繰り返しそば打ちするが同じであり、失敗である。

自己流の打ち方では、そばはうどんと微妙に違い、難しく正式に習わないと無理と判断いたし、そば打ちを止めて降りましたが、習志野市広報にそば打ち体験教室、3日間定員20名の募集があり即申し込み受理された。指導者はそ

ば打ち名人、中川幸也氏（一茶庵で修行）他に早稲田大学習志野稲門会そば部会の指導者5名により開催された。

指導者が打ったそばと我々が習った通り、打ったそばと、指導者が打ったそばを試食するのであるが、うまさ全く違い感心させられた。体験教室終了日、指導者と参加者とが懇談会があり、ほとんどどの参加者が、このそば打ち教室を継続して頂との意見が多くあり、後にサークル活動として、毎月2回開催することが決まり、そば打ち探究つづけて2年が経過するまでに至りましたが、自分で満足するそば打ちが出来る様になったのは、ここ一、二ヶ月前ぐらいです。そば打ちには奥が深いことを知らされました。

昔から旨いそばの条件と言えは「挽きたて、打ちたて、ゆでたて、」の「三たて」。劣化の早いそばは、手際よくさっと調理して食べなくては、本当のおいしさはあじわえないのではないのでしょうか。どんな料理でも、一生懸命手をかけて作った物はうまいものですね。

積極的なお出かけ情報を

過日のスマトラ沖地震で会員の方も被害を受けました。

また海外滞在中に事件・事故に巻き込まれるケースも想定されます。

会員の方にこのような事態が発生した場合、会としてもいち早く状況を把握する必要があります。

このような観点からも海外へのお出かけ情報は従来にも増し積極的に出して頂くようお願い致します。

人生ひととおりに おおいに楽しむシニアライフ

埼玉県在住 会員No.814 平賀 國廣

性格形成期

私は1937年生まれの丑年なので第2次世界大戦の敗戦を迎えた時、国民小学校2年生の夏の暑い日だった。疎開先の神奈川県湯河原で中学1年まで過ごしたが、生家の目黒は焼夷弾で跡形も無く焼け野原となり、父が残してくれていた世田谷九品仏の貸家に一時帰京した。湯河原は熱海と違い静かな山間の温泉街だった。

十国峠から山肌を流れ落ちて、町の中を藤木川が流れている。川を中心に神奈川と静岡との県境である。小学生の6年間勉強をした記憶が殆どない。特に5、6年生の担任は戦地帰りで痩せこけ元気のいい川口政一先生だった。音楽の好きな先生で、「青い鳥バンド」の名前で地域では結構有名になった。

6年生になったある日の放課後、私は一人教室に残され「今から伊豆山の志賀直哉先生のところに行き新聞の記事を書いてもらって来い」6年2組で発行している『青い鳥新聞』勿論当時はガリ版印刷のB4版だ。当時志賀直哉がどの様な人物かまったく知るはずもなく、担任の命令は絶対的教育の時代で、仕方なく一人駆け足で2時間ほどかけ志賀邸に着いた。見るからにお手伝いさん風の女性に事の次第を話したがまったく受け入れてもらえず、仕方なく手ぶらで学校に帰った。

職員室に灯りが点いていて、川口先生が一人私の帰りを待っていた。私は気落ちしながら結果報告をすると先生は怒り出してこう私にどなった。「相手がどんなに偉い人間でも、例え天皇陛下の前でも自分の思っている事が話せない人間は屑だ！」私の粘りの無さを指摘したのだろう。一瞬私は直立姿勢をとった。当然ビンタが飛んでくると覚悟を決めていたからだ。しかし次の瞬間先生は急に優しい声で「君は明日午前中にもう一度行って頼んでみなさい」と言われた。

翌朝学校に行かず家から直接伊豆山の志賀邸に向かった。昨日と同じお手伝いのおばさんが

出てきたので、今度は度胸を決めて大きな声で「記事を少しでいいですから書いてください」お婆さんの顔を見上げて頼んだ。しかし「先生は今日は仕事なの。ですから伝えられません」とそっけなく云われた。私は困った末にこう言った「昨日もそして今日もお願いに来ましたが先生に記事を書いて貰えなかったと言うことを新聞の記事として書きます」とっさに出た言葉にしてはあまりにも子供らしくない言葉ではなかったと、今になってつくづく思うのである。

学校に着くと教室では皆が作業中だった。私は先生の前に行き、教壇に立つ先生に志賀直哉邸での事の次第を丁寧に説明した。「そうか、大変だったな。それでは次は奥湯河原の安井曾太郎先生のところから今から行き頼んで来なさい」。

男子生徒24人、女子生徒20人の学級だが皆勉強をしている様子は無く、工作の時間の様に竹ぼうきや塵取りを作っていた。手作りの品物を町に売りに行くのが放課後の生徒の役目だった。先生から地図を描いてもらったとおりに安井邸に着くと、中から奥さんらしきお婆さんが出てきたので、自分が何の目的で来たか丁寧にゆっくりと話した。お婆さんは「そうですか、一寸待っててね」と言い残して奥に入ってしまった。その時のお婆さんの顔がやけに優しく感じたのを記憶している。

30分ほど待たせただろうか。出てきたお婆さんの手に一枚の原稿用紙が握られているではないか。「時間が無いから先生が少しだけ書いてきましたよ」と言って原稿用紙を私の目の前に差し出した。

私は何度も頭を下げお礼を言ってから、四つ折にした原稿用紙をしっかりと握って学校に引き返してきた。早速川口先生に原稿用紙を手渡すと、それを広げて暫く読んでいた。最後のサインが「安井曾太郎」と書かれているのを見届けると、私の方を見て『良く頑張った！このサインは本物だ』と言ってクラスの皆の前で「平賀が安井曾太郎先生の原稿を取って来た。トッ

ブ記事で新聞を作ろう」先生の声も少し上ずっていたように聞こえた。4～5日後だったと思うが出来上がった新聞をクラスの何人かで安井先生の所に届けに行った。

其の後一ヶ月ほどたち、今度は安井曾太郎先生直筆の「美しい心」と書かれた色紙を私達のクラスに贈られたらしい。このことを知ったのは、いまだに続いている青い鳥クラス会で、15年前に開催されたクラス会の時、川口先生の口から知らされた。その数年後先生は他界したが、その色紙のコピーをしたものを私は今でも大切に額に入れて自分の部屋に飾ってある。

今の学校教育では到底考えられない当時の教師の指導方針では、生徒も親も体罰は当たり前だった。川口先生がクラス全員を一行に並べて往復びんたを食らわされたのは皆良く記憶していて、其の後開かれるクラス会の度に先生に『あの時は本当にいたかったぞ』と文句を言っていた。しかし当時のそんな生徒指導のおかげで私の性格形成がなされたとは言い難いし、考えにくい事ではあるが、戦後の困難な時代を過ごして来た我々の年代の者は少なからず経験した事で、決して当時の体罰に対して恨みなど持つ者はいないだろう。

こうして育まれた自分の性格は変えようが無く68歳の現在に至るまで、あらゆる困難に立ち向かった時におおいに役立ってきた事を思えば、川口政一先生に感謝しなくてはなるまい。

なかがき

殆どの書物に、まえがき、あとがき、があるが、なかがきは少々気がひけるがここで少し書かせてもらおう。私が南国暮らしの会を知ったのは、私の住む町の図書館で読んだ『悠々パース暮らし』の中に会の紹介があった。昨年6月23日から8日間の日程でペナンとキャメロンハイランドにLSの下見の旅をして帰国後、次はパースえと思ひ資料を探し始めた矢先だった。7月22日に申込書を送り入会が認められた。幸いパソコンを少し始めていたのでメーリングリストにも参加させてもらった。

子供の頃から読書嫌いだった私は、文章を書く等と云うことは自分の世界の話ではなかった。4年前、北海道から現在の埼玉県にUターンして、暇つぶしにがてら越谷NPOセンターが開

催した「おじさん変身講座」に参加した。その時の仲間で「シニアネット変身ing」と云う会を立ち上げ33人ほどのメンバーで現在も活動している。この会については後ほど少し書かせてもらうが、その時川口市の会員に『ふだんぎ』という書き物をする会を紹介された。北海道から九州まで26の支部を持つ結構な会で、私は家の近くの春日部支部に入会した。

会の創始者は既に他界されているが大変立派な方で、記念碑は高尾山の登山道の中程にあり、毎年8月4日、即ち橋本をもじり会員が自主的に記念碑の前に集合している。創始者の言葉は数々残されているがその一部を紹介する事で、私が拙文ながら、ふだんぎに投稿をする機会を得た事により、文章を書く気になったのでここに是非その一部を紹介したい。

みんなの文 橋本義夫

名文も美文もあってよい。文章職人の文もあってよい。同時に万人の文があってよい。自転車は実用の具だが、稀には曲芸の具であってもよい。だが、一般人が曲芸を模範にして実用の自転車乗りをすれば、馬鹿気きった話だ。普段言葉が、講釈師や、漫談家や、職業話術家を模範にし、これが正統であるという理屈はない。

文章が、文章職人の文章を模範とし、正統とし、その他を蔑視し、まちがっているなどと思ひ込むことはとんでもない馬鹿げたことだ。職業話術家の話術があつてよいごとく、職業文章家の文章があつてよい。この場合、これだけを過大評価する必要はない。万人の文もよい。万人は万人の言葉で話してよい。万人は万人の自己流の文でよい。要するに文は過去の人に読ませるのではない。現在及び未来の人々に読ませるのだ。人にわかるように書けばそれでよい。

その他沢山の名言を残されているが、私を勇気付けてくれた言葉は「下手に書きなさい、書くことが好きになりなさい」の一行である。春日部支部では既に55号まで出版されている。1年に2回の発行だから28年の歳月を皆さんで頑張っている。しかも毎回230ページの立派な本である。私はまだ数回のみ投稿をしてないが、窓口の方が原稿集めから、校正は10人ほどの会員の方の手で入念に行われている。

南国暮らしの会の会報も既に28号を発行した。しかし毎号担当は大変なご苦勞をされている。今回原稿の依頼を受けて私は皆さんのように海外ロングステイの経験談を書くほどネタの持ち合わせが無いので、少し外れていると思うがお許しを頂きたい。

私の書いた文章を見て、この程度なら書けるぞと思われる方が多く出る事を願っている。是非今後の会報に進んで投稿してみても如何でしょうか。

退職時期の理想

今から23年ほど前の話だが、妻と初めて香港の旅をした。団体旅行とはいえ、5組の夫婦だけで気楽な旅だった。高層ビルの谷間を分けるように到着した空港の出口で、歓迎看板を手にした初老の紳士が私達のツアーガイドをしてくれた陳さんだった。流暢な日本語で私達を確認するとホテルまでバスで送ってから夕食をホテルの中華飯店で済ませた。そのあとガイドの陳さんが希望者だけにコーヒーをご馳走するとの提案に私達も喜んで手を上げた。

陳さんの案内で別のホテルの大きく吹き抜けたガーデンテラスの様な綺麗なお店に案内された。陳さんが奨めるコーヒーが洒落た器で運ばれてきた。コーヒーを飲みながら『香港は初めてですか』と話しだしてから陳さんがなぜ今香港ツアーのガイドをしているか話し始めた。

陳さんは長い間弁護士として香港で仕事をしてきたが、人生先が見える年齢になりふと自分が今までしてきた弁護士の仕事をこれから先一生続けて終る事に疑問を感じ始めた時、残された人生を楽しく過ごすには何か自分が満足できる仕事をしたいと、月に4~5回だけガイドの仕事をしているとの事だった。

当時まだ50前の私にとって、陳さんのその話に大変刺激を受けた。私自身小さな会社を30歳の時に始め20年間は猛烈に働き、50歳になったらリタイヤしよう決めていた。幸い長男が跡継ぎの為に造園課のある高校から大学を卒業して、大手の造園工事会社に就職してくれた。

私達造園業界では、跡継ぎが4年間他人の会社で辛抱し家に戻って来ると家業を継ぐと云われていたので、少なからず私も長男に期待を賭

けていた。

しかし息子は入社早々会社から表彰されたりした事がかえってプレッシャーとなったのだろう。其の後毎日残業続きの生活をするようになり、次第に体調を崩して2年で退社し、さっさと自分で他の会社に就職してしまった。この事が私のリタイヤの時期を大きく狂わせる結果となった。

其の後もタイ、シンガポール、マレーシア等ツアーで旅を重ねていたが、会社が入会していた福祉財団でハワイに保養施設としてワイキキバナニアン26階と30階の2部屋を購入し会員に貸し出しを始めた。早速私達も申し込み6日間借りてハワイに行く足がかりとした。ハワイを訪れる誰もが感じる共通点の、空気の旨さ、澄みきった青い空、青い海、爽やかな風を肌で感じ取るうちに、真剣にハワイに移住しようと、妻と話すようになった。

オアフ島、マウイ島、ハワイ島と土地やコンドミニアムを探しに毎年2~3回ハワイ通いをするようになり、現地に友達も出来てすっかり退職後はハワイに移住するつもりでいた。しかし結局最後はグリーンカードの取得で断念せざるを得なかった。ハワイの友人に紹介された日系3世のガイドをしている方は、前職は歯医者さんで70歳を過ぎた元気な方だった。その方も香港の陳さんのように、ガイドが好きで「頼まれればしている」程度に楽しみながら働いていた。

幸い私の会社を友人の弟が引き受けてくれる事になり、1年間は私が役員で残る条件で予定より3年遅れの53歳の時、念願のリタイヤをする事が出来た。

妻も私も東京生まれで、田舎が無い寂しさを子供の頃味わっていたので、せめて孫には田舎をと考えて無謀であったが北海道に移住を決めてしまった。

退職後はただの人

「政治家は落選すればただの人」とはよく聞く言葉である。会社人間も退職すればただの人である。定年前の10年くらい前から老後の計画を練っていた人は別として、その辺に不器用な御仁は、いざ定年を迎えたとおおいに困るのである。素材ごみ、濡れ落ち葉などありがたく

ないお言葉を頂戴する結果になる。4年前、北海道から移住してきた越谷は古い町で、旧国道沿いに未だに屋根瓦の低い軒先のある商店が数軒並んでいる。このご時勢だから商売になるのか、よそ者の私でも通る度に客のいない店の中を覗きながら心配している。

所謂東京のベットタウン化して夜間人口は増加しているが、住民の平均年齢は低いとはいえ、年々リタイヤ組みのただの人が増加している。そんな折、越谷NPOセンター主催の退職者をターゲットにした「おじさん変身講座」を開催した。私の住むマンションの3階が会場だったことで暇つぶしに参加してみた。4日間の長丁場だったが、驚いた事に40人の定員が満杯だった。

玉川大学の講師の話や大して面白くも無かったが2日目の自由訪問先で私は3人の方と「あおぞら学級」と云う養護施設の見学をした。次の日各施設を見学した感想の発表会があり、結構真面目に取り組んで発表している姿は、さすがは年の功と感心した。

4日間行動を共にしたことで、何処の誰かも分からない同志が一転して、折角こうして知り合えたのだからこれを機会に会を作ろうと提案者が出た。

数日後幹事役から召集があり「庄や」と云う居酒屋に30人程が集まった。退職後とはいえ60歳前後の元気な男性ばかりで、現役当時接待で鍛えた胃袋と会話力で飲むはしゃべるはで、こりゃ駄目かと思いきや、さすがまとめ役がいて会の結成にこぎ付けた。会のネーミングについてはかなり時間がかかった。結局「シニアネット変身ing」で落ち着いた。

かなり広い範囲から会員が集まり、今年3年目を迎えた。再就職で退会した者もいるが会員数は健在で現在33名の誠にまとまりのある会になった。年4回の会報発行、去年は越谷市の依頼で無料PC教室を2回延べ4ヶ月実施して市民に喜ばれた。桜の季節には必ずお花見会や、美術観賞会、ゴルフ会は勿論の事、特筆すべきは「男の料理教室」を2ヶ月に1回開催して、ご飯を炊いた事がない、包丁を持った事がない会員が最近はかなり態度が大きくなった。

これもみな「退職後はただの人」になりたくないと感じつつ努力している現われである。

【メーリングリストから】

マレーシアでロンドン交響楽団合唱団の第九
KL在住 会員No. 302 末 英樹
昨晚MPO (Malaysian Philharmonic Orchestra)、ロンドン交響楽団合唱団によるベートーベン第9のリハーサルを見学する機会に恵まれました。

MPOは国営石油会社のペトロナスによって運営されており、世界中から演奏家を公募、日本人の演奏家は7名、そのうちのお一人が下記URLの古澤君です。

クアラルンプールのツインタワーの中に自前のコンサートホールを持ちリハーサルもこのホールで行われました。

第九演奏の為の指揮者はオランダから合唱団(80名)はロンドンから、ソリストはニュージーランドからの招聘との事でした。

我々は主に第九の第4楽章合唱つきの練習を見ることができ、指揮者は勿論オーケストラも普段着で演奏、観光客のような服装の80人からの見事なコーラスの練習風景、そして声量のあるソリストの声等々、演奏会では絶対見ることのできない経験でした。

途中で止めてはダメを押す指揮者、何回も演奏しなおしては確認する作業がきっちり1時間で終わりました。残念なことに私には殆ど違いが判りませんが。

第九の本番は今週末ですが、一連の練習風景等、MPOコントラバス奏者古澤君の日記をご覧ください。

MPO日記。

<http://diary.jp.aol.com/jptyey/>

ホボ毎週末コンサートが開催されている梅雨の無いKLでした。

春季号から始まった「わさびの利いた一口英語」は都合により今回は見送りとします。

国内支部長会議報告

支部推進担当 会員 No. 3 池田 徳三郎

日時 平成17年6月5日(日) 9時～14時

場所 目黒さつき会館

出席者 北海道支部工藤支部長 東北支部和田支部長 甲信越支部橋本副支部長 関東支部市東副支部長 東海支部高橋副支部長 関西支部三谷支部長 九州支部稲延支部長 酒匂理事長 宮寄副理事長 池田会長 菊地功理事 大野理事 菊地範夫理事

酒匂理事長挨拶

最近の各支部活動活発化、支部組織の充実に向け努力されていることに感謝申し上げます。

又、事業報告、会計報告の定形化にご協力頂き昨年の支部長会議の成果として感謝申し上げます。当会に於いて益々支部が重要な役割を果たすことになり、支部長、支部役員の皆様の役割は大切になってきましたが支部の実情にあった範囲で無理のない活動を期待します。

1：会計報告等について

一部の支部からの要請もあり具体的参考例を掲載し、誰でも理解できるように補足した内容を池田理事より説明が有りました。質疑の後了解されました。

2：平成16、17年度各支部活動記録、計画の纏めについて菊地功理事より添付資料にもとずき詳細な説明がありました。

3：平成16年度各支部の会計報告が大野理事より説明がありました。

4：平成17年度国内支部補助金

北海道支部 25000円 講師謝礼10000円

東北支部 20000円

甲信越支部 20000円

関東支部 45000円

東海支部 55000円 講師謝礼20000円

関西支部 35000円 講師謝礼15000円

九州支部 35000円 講師謝礼15000円

質疑の後了解されました。

5：支部報告

北海道支部 支部のメーリングリスト作成、新入会員が増えている
海外旅行会の計画検討中

東北支部 設立3年目を迎え役員の協力のもと支部総会がマスコミにも取り上げられ、仙台でのサロン会も行われるようになりました。ねぶた祭りにあわせた支部総会も検討中です。

- 甲信越支部 海外在住者、ロングステイヤーが多い支部です。また広範囲の地域になっているので年一回の宿泊支部総会が特徴です。今後路線別に集約をとの意見もあります。
- 関東支部 路線ごとに地区をわけ地区会組織を発足させた。今後宇都宮、水戸、小田原地域等の対策を考えています、パソコン教室、英会話教室、料理教室等の活動を通じ情報交換、仲間作りが進んでいます。
- 東海支部 会員数が急激に増加していますので定例会をはじめ集まりの回数を多くしています。支部役員も人材豊富で、名古屋を中心に集まりやすいことも恵まれている要因です。
- 関西支部 3月末 森川前支部長が退任 三谷支部長が後任となりました。支部メーリングリストを作成、今後支部役員をふやし旅行会など支部活動を活発化させてゆきます。
- 九州支部 支部役員にも恵まれ楽しい支部活動にしています。熊本でのセミナーも成功裏に終わり自信を持ちました。支部メーリングリストも立ち上げました。

6：質疑応答

会計報告の補助金使用記入項目について質問があり池田会長から説明了解されました。補助金の配分について会員数割合も配慮すべきとの意見があり今後活動状況も加味し検討することで了解されました。

総会での細則改定問題について詳細な説明をしてほしいとの意見があり、酒匂理事長より説明があり了解されました。

その後フリーディスカッションとなり相互に情報交換いたしました。

海外近況報告

クアラルンプール在住 会員 No.430 田村 泰夫・明子

64歳と62歳の夫婦です。クアラルンプール暮らしが早二年半になりました。重度の冷え性に苦しんでいた家内はこちらにきて、いろいろな不快な症状から解放されすっかり元気になり喜んでます。

日本語がペラペラのマレーシア人を中心に親しく交際しており、また春と秋に一時帰国して、ロングステイを楽しんでいます。

マレーシアロングステイは基本的に魅力的だと評価できます。親日的で豊かな自然に恵まれ、物価も安いです。しかし、何年ものロングステイは各人の独自のものですので、十分な事前調査としっかりした心構えが必要です。

生活スタイル、マナーなどは勿論のこと、交通事故や犯罪などのトラブルに対しても、国情の違いを理解して対応する気持ちがないと、大いに戸惑うこととなります。

編集後記

- ◇ 夏季号は平成17年度総会で承認された報告事項があります。いずれも重要なもばかりですのでご一読下さい。
- ◇ 去る4月24日に行われた春季号の発送作業には次の方々に協力して頂きました。ありがとうございました。(敬称略)
平賀 國廣 高田 勝弘 山田 宏秀 伊藤 寛
平澤 佳子 岩瀬 光子 細田 良子 今野 力男
- ◇ 会報担当の平尾守満さん、細田良子さん、島田榮一さんが退任されました。いままで大変な思いをされ会報作成にご尽力頂きました。ご苦労様でした。平成17年度よりは龍野宏、市東明義、菊地範夫、小林孝、村松幸子、渡辺亜雄の6名で会報を担当致します。皆様のご協力よろしく御願い致します。
- ◇ 次回「秋季号」は10月発行です。原稿締め切りは8月末が目安です。

(龍野 記)



記事の無断転載・複製を禁じます。

発行者 特定非営利活動法人(NPO法人)
「南国暮らしの会」

理事長 酒匂 景輝

〒140-0002 東京都品川区東品川3-22-20-1208

TEL 03-3472-9916 FAX 03-3472-9954

NANGOKUNANGOKUNANGOKU



NANGOKUNANGOKUNANGOKU